

「おいしさ・健康・美」を追求する私たちの社会的責任



CONTENTS

| | |
|------------|---|
| 編集方針 | 3 |
| 会社概要 | 5 |
| トップコミットメント | 7 |

| | |
|---|---|
| 特集 “植物のチカラ [®] ”を通じて、 「美しい生活」(Well-being)を創造する | 9 |
|---|---|

| | |
|---------------------|----|
| 日清オイリオグループのCSR | 21 |
| 日清オイリオグループのCSR活動の状況 | 25 |
| CSRを支える基盤 | 29 |
| お客様のために | 40 |
| 取引先様とともに | 48 |
| 株主・投資家の皆様とともに | 50 |
| 従業員とともに | 53 |
| 社会のために | 57 |
| 環境のために | 65 |
| 第三者意見 | 85 |

編集方針

日清オイリオグループは2007年に創立100周年を迎え、同時に次の100年へのスタートを切りました。これからの100年も「植物のチカラ」の可能性を追求し、健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)をお届けする企業グループとして、日頃から積み重ねてきたCSRへの取り組みを報告します。

●目的

お客様、取引先様、株主・投資家の皆様、従業員、社会・環境など、当社グループを支えてくださるさまざまなステークホルダーの皆様に、私たちが社会的責任についてどう考え、どのような取り組みをしているのかを報告することを目的としています。

●情報開示の方針

2008年度(2008年4月～2009年3月)の取り組みを報告する「CSR報告書2009」は、PDFと紙冊子の2つの媒体を通じて情報を開示しています。

「CSR報告書2009」(紙冊子)：読みやすさやメッセージ性を考慮して当社グループが注力している活動を中心に報告

「CSR報告書2009 — 詳細版 —」(PDF)：各活動の方針・取り組み・実績など詳細な情報を掲載

紙冊子版、詳細版ともに日清オイリオホームページよりご覧いただけます。

ホームページ：<http://www.nisshin-oillio.com>

2つの媒体での情報量のイメージ



●報告書の構成

この報告書は、当社グループが、食に携わる企業として、CSRの取り組みにおける重要課題は何か、どうあるべきかについて特集としてとりあげました。また、私たちが掲げるCSRへの基本姿勢、ステークホルダーごとの取り組み内容を紹介します。

より読みやすい報告書とするために、ユニバーサルデザインに配慮しています。

●参考にしたガイドライン

この報告書はGRIの「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第3版」や環境省の「環境報告ガイドライン2007年版」などを参考に、独自にステークホルダーを選定し、報告項目を決定しています。

●報告範囲

日清オイリオグループ株式会社と連結子会社(国内・海外)を含むグループ全体を対象としています。ただし、環境パフォーマンスデータと一部の取り組みについては、日清オイリオグループ株式会社単体を対象としています。(報告書中での表記について、日清オイリオグループ株式会社単体を「当社」、日清オイリオグループ株式会社と連結子会社(国内・海外)を含むグループ全体を「当社グループ」としています)

●報告対象期間

2008年4月1日～2009年3月31日

一部に当該期間外の取り組みが含まれています。

●発行

2009年7月

●CSR報告書2008からの変更・修正点

CO₂換算係数の変更や集計方法の見直しのため、CSR報告書2008で報告した数値を変更しました。なお、この修正により、これまでご報告した実績が大きく異なるということはありません。

- ・CO₂排出量および排出量原単位(CO₂換算係数の変更による) →P72
- ・特定荷主としてエネルギーの使用に係る原単位の2007年度実績(集計方法の見直しによる) →P74

●お問い合わせ先

日清オイリオグループ株式会社

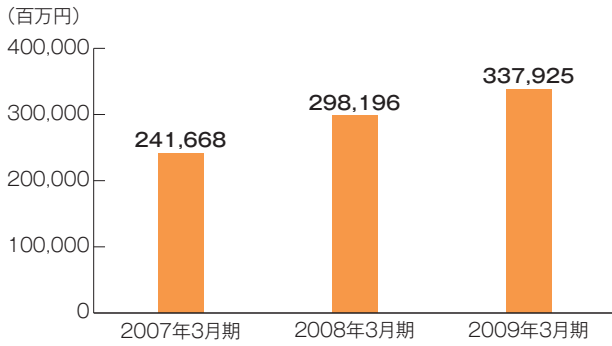
CSR推進室

TEL.03-3206-5026

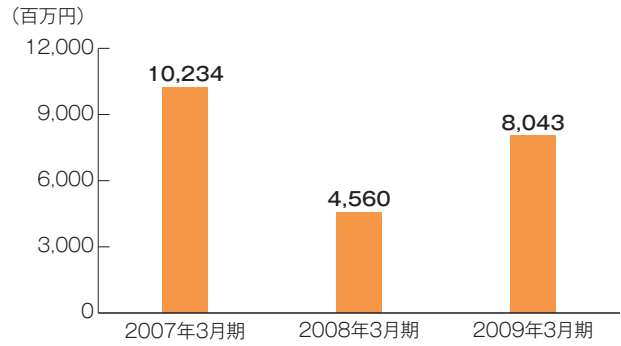
会社概要

- 商号 日清オイリオグループ株式会社
- 本社 〒104-8285 東京都中央区新川一丁目23番1号
TEL.03-3206-5005
- 代表者 取締役社長 大込一男
- 創立 1907年(明治40年)3月7日
- 資本金 16,332百万円(2009年3月31日現在)
- 売上高 3,379億25百万円(2009年3月期・連結)
- 経常利益 80億43百万円(2009年3月期・連結)
- 従業員数 2,724名(2009年3月31日現在・連結)
- 事業所 本社、大阪事業場、横須賀事業場(中央研究所)、横浜磯子事業場(横浜磯子工場)、名古屋工場、堺事業場、水島工場、札幌支店、仙台支店、関東信越支店、東京支店、名古屋支店、大阪支店、広島支店、福岡支店、郡山営業所、新潟営業所、長野営業所、埼玉営業所、西首都圏営業所、横浜営業所、静岡営業所、北陸営業所、四国営業所、岡山営業所、鹿児島営業所、横浜神奈川事業所(2009年3月31日現在)
- グループ主要会社(2009年3月31日現在)
 - 連結子会社 攝津製油(株)、日清商事(株)、日清物流(株)、大東カカオ(株)、(株)NSP、(株)マーケティングフォースジャパン、日清プラントエンジニアリング(株)、(株)ゴルフジョイ、日清サイエンス(株)*、日清マリンテック(株)、日清ファイナンス(株)、ヤマキウ運輸(株)、陽興エンジニアリング(株)、もぎ豆腐店(株)、大連日清製油有限公司、上海日清油脂有限公司、日清奧利友(中国)投資有限公司、SOUTHERN NISSHIN BIO-TECH SDN.BHD.(SNBT)、INTERCONTINENTAL SPECIALTY FATS SDN.BHD.(ISF)、T.&C. MANUFACTURING Co.,Pte.Ltd.
※2009年4月1日付で、日清オイリオグループ(株)は日清サイエンス(株)を吸収合併しました。
 - 持分法適用関連会社 和弘食品(株)、(株)テンコーポレーション、(株)ピエトロ、幸商事(株)、(株)日清商会、張家港統清食品有限公司、統清股份有限公司
 - 特例子会社 日清オイリオ・ビジネススタッフ(株)
 - その他子会社 大連日清糧貿有限公司

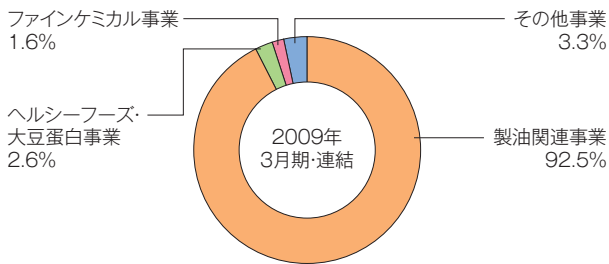
●連結売上高



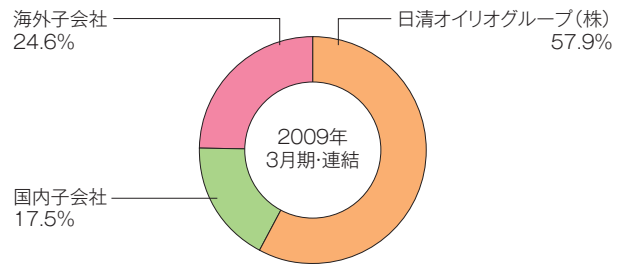
●連結経常利益



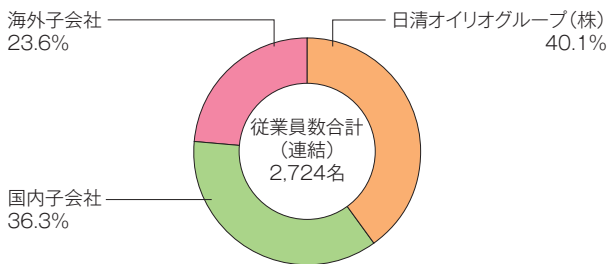
●事業別売上構成比



●グループ売上構成比



●グループ従業員構成比



トップコミットメント

“植物のチカラ[®]”で世界に貢献します

世界へ「健康」を広げる

私は、植物には人々を癒す力があると考えています。食事をおいしくすること、人を健康にすること、人を美しくすること、どれも人を癒す力です。

それを私たちが技術を磨くことによって上手く引き出し、お客様にお届けしてまいりました。おいしく食べて人を健康にする「ヘルシーリセッタ」は、当社グループの経営理念を体現する商品であるといえます。

健康の追求は万国共通です。「ヘルシーリセッタ」は、日本の特定保健用食品にあたる認定を、2009年春までに台湾、韓国、中国で取得してまいりました。特に、中国は当社の創業時には大連に搾油工場をおくなど、かかわりの深い地であり、中国の人々に健康を提供できるのは嬉しいことです。

グローバル化と経済の発展に伴い、日本だけでなく世界で多くの人々が肥満や生活習慣病に悩んでいます。「ヘルシーリセッタ」は世界の人々に健康という側面から貢献することができます。今後も、より多くの人々に健康を広げていきます。

安全・安心・安定供給

ここ数年、食品の安全性や表示の信頼性に社会から深い憂慮が寄せられています。食品企業として、安全は絶対に守らなければならない使命です。当社グループは、2007年に創立100周年を迎えましたが、長年、お客様にご支持をいただいていた100年企業として、積み重ねてきた経験とより高い水準の取り組みによって、これからも安全を守っていきます。

お客様に安心して選んでいただくには、当社グループのブランドに対する信頼を高めることが重要です。私たちは「日清オイリオ」という自らの顔で事業を行っており、100年企業としての信頼もここに宿っています。また、社団法人日本植物油協会でも業界全体として取り組むために「信頼性向上のための自主行動指針」をつくり、安全・安心への心構えを新たにしました。当社は業界をリードする立場として、そして100年企業としてお客様の信頼に応える事業活動を行います。

一方で、安定供給も、安全・安心とともに不可分のものです。ナショナルブランドとして、常に安全な商品を安定してお届けするという使命があります。2008年は夏まで原料高騰が著しく、非常に厳しい状況でした。もちろん、企業としてはすべての力を注いで安定供給に努めていきますが、一企業では限界もあります。今後はメーカーだけでなく、業界や政府、消費者も含めて、食の安定供給体制について真剣に考えていかなければならないのではないのでしょうか。このような議論の提起もしていきたいと考えています。



環境に“植物のチカラ[®]”から取り組む

温室効果ガスについては、工場におけるエネルギーの重油からガスコージェネレーションへの転換や、海外生産の増加に伴う国内での搾油量減少により、総量としては減少しています。一方で、原単位の削減は搾油量の減少により、さらなる削減が難しくなっています。

そのため当社としては、より独自性のある取り組みを通じて環境保全に貢献したいと考えています。考え方としては、「石油に依存しない世界への転換」、「燃料を化石燃料でない再生産可能なものに」ということです。私たちはこの取り組みを“エコロジー”と“オイリオ”のふたつの言葉から「エコリオ」と命名し、新たな用途の研究・開発を行っています。

具体的には、2009年1月に発表した新素材「フィットポーラス」は、大豆の皮を利用して新たな機能を見出したものです。この素材には電磁波吸収特性があり、さまざまな用途が期待できます。他にも、パーム油に使われるアブラヤシの未利用部分を食用以外の用途に有効利用できないか、ということも考えています。コーンなどの食料や飼料になる作物をバイオ燃料の原料にするのもったいないことです。当社は、環境に役立つ“植物のチカラ”を、非食用分野を含めた広い領域へ適用していきます。

技術と人を磨く

当社の中央研究所は設立から50年を迎えました。これまでさまざまな技術を開発し、さらにこれからの50年に向けた研究の方向性を検討しています。特に、日本国内は少子高齢化によって食品の市場が構造的に縮小する傾向にあります。このような状況では、技術によって「おいしさ」「健康」「美しさ」といった機能を究めていくことが重要です。そのために、当社だけでなく、他の企業や大学、研究機関と連携し、より高い価値を導き出したいと考えています。

研究開発も含むすべての事業活動の根幹にあるのは「人」です。人材育成はすべてに優先して考えなければなりません。当社は2009年度から、新しい人事制度を導入しました。これからは、あらゆる事業活動が日本国内だけでなく、世界へと広がっていきます。この状況に対応するために、企業人としてだけでなく国際人として世界で認められる人材を育成していきます。

国際人として重要なのは、「相手とともに栄えていこうという理念」です。自分たちだけ儲ければよいということではありません。事業のパートナーや相手国とともに発展するという考え方で、当社グループの事業は展開しています。

このことは企業活動全般にいえることです。企業にはさまざまなステークホルダーがありますが、当社グループは経営理念として、すべてのステークホルダーを同等に尊重しています。特定のステークホルダーを優先するということではなく、どのステークホルダーとも均等にフェアに対するということです。これはまさに、社会全体に対する企業の責任であり、今後も継続して遂行してまいります。

最後に、本報告書に関心をお持ちいただきましたことに感謝申し上げますとともに、ステークホルダーの皆様からの忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

日清オイリオグループ株式会社
取締役社長

大 辺 一 男

特集 “植物のチカラ[®]”を通じて、 「美しい生活」(Well-being)を創造する

当社グループは、1907年の創立以来、植物がもつ3つのチカラ、

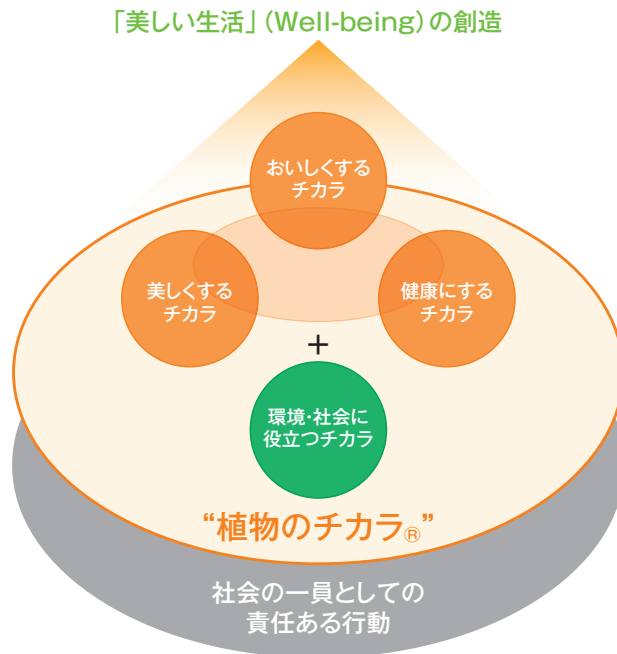
「おいしくするチカラ」「健康にするチカラ」「美しくするチカラ」を技術によって引き出し、世の中にお届けしてきました。

「おいしく」食べて、「健康」になり、さらに「美しく」なる。

この喜びの循環を、健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)として、提案・創造していきます。

そして、食品以外の分野においても、“植物のチカラ”を活用し、社会や環境に貢献します。

●ブランドコンセプトに基づくCSRの概念図



「100年積み重ねた技術」によって、“植物のチカラ[®]”を引き出します

私たちは「植物のチカラ」を最大限に引き出すために100年以上をかけ絶え間ない技術革新を続け、常に社会のニーズに応える商品を開発、提案してきました。例えば、当社を代表する製造技術のひとつとして「酵素エステル交換技術」がありますが、この技術をもとにさまざまな機能の商品や環境負荷に配慮した製法を生み出してきました。いま、健康オイルとして注目を集めている「ヘルシーリセッタ」もこの新しい技術により生み出された商品です。

こうした当社の技術は食用の油脂ばかりでなく、ファインケミカル事業領域や環境事業（エコリオ）領域へと、その用途を大きく広げています。



健康に寄与する“植物のチカラ®”

私たちは“植物のチカラ”とともにおいしさや、自然の恵みといった安心感をこめて商品に食卓にお届けすることで、日々の暮らしの中で健康に貢献することができると思っています。植物は、健康に寄与する多くの特性を持っています。例えば、植物油においては、効率の良いエネルギー源という基本機能に加え、リノール酸、リノレン酸など、健康を維持するために欠くことのできない必須脂肪酸の大切な供給源となっています。また、あまり知られていませんが、美容や健康維持に欠かせないビタミンEの効率の良い供給源にもなっています。

近年、特に研究が進んだパームフルーツやココナッツなどに含まれる中鎖脂肪酸は、エネルギーになりやすい特長を活かして、体脂肪対策に役立っています。代表的な油糧種子である大豆に豊富に含まれるたん白質は、良質でヘルシーな素材として、近年注目されています。他にも大豆には、イソフラボン、オリゴ糖といった健康維持をサポートする大切な成分が含まれています。また、最近、特に話題となっているGABAなどは、発芽した大豆に豊富に含まれることが知られています。

この他にも、植物由来の成分には、さまざまな機能があります。一例ですが、代表的な植物成分「食物繊維」は、食事からの糖の吸収を穏やかにし、血糖値が気になる方に適した商品として利用されています。

私たちは、“植物のチカラ”を活かした商品を開発し、製油事業、ヘルシーフーズ事業、大豆蛋白事業などを通して皆様の食卓にお届けしています。

●健康にするチカラの例

植物油

- ・ 効率が良いエネルギー源として
- ・ リノール酸、リノレン酸など、必須脂肪酸の供給源として
- ・ 美容や健康維持に欠かせないビタミンEの効率の良い供給源として

中鎖脂肪酸

- ・ エネルギーになりやすい
- ・ 体内に蓄積しにくい(体に脂肪がつきにくい)

大豆に含まれるヘルシー成分

- ・ たん白質、イソフラボン、オリゴ糖、GABAなど



大豆



菜種



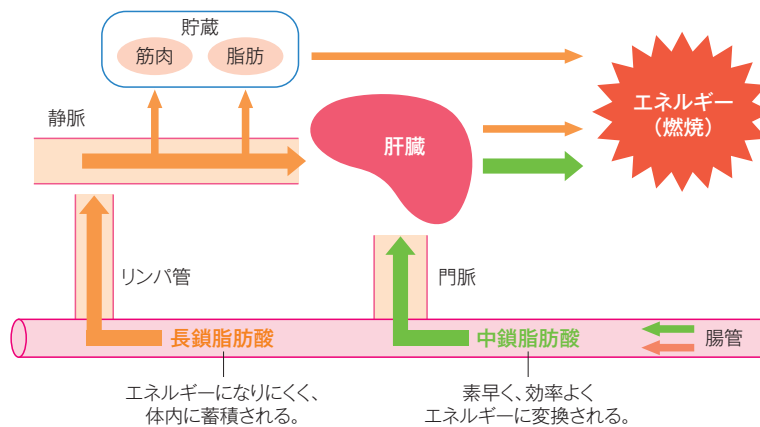
パーム

2つの大きな特長をもつ中鎖脂肪酸

- エネルギーになりやすいという特長
- 体に脂肪が付きにくいという特長

中鎖脂肪酸は、炭素の数が8～10個と、普通の植物油に含まれる脂肪酸(長鎖脂肪酸)の炭素数に比べて約半分程度の短い飽和脂肪酸で、母乳に約3%、牛乳・乳製品の脂肪分に3～5%、ヤシ油・パーム核油などにも7～14%程度含まれています。その最大の特長は、食べた後エネルギーになりやすいことです。普通の植物油に含まれる長鎖脂肪酸は、体に吸収された後、リンパ管、静脈を通して脂肪組織、筋肉、肝臓に運ばれて蓄積され、必要に応じて分解されエネルギーとなります。それに比べて、中鎖脂肪酸は消化吸収が約4倍速く、しかも門脈を経て直接肝臓に運ばれ、すみやかに分解されてエネルギーとなります。そのため脂肪として蓄積しにくいのです。

● エネルギー代謝の流れ



私たちは、中鎖脂肪酸のすぐれた効果にいち早く注目し、研究開発に取り組んできました。現在では、中鎖脂肪酸を利用した商品を幅広く展開しており、2003年に日本国内で発売開始以来、ご支持をいただいている健康オイル「ヘルシーリセッタ」もその商品の一つです。

中鎖脂肪酸にこめた「美しい生活」(Well-being)への願いを世界的に展開

当社グループでは、中鎖脂肪酸にこめた健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)への願いを、世界的に展開しようとしています。その第一弾として、2005年9月に台湾行政院衛生署から日本の特定保健用食品に相当する「健康食品」の認可を受け、2005年12月、台湾の食品流通・小売業最大手「統一企業」との提携により「ヘルシーリセッタ」を「統一綺麗健康油」として現地のコンビニエンスストアや量販店等を通じて発売しました。台湾において「体に脂肪が付きにくい」効果をうたった商品の販売は初めてのことです。



続いて2007年から韓国国内で食品市場に大きな影響力をもつ「ロッテグループ」との提携により「LOTTE ヘルシーリセット 日清オイリオ」の商品名で一般食品として普通の食用油として販売を開始しました。2008年には法律的な制限がなくなったことから、食用油の健康機能食品での申請が可能となり、2009年3年に認可を受けました。

急激な人口増加と経済成長により、食用油需要が急増している中国では、健康食品の認可に非常に厳しい条件が課されます。当社グループは、健康食品として中国国内での販売を行うため、関係官庁に粘り強く働きかけを行ってきました。中国語や英語での論文やプレゼンテーション資料を作り、学術的見地から商品の長を何度も説明することで理解をいただき、2007年9月に製品としての認可を受けることができました。

その後、製造工場の認可を受けるために、徹底した製造管理・品質管理を要求されるGMP (Good Manufacturing Practice)をはじめ、HACCP等の認証を取得。衛生部や、国家食品と薬品监督管理局(SFDA)の製造許可を受け、2009年4月より販売を開始しました。

「体に脂肪がつきにくい」効果を通じて、経済発展に伴って増えつつある肥満や生活習慣病への対応を進め、世界の人々の健康に貢献したいと考えています。

中国北京での学術セミナー協賛

2008年4月、北京市において開催された中国栄養学会と日中健康科学会主催の「肥満や生活習慣病への対策」をテーマとした学術セミナーに協賛し、日中における、栄養・健康増進分野での交流活動を支援しました。

セミナーの中では、当社グループのヘルシーリセットに含まれる成分である中鎖脂肪酸のもつ抗肥満への効果について講演の先生方より発表され、中国においても当社グループの健康への取り組みが紹介されました。



セミナーの開催風景



中国の皆様のため

日清奧利友(中国)投資有限公司 副総経理 兼中国技術センター長
日清オイリオグループ(株)中央研究所 副所長
呉 堅

私たちは「中国版ヘルシーリセット」の現地での生産にあたり、GMP*という制度に基づく工場の建設から始める必要がありました。建設にあたっては、既存の製品の生産ラインを残しながら、GMPに対応した設備を作るため、手作りの部分が多く苦労しました。私たちが作る「中国版ヘルシーリセット」がこれから中国の皆様にご使用いただき、健康な社会の実現に貢献していければ大変うれしいと思います。今後も、万全の生産体制に向けて努力していきます。

*GMP: 医薬品レベルの高度な衛生管理が求められる製造管理および品質管理規則

食べることから健康を考える

私たちは、介護が必要な方や腎不全の方など、日々の食事に苦労されている皆様のために、「おいしく食べていただける」「食事が日常の生活に対する前向きな意欲につながる」商品をお届けするため、長年にわたり、患者の皆様や医療関係者など専門家の意見を取り入れながら商品開発を続け、利用者および関係者の方々から高い評価をいただけてきました。

健康には、バランスの良い食事が基本です。たんぱく質、炭水化物、脂質は三大栄養素といわれる基本要素であり、脂質をとることは健康維持に欠くことができないものです。一方で、生活習慣病やメタボリックシンドローム対策がいわれる昨今、脂質をとりすぎないということも重要になっています。

また、加齢や病気によって体の機能が低下し、栄養補給に苦心される方も増えています。

このように食に対する多様な機能が同時に求められる複雑な社会環境ですが、ますます私たちの取り組むべき領域が広がってきています。今後も皆様の役に立つ、さまざまな商品を提供していきます。

●食に関するニーズと効果

| | |
|-------------------|-----------------------------|
| 「おいしく食べる」 | ▶ 食事が生活への前向きな意欲につながる |
| 「三大栄養素のひとつ、脂質をとる」 | ▶ 健康維持 |
| 「脂質をとりすぎない」 | ▶ 生活習慣病やメタボリックシンドローム対策 |
| 「効率の良い栄養補給を」 | ▶ 加齢や病気によって体の機能が低下した方々のサポート |

高齢になってもおいしく食べたいという願いに応える

高齢者・要介護者の嚥下(えんげ)能力の低下に対応します

加齢や病気などにより食べ物や飲み物を飲みこむことが難しくなると、誤って気管に入ることが起こりやすくなります。そのため肺炎や窒息の危険を生じさせるほかに、食べる楽しみを失わせることとなります。さらには食欲低下に伴う「脱水症状」や「低栄養状態」となり「体力の低下」等を引き起こします。

私たちは従来、「食べ物や飲み物を飲みこむ能力」が低下している方に、食品にトロミをつけることができるトロミ調整食品の販売を行ってきました。医療機関や介護の現場の方とのコミュニケーションを重ね、実際に使用する方々の声を商品開発に反映し、多くの病院や介護施設、また市販品として好評をいただいています。このたび、病院・介護施設向けのトロミ調整食品「トロミパーフェクト」をご家庭でもお使いいただけるよう、従来までの通信販売に加え、店舗での販売を開始しました。





トロミ調整食品への期待

日本大学歯学部 摂食機能療法学講座 准教授

戸原 玄 氏

老化や何らかの疾患の影響によって、飲みこむ力が弱くなったり、飲みこむのが遅くなったりすると食べ物が入る誤嚥という症状が出る場合があります。このような飲みこむ力に問題を抱えた方に対して、安全に口から食べてもらうためにはトロミ調整食品の使用がとても効果的なのです。また、過去に存在したトロミ調整食品は“味が変わる”、“べとつく”、“固まるのに時間がかかる”などいくつかの問題点がありましたが、「トロミパーフェクト」はそれらをすべて解消したとても使いやすい製品です。このようなよい製品を正しく使うことで、口から食べることを安全に続けられる人が増えることを願います。

また貴社は、スタッフ研修用の資料などを積極的に作成し、医療現場の声を取り入れた商品開発を行っていますので、今後も「トロミパーフェクト」に続くよい商品が開発されることを期待しています。

在宅介護家族を支援する「ありがとう介護研究会」

2008年11月、在宅介護に関わるご家族やヘルパーなど介護を支える方々に対して、最新情報やコミュニケーションの場を提供し、在宅介護への理解を深めていただくことを目的に「第1回ありがとう介護研究会」を開催しました。

研究会のテーマは「よく生きるとは？ —食べることを楽しむために—」。トロミ調整食品により、高齢者や介護を受ける皆様にも食べる楽しみを提供したいと考えている当社からのメッセージです。

研究会では、お母様の介護を体験された女優の坪内ミキ子さんをはじめとする著名な方々を招き、約100名の参加者を前に講演していただきました。研究会は年2回程度の頻度で、今後も継続していきたいと考えています。



坪内ミキ子さん



研究会の様様

エネルギーになりやすい

中鎖脂肪酸を活用した商品群

私たちは、いち早く中鎖脂肪酸の効果に注目し研究を続けてきました。「中鎖脂肪酸」は食べた後、「エネルギーになりやすい」「脂肪がつきにくい」という特長があります。特定保健用食品として効果が認められた食用油「ヘルシーリセッタ」をはじめ、「ENE-CUBE(エネキューブ)」「プロキョアプリン」「リセッタソフト」など、さまざまな商品を展開しています。



血圧や血糖値が気になる方に

機能性の高い素材により、特定保健用食品として認められた商品群

生活習慣病対策として、血圧が高めの方に「マリンペプチド」、コレステロールの高い方に「きちんとキトサンビスケット」、食後の血糖値の上昇を抑える「食事のおともに食物繊維入り緑茶」、さらに、おなかの調子を整える「スキッと快通青汁」などの特定保健用食品を揃えています。



トランス脂肪酸への対応

トランス脂肪酸は、過剰に摂取すると血液中の悪玉コレステロールを高め、善玉コレステロールを減らします。

欧米では、食品中の含量を規制したり、商品表示に含量の記載を義務づけている国があります。当社は、トランス脂肪酸問題について、当社独自の立場からさらなる改善の取り組みを進めています。国内で基準はありませんが、米国食品医薬品局(FDA)には、一食当たりトランス脂肪酸が0.5g未満(油脂の場合100g当たり3.5g未満)の場合に0gと表示できる基準があり、当社は既にその水準に達しております。^{※1}

さらに技術的には、現在最も厳しいとされるデンマーク基準^{※2}を目指して管理を始めています。今後も継続的にトランス脂肪酸を低減する取り組みを進めてまいります。

※1 ただし、製造過程で水素添加を施した一部の業務用商品を除きます。

※2 油脂中のトランス脂肪酸の含有量を2%までとする制限が設けられています。

“植物のチカラ®”で健康的に美しく

「美しい生活」(Well-being)は当社グループが商品を通じて提供するコアプロミス(約束)です。

美しくあるには、まず身体が健康であること。食生活を通じた健康な身体が基礎となり、美しさにつながります。

私たちはその健康な身体にさらに美しさを添える安全で機能的な化粧品を“植物のチカラ”を活かすことで実現させるように活動しています。

身体の中から健康



化粧品による
肌の美しさと健康

近年、食品だけでなく、化粧品の世界においても「安全・安心」が重要な関心事項になっています。そこには、女性の社会進出に伴ってストレスが増え敏感肌の女性が増えていること、肌ストレスに対してよりやさしい化粧品を求める女性たちの希望、エコロジーなものを求めるライフスタイルの変化などがあります。より安全なものを、安心して肌につけられるものをと願う女性たちの気持ちに、“植物のチカラ”で応えていきます。

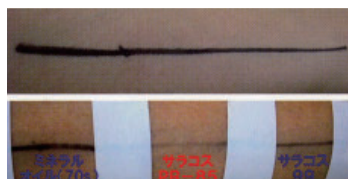
当社では、これまで石油化学系原料のみならず天然系原料でも実現できなかった機能を“植物のチカラ”で実現しています。こうした当社の取り組みが市場で評価され、メイクアップ用原料として、確固とした地位を獲得しています。



植物由来の化粧品原料の例

サラコスPR-85

クレンジングの機能に特化した油です。油性のマジックを落とすほどの機能を、植物由来で実現しました。



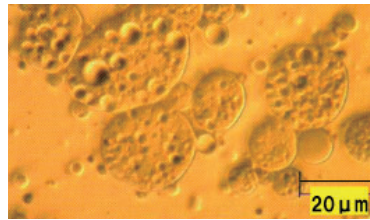
サラコスHG-8

水の比重「1」に限りなく近い油です。普通の油は水より軽いので浮いてしまいましたが、HG-8は水中に浮かせることが可能です。これにより、分離せずに安定した乳液をつくることができます。また、従来似た用途に使われていたシリコンと違い、しっとりとした感触を実現できます。これも原料はすべて植物由来です。



ノムコートTQ-5

植物由来の原料を用いた合成油。「W/O/W」(water in oil in water)という、最外層が水、その中に油の壁があって、その中にさらに水の層があるという3層構造のエマルジョンを実現します。これにより、最内層に入れた有効成分をゆっくりと肌に送りこむことができます。



ノムコートCG

わずか1%添加するだけで、こんにゃくのような固いゲルをつくることのできる増粘剤です。芳香剤のゲル状の中身としても使用されています。石油系の合成ポリマーでも似たようなものは作れますが、本品は植物由来です。生分解性があるので、釣りの疑似餌や浴用剤、美容シートとしての用途も考えられます。



環境に“植物のチカラ[®]”で貢献へ

世界的な人口の増加による食料需要の増大や、食用作物が燃料資源として使われたことに伴う穀物需要の増加などによる原料高騰があり、それらにより世界の食糧原料の需給バランスに影響が出ています。私たちは、食の安定供給の観点から食べられる植物は食用へ、食べられない植物を食用品以外へという基本方針のもと、環境・社会に役立つ“植物のチカラ”の非食用分野を含めた広い領域への活用を進めています。私たちはこの取り組みを“エコロジー”と“オイリオ”のふたつの言葉から「エコリオ」と命名し、新たな用途の研究・開発を行っています。

私たちはこれまで100年以上かけて培ってきた加工技術や新たな技術開発等により非食用分野を含めた幅広い分野で、環境に配慮した付加価値の高い商品開発や新しいビジネスモデルの構築を進め、“植物のチカラ”を活かした、環境、社会と人にやさしい事業を展開していきます。

その一環として、燃料用途への植物資源の活用を模索しており、インドネシアの試験農場では食用に適さない油糧種子の実験栽培を行っています。



●現在の取り組み

- ・新素材の開発
大豆の皮から作った新素材「フィットポーラス」
- ・工業用途への植物油の用途適用
アスファルト付着防止油、コンクリート用型枠の離型油「エコメイトシリーズ」
- ・燃料用途への植物資源の活用
インドネシアの試験農場での食用に適さない油糧種子の実験栽培



事例1 100%植物原料由来の新素材「フィットポラス」を開発

フィットポラスの特長

- 原料の環境負荷が小さい(大豆の皮の利用)
- 電磁波を遮蔽・吸収する
- ゴムに練り込める量が多い(カーボンブラック比約4倍)
- 安全性が高い(植物原料)

大豆油の製造段階で発生する大豆の皮を焼成した粉体が、「電磁波遮蔽吸収体」であることを発見し、多孔性炭素材料「フィットポラス」を発表しました。

これは、産学協同のプロジェクトとして三和油脂株式会社ならびに山形大学工学部飯塚研究室と共同で研究開発を行っています。

この「フィットポラス」は、特殊な炉を用いて独自の製法で炭化焼成した新しい炭素材料です。大豆の種皮を焼成した粉体であることから、環境面、健康面からも従来の石油系カーボンブラックに比べ安全性の高い素材となっています。その特徴は比重が非常に軽く、多孔質であること。また成分の特性から汎用ゴムに対する練り込み量が通常のカーボンブラックの4倍程度まで高めることが可能なため、電磁波遮蔽吸収体として、またそれ以外の幅広い分野での利用が見込まれる新素材です。

私たちの身の回りには、電子機器が溢れ、さまざまな場所から電磁波が発せられています。「フィットポラス」は携帯電話やパソコンといった身近な家電分野における利用にも期待されています。

さらに、植物の種類および炭化焼成条件を変えることで新たな機能が生まれることも見出しており、今後はさらなる研究、開発を進め「フィットポラス」シリーズとして商品化を予定しています。



自然の力と「フィットポラス」

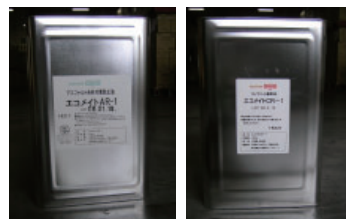
山形大学 理工学研究科 教授
飯塚 博 氏

「自然に学ぶ」、「バイオミメティクス」、あるいは「ネイチャーテクノロジー」という言葉を最近よく聞きます。地下に埋まっている資源を掘り出して使うのは止め、地上で手に入る日光や植物などを使い、あるいはそれからヒントを得たものづくりを目指す取り組みです。「フィットポラス」は、植物がもつ天然の多孔質構造を壊さず、また、そこに含まれる成分を有効活用することを念頭に開発された機能性炭素粉体です。これまでに、電磁波を遮蔽する特性に優れていることを見出しています。まだまだ私たちが評価し得ていない特性をもっている可能性もあります。「フィットポラス」は、自然の恵みと科学技術の発展が調和した未来を夢見させてくれる新素材です。

事例2 “植物のチカラ®”で人にも環境にもやさしいエコメイトシリーズ

エコメイトシリーズの特長

- 植物由来成分による高い生分解性
- 環境への負荷低減
- 人体への影響低減



エコメイトAR-1

アスファルト合材の付着防止剤です。道路工事の際にアスファルトが作業器具へ付着するのを防止します。従来、同じ用途に軽油や重油などの鉱物油が使われてきましたが、「エコメイトAR-1」により作業者の健康面への影響や、鉱物油の溶出による土壌汚染・水質汚濁などを軽減します。



エコメイトCR-1

コンクリート型枠の剥離材です。消波ブロックなどのコンクリートを作る際には、型枠にコンクリートを流し込み、固まった後に型枠をコンクリートから取り外します。その際、型枠には型枠剥離剤が使われています。従来は工業用潤滑油の廃油や鉱物油から作られている剥離剤がほとんどでしたが、「エコメイトCR-1」は植物由来成分のため、作業者の健康被害防止や、特に海岸や河川などの水辺で使用されるコンクリート構造物による水質汚濁のリスクを軽減します。



日清オイリオグループのCSR

CSRの基本方針

経営理念の実現を通じてステークホルダーの皆様の期待と信頼にお応えすることが、私たちにとってのCSRです。

日清オイリオグループの経営理念

1. 企業価値の追求と、その最大化を通じた人々・社会・経済の発展への貢献

私たち日清オイリオグループは、顧客・株主・従業員にとって存在価値のある企業グループとして、その存在価値の追求と最大化を通じて、顧客・株主・従業員および日清オイリオグループとともに歩む人々の幸せを実現するとともに、あわせて社会・経済の発展に大いに貢献し続けます。

2. 「おいしさ・健康・美」の追求をコアコンセプトとする創造性、発展性ある事業への飽くなき探求

私たち日清オイリオグループは、生産者・社会の視点にたち、「おいしさ・健康・美」の追求をコアコンセプトとする新たな価値を創造し社会に提供していく事業およびその周辺事業等の企業活動を通じて、絶えず、発展・進化していく企業グループであり続けます。

3. 社会の一員としての責任ある行動の徹底

私たち日清オイリオグループとその従業員は、地球環境問題への主体的な取り組み、社会倫理の遵守等を通じて、現代社会に生きる一員として責任を全うしている企業グループおよびその構成員であり続けます。

コアプロミス

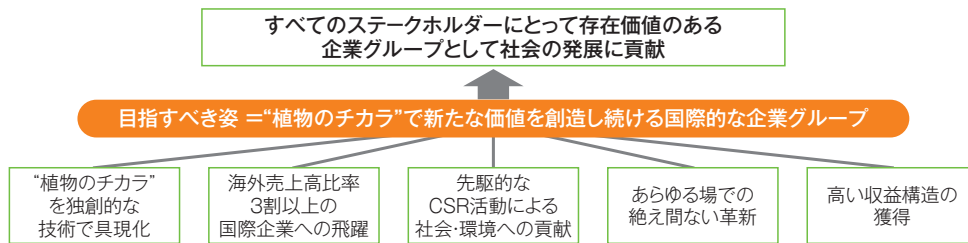
日清オイリオグループは、健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)を提案・創造いたします。そのために私たちは、無限の可能性をもつ植物資源と、最高の技術によって、あなたにとって、あったらいいと思う商品・サービスを市場に先駆けて創り続け、社会に貢献することを約束いたします。

経営基本構想“GROWTH 10”におけるCSR

2007年度からスタートした10ヵ年経営基本構想“GROWTH 10(グロース・テン)”および2007年度から2010年度までの4ヵ年経営計画“GROWTH 10”フェーズⅠにおいても、CSRについて明確に位置づけています。

10ヵ年経営基本構想“GROWTH 10” (2007年4月～2017年3月)

10ヵ年経営基本構想“GROWTH 10”の目指す姿では、構想の実現をとおして「すべてのステークホルダーにとって存在価値のある企業グループとして社会の発展に貢献」することが示されています。また、10年後の目指す企業像の一つとして「先駆的なCSR活動による社会・環境への貢献」を挙げており、社会・環境への誠実な貢献を通じて厚い信頼と高い評価を得る企業グループを目指すことを定めています。

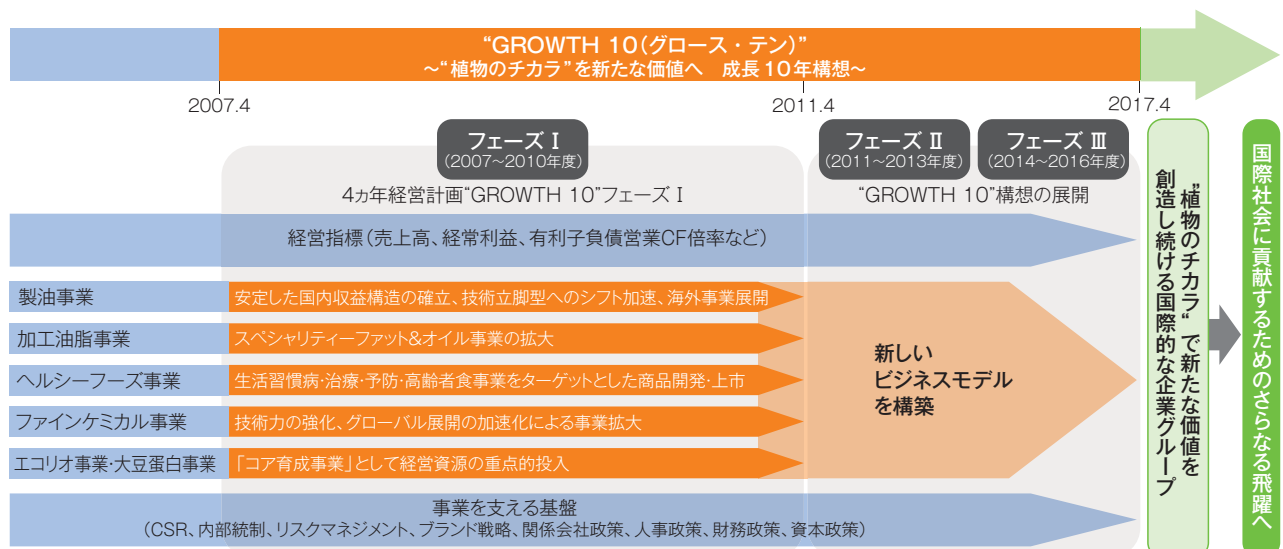


4ヵ年経営計画“GROWTH 10”フェーズⅠ (2007年4月～2011年3月)

4ヵ年経営計画“GROWTH 10”フェーズⅠでは、「事業を支える基盤」の一つとしてCSRの推進を位置づけています。また、主たるステークホルダーとの関係強化策を示しています。

“GROWTH 10”のスタートに合わせ、2007年6月に設置されたCSR推進室では、CSRを重視した経営の具体化に向け、主たるステークホルダーとの関係強化策の進捗管理を行うとともに、各職場におけるステークホルダーの明確化と業務を通じたCSR活動の推進を図っています。

●GROWTH 10の展開イメージ



※フェーズⅡのスタートにあたっては、フェーズⅠの総括を踏まえた中期経営計画を策定します。

CSRマネジメント

CSRの取り組みの基本方針

●意義・目的

- ・CSRとは、あらゆるステークホルダーとの関わりを重視し、「法的な責任を果たすこと」はもちろん、安全で安心できる商品・サービスの安定的な提供、環境問題への取り組み、社会貢献、情報開示など、「あらゆるステークホルダーからの期待に応えること」です。
- ・日清オイリオグループにとって、経営理念の実現そのものが、CSRに対する取り組みに直結するものです。
- ・日清オイリオグループは、CSRに対する主体的な取り組みによって、あらゆるステークホルダーからの信頼・共感の維持・向上を図り、企業の持続的発展、企業価値の向上を目指します。

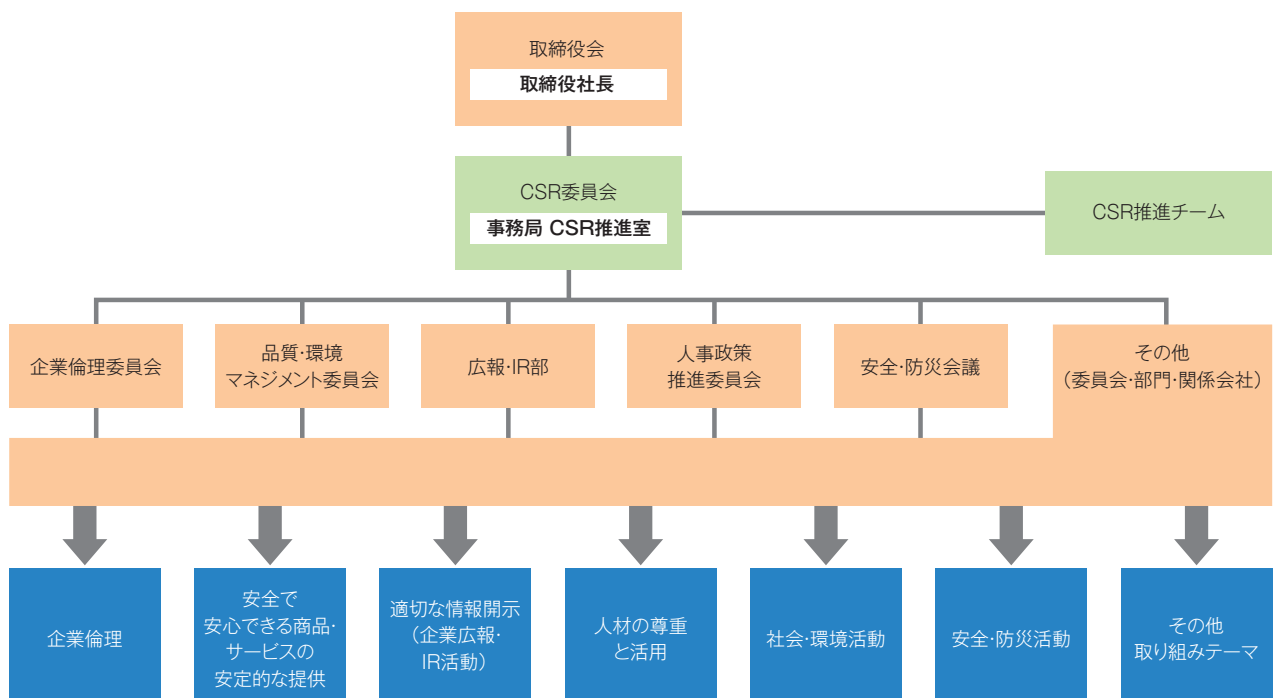
●行動指針

「日清オイリオグループ行動規範」をCSRに対する取り組みの行動指針として位置づけ、日清オイリオグループを構成する全員の主体的な取り組みを推進します。(行動規範の詳細は当社ホームページに記載しています)

CSRの取り組み推進体制

基本方針を立案・統括管理しているのが、「CSR委員会」です。また、2007年6月に、それまでの法務部を発展的に改組してCSR推進室とし、CSR委員会の事務局としました。また、CSR委員会のワーキンググループとして10名の中堅社員などから構成されるCSR推進チームを設け、月次会議を開くほか、CSR活動の全社展開を支援しています。

●CSR推進体制



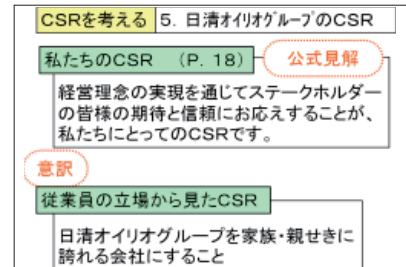
CSR推進活動

CSR報告書読み合わせ会の実施

CSR報告書2008の内容についての解説を通じてCSRへの理解を深めることを目的として、従業員を対象としたCSR報告書読み合わせ会を全国の拠点14カ所で開催しました(参加人数424人)。当社グループのCSR・環境への取り組み状況や課題についての啓発活動を行いました。



講演の様様



講演資料

CSR推進チームの活動

CSR委員会のワーキンググループとして部門横断的に組織されたCSR推進チームでは、当社グループ内でのCSRの普及や、より活発なCSR活動につながる施策について検討しています。

2008年度は、社会貢献活動の推進をテーマのひとつに検討を重ね、社会貢献方針(詳細についてはP55を参照)を策定しました。

また、2009年度は新たにCSR推進リーダーを当社の各部門および海外を含む連結子会社から選出しました。個々の職場におけるCSRの意識をいっそう高め、グループ全体のCSRのレベルアップを図ります。



CSR推進チーム会議

日清オイリオグループのCSR活動の状況

私たちは2005年6月にCSRに対する取り組みの基本方針を定めた際に、主たるステークホルダーを「顧客(お客様、取引先)、株主、従業員、社会・環境」としました。

各ステークホルダーへの取り組み方針とともに、2008年度の取り組み課題と私たちのCSR活動の現状、課題を報告します。

対象ステークホルダー：顧客(お客様)

【方針】

「おいしさ・健康・美」を追求した、安全・安心でお客様にとって価値ある商品・サービスを安定的にご提供し続けます。

お客様の声を絶えずお聞きして、“植物のチカラ”を、独創的な技術で商品・サービスに活かしていくとともに、お役に立つさまざまな関連情報を常に発信していきます。

| 2008年度 CSR取り組み課題 | 2008年度 CSR課題への取り組み実績 | 2008年度 自己評価 |
|---|---|----------------|
| 食の安定供給の継続的実現 | <ul style="list-style-type: none"> ・食糧危機とも言われた厳しい環境の中で、安定的な原料調達・製品供給を実現 ・ブラジルの大豆輸出ターミナル拡張事業の状況を実地調査し、安全性等を確認、調達経路のオプションに追加 →P42 ・名古屋工場のコンテナ受入設備を整備し、フレキシビリティの高いコンテナ船による輸入を開始。従来のバラ積み船舶に加え、貨物船調達の多様化を推進 ・原料調達や製品市場の状況等に応じ、国内3拠点と大連日清製油有限公司の間で搾油を適宜シフトする体制を確立 | ◎ |
| 現場点検重視の品質管理強化 | <ul style="list-style-type: none"> ・AIB管理手法による品質管理を国内製造4拠点の食品充填工程に拡大 →P44 ・トレーサビリティのためのデータベース(I-base簡易版)の導入範囲をグループ企業まで拡大 →P43 ・国内外のグループ会社を含むグループ会社全体に対し、「食の安全に係わる総点検」を実施(11月) →P44 | ◎ |
| 中国での保健食品製造に向けた品質保証体制の構築 | <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルシーリセッタの中国保健食品GMP(良好製造規範)認証を取得 →P44 ・アジア品質・環境マネジメント委員会の下部組織として、法規対応部会を設置 →P44 ・中国でコールセンター(お客様対応窓口)を新設 →P44 | ◎ |
| 中鎖脂肪酸の価値訴求活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・中鎖脂肪酸の持久力機能に関する訴求活動実施(栄養食糧学会、国際食品素材展、業務用有力店会、中国でのセミナー等) →P12 ・日本栄養士会と共同で、中鎖脂肪酸の機能を活かした生活習慣病予防のための食生活セミナーを開催(6都道府県) | ◎ |
| 「日清ベジフルーツオイル」による新カテゴリーの提案 | <ul style="list-style-type: none"> ・食品産業新聞「第38回食品産業技術功労賞」、日本食糧新聞「食品ヒット大賞優秀ヒット賞」を受賞するなど、市場に浸透 | ○ |
| 2009年度 CSR取り組み課題 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・品質マネジメントシステムの有効性の強化(フードディフェンスへの対応など) ・消費者ニーズと当社コア技術の融合による新しい価値の創造 | | |

※自己評価の◎は“達成”、○は“ほぼ達成”(ほぼ達成し、未達成分のみもついている)

対象ステークホルダー：取引先（販売先）

【方針】

フェアネス（公平・公正）に基づいた相互信頼のパートナーとしての関係を築き、共同で商品や市場を開発し、共に成長していきます。

| 2008年度 CSR取り組み課題 | 2008年度 CSR課題への取り組み実績 | 2008年度 自己評価 |
|--------------------------------|--|----------------|
| 相互資源の付加価値向上を目指す共同開発の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本コカ・コーラ(株)様との共同研究で、中鎖脂肪酸を配合した機能性飲料の持久力向上効果を確認し、「アクエリアス パワフルショット」として発売 →P49 ・食品メーカー様や外食産業様と共同で低トランス脂肪酸への取り組みを実施 →P49 ・(株)ビエトロとの業務提携に基づく、ドレッシングをはじめとした加工食品の共同開発・発売 ・当社が企画・運営し、パートナー企業の協賛を得て、介護専門家による講演や介護家族会交流の場「第1回ありがとう介護研究会」を開催 →P14 | ○ |
| 他メーカー、流通小売との協働による新規提案型販売促進の具体化 | <ul style="list-style-type: none"> ・日清フーズ(株)様との健康オイル通年企画「揚げ物横丁第二弾」をはじめ、オリーブオイル、ごま油を用いた他食品メーカーとの共同企画を積極的に実施し、小売市場を活性化 ・量販店を中心とした取引先を対象に「戦略的取り組み企業に対する政策説明会」を開催し、商品戦略の説明およびテーマ別の展示プレゼンテーション等を実施 →P48 | ◎ |
| 2009年度 CSR取り組み課題 | | |
| 外部パートナーとの協力・提携による新技術開発、用途開発の推進 | | |

対象ステークホルダー：取引先（調達先）

【方針】

フェアネス（公平・公正）に基づいた相互信頼のパートナーとしての関係を築き、共同で商品や市場を開発し、共に成長していきます。

| 2008年度 CSR取り組み課題 | 2008年度 CSR課題への取り組み実績 | 2008年度 自己評価 |
|------------------------|--|----------------|
| 相互資源の付加価値向上を目指す共同開発の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・日清物流(株)が(株)TDSコーポレーション様と荷崩れ防止結束帯“e-フィット帯”の一斗缶向け製品を共同開発 →P75 | ◎ |
| 2009年度 CSR取り組み課題 | | |
| 資材メーカー等と連携した容器品質の向上 | | |

対象ステークホルダー：株主・投資家

【方針】

健全な成長と安定した企業業績のもとで、株主様との双方向コミュニケーションの推進による良好な関係を築きながら、株主価値の向上、適切な利益還元を努めます。また、広く投資家の皆様に向けて、適切な情報開示を行います。

| 2008年度 CSR取り組み課題 | 2008年度 CSR課題への取り組み実績 | 2008年度 自己評価 |
|--|---|----------------|
| 株主・投資家の皆様とのコミュニケーションの強化 | <ul style="list-style-type: none"> ・株主様工場見学会を開催し、あわせて事業・商品の説明会、役員・社員との懇談・意見交換会も実施 →P50 ・証券会社支店での個人投資家セミナーを実施、会社・事業戦略説明、商品紹介および健康関連情報を発信 →P51 ・機関投資家・アナリストの皆様と役員とのスモールミーティングおよび工場見学会を実施。アナリストの皆様等から個別のIR取材を受け入れ | ○ |
| 海外投資家の皆様への情報発信強化 | <ul style="list-style-type: none"> ・海外投資家の皆様への情報発信強化のために、決算短信概要の英訳をホームページで公開 →P52 | ◎ |
| 2009年度 CSR取り組み課題 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・株主・投資家の皆様とのコミュニケーションの強化 ・海外投資家の皆様への情報発信の強化 | | |

※自己評価の◎は“達成”、○は“ほぼ達成”（ほぼ達成し、未達成分のめどもついている）

対象ステークホルダー：従業員

【方針】

時代に合った働きやすい環境を整え、従業員が自己の成長を感じられる働きがいのある、いきいきとした安全で衛生的な職場を実現します。

| 2008年度 CSR取り組み課題 | 2008年度 CSR課題への取り組み実績 | 2008年度 自己評価 |
|---|---|----------------|
| 組織活性化、人材育成を主眼とした人事諸制度の再構築 | ・チャレンジ力、創造力、組織力等の強化を目的に新たな人事制度を制定し、あわせて教育研修制度を改定(2009年4月施行) | ◎ |
| ワークライフバランス施策、次世代育成支援対策の本格展開 | ・育児短時間勤務の適用対象を拡大(2009年4月施行) →P55 ・半日休暇取得回数制限を拡大(2009年4月施行) →P55 | ◎ |
| 心身の健康維持向上に重点を置いた新たな取り組みの実施 | ・特定健診、特定保健指導を開始。健保組合と共同でメタボリックシンドロームの啓発セミナーを実施 →P56 ・長時間労働者に対して、必要に応じて産業医面談を実施 | ◎ |
| 安全防災教育の体系化 | ・生産職場用の「安全義務教育計画」を立案し、国内製造4拠点での安全教育の統一化とレベルアップを推進 | ○ |
| 2009年度 CSR取り組み課題 | | |
| ・チャレンジ性強化、人材育成強化等を主目的とした新人事制度の具体施策の展開 ・時間創出をベースとした当社独自のワークライフバランスと次世代育成支援の具体施策の検討・実施 ・生産現場での安全義務教育の運用および防災活動の推進 | | |

対象ステークホルダー：社会

【方針】

良き企業市民として地域社会に貢献するとともに、国際社会の一員としても良好な企業活動や積極的なコミュニケーションを図り、社会とともに発展していくよう努めます。

| 2008年度 CSR取り組み課題 | 2008年度 CSR課題への取り組み実績 | 2008年度 自己評価 |
|---|---|----------------|
| オリンピックイヤーに連動してのスポーツ振興の充実 | ・北京オリンピック日本選手団をJOCオフィシャルパートナーとして支援 →P61 ・北京オリンピック卓球・福原愛選手等に対し食事・栄養サポートを実施 →P61 ・少年サッカー大会で保護者を対象とした栄養セミナーを実施し、小冊子を発行 →P61 ・レスリング日本代表クラスの選手へ食事提供と身体測定(皮脂厚、筋肉厚)を実施 ・上海国際マラソンを通じて、参加者に体脂肪に関する啓発活動を実施 | ◎ |
| 食育視点を取り入れた生活情報の発信強化 | ・北京・上海・東京3都市の食意識調査を実施。文化や環境の違いに着目した解析結果や中国の今後の「食」に関する推察のショートレポートをホームページなどで発信 →P62 ・メタボ対策に関する意識と行動についての調査を実施。メタボ対策への取り組みにおける促進・阻害要因について考察したショートレポートを発信 →P62 ・ホームページ「生活科学研究室」で、ご当地の特徴ある「油を使用した料理」や「油の使われ方」を紹介したコンテンツ<発見!ご当地「油」紀行>を運営 →P63 ・「家族形態による理想と現実の食スタイル」について、日本食育学会にて発表。(財)生協総合研究所の機関紙への原稿の執筆 | ○ |
| 従業員のボランティア参画支援 | ・「日清オイリオグループ 社会貢献方針」を策定 →P57 ・国連WFP協会のチャリティーウォーク参加、ボランティアベンダー導入 →P57、58 ・中国四川大地震に対する被災者見舞金の寄付、中国法人の従業員有志による同寄付活動へのボランティア参加 →P59 ・横浜磯子事業場有志による東京湾の環境保全活動(当社からのロコミで同地区の企業7社の有志にも広がる) →P66 | ○ |
| 2009年度 CSR取り組み課題 | | |
| 新規策定した「社会貢献方針」の企業グループ内浸透と、「4つの重点分野」に基づく活動推進 | | |

※自己評価の◎は“達成”、○は“ほぼ達成”(ほぼ達成し、未達成分のみもついている)

対象ステークホルダー：環境

【方針】

常に未来に向けた技術で、“植物のチカラ”を引き出し、原料・資材の調達から、生産、納品、ご使用、廃棄にいたるまで地球環境に配慮した商品・サービスの開発、ご提供を通じて、資源循環型社会の構築を目指します。

| 2008年度 CSR取り組み課題 | 2008年度 CSR課題への取り組み実績 | 2008年度 自己評価 |
|--|---|----------------|
| ISO14001の生産拠点における2009年度マルチサイト認証取得へ向けた活動促進 | ・ISO14001マルチサイトのシステム構築は順調に進展。2009年7月に統合審査を受審 | ◎ |
| 温暖化対策推進法、省エネ法など環境関連法規改正への対応 | ・2008年度のCO ₂ 排出量原単位は、原料の水分増加や処理量減少といった製油環境変化の影響により、2007年度より悪化、総排出量は減少 ・2009年度中に水島工場の燃料転換（C重油→都市ガス）を実現するための設備投資を承認 →P71 ・廃棄物の再資源化となる廃白土の有価物化等の取り組みを推進、ゼロエミッションを継続達成 ・2009年度の全社展開に向けてオフィス環境活動ガイドラインとその実行計画を立案 | ○ |
| “植物のチカラ”を活用した容器開発 | ・植物由来原料を使用した生分解性素材を2009年中元ギフト用ボトルに採用を決定 →P49 | ◎ |
| 植物油の潤滑油用途拡大と非食用油脂を活用した用途開発 | ・植物油脂の潤滑に関する基本的物性データを取得し、用途拡大のための諸研究を大学と実施（学会発表を予定） ・“植物のチカラ”を最大限活用することを目的として、非食用植物による油脂の開発に着手 →P18 ・産官学のチームにより、新素材「フィットポラス」を開発。 →P19 | ○ |
| 2009年度 CSR取り組み課題 | | |
| ・中長期環境目標の設定（2020年頃の長期環境目標を設定） ・エコリオ事業開発テーマの継続研究と事業化に向けた取り組み | | |

CSRを支える基盤

| 2008年度 CSR取り組み課題 | 2008年度 CSR課題への取り組み実績 | 2008年度 自己評価 |
|--|---|----------------|
| 「内部統制報告制度」の本番運用開始 | ・内部統制評価プロジェクトによる全社統制の評価、業務プロセスのウォークスルーおよび評価を実施 ・評価結果に基づく各部門・子会社による内部統制の再整備・強化、内部統制委員会事務局による支援の実施 | ◎ |
| コンプライアンス教育活動の多様化 | ・社外講師による社内研究会を開催（テーマ：①取締役の法的責務、②景品表示法、③人権） →P33 ・社内講師による社内研修（新人研修・業績職研修）でのコンプライアンス啓発の実施 →P33 ・市販のコンプライアンスに関するミニドラマ集DVDによる職場単位での学習の奨励 →P33 ・当社グループ（国内）の従業員等を対象に、モニタリング「企業倫理意識調査」、行動規範浸透企画「行動規範チャレンジ」をそれぞれ実施 →P33 ・当社グループ（国内）の企業倫理推進リーダーを対象に、インサイダー取引規制に関するeラーニングを実施 →P33 | ○ |
| 国内外子会社におけるリスク管理と企業倫理推進体制の確立 | ・当社グループ共通の重要リスクに「①品質異常」「②新法制定・法改正への対応/法令遵守意識の浸透」を選定 →P35 ・中国およびマレーシアにて行動規範の現地従業員説明会を実施。中国企業倫理委員会を設置 →P33 ・行動規範（中国）Q&A集の制作（継続中） | ○ |
| 全社総合的なBCPの策定 | ・大規模地震BCPについて本社機能BCP・生産系BCPの構築作業を進め、ほぼ完成 →P35 ・新型インフルエンザ対策は基本行動計画を制定、執行役員・子会社代表等を対象に対策周知の講習会を開催 →P36 | ○ |
| 2009年度 CSR取り組み課題 | | |
| ・グループ全体での内部統制システム、リスク管理、コンプライアンス体制のレベルアップ（企業再編に伴う内部統制システム整備など） ・大規模地震BCPおよび新型インフルエンザBCPの運用体制の整備 | | |

※自己評価の◎は“達成”、○は“ほぼ達成”（ほぼ達成し、未達成分のみもついている）

CSRを支える基盤

コーポレート・ガバナンス

企業が社会との信頼関係を維持・向上させるために、コーポレート・ガバナンスはますます重要なものになっています。私たちは、コーポレート・ガバナンスの充実を経営の重要事項と考えています。

透明性の高い経営を目指した統治体制

私たちのコーポレート・ガバナンスに対する姿勢は、会社法施行にあわせて文書化した「内部統制システム構築に関する基本方針」(当社ホームページに掲載)に表明しています。

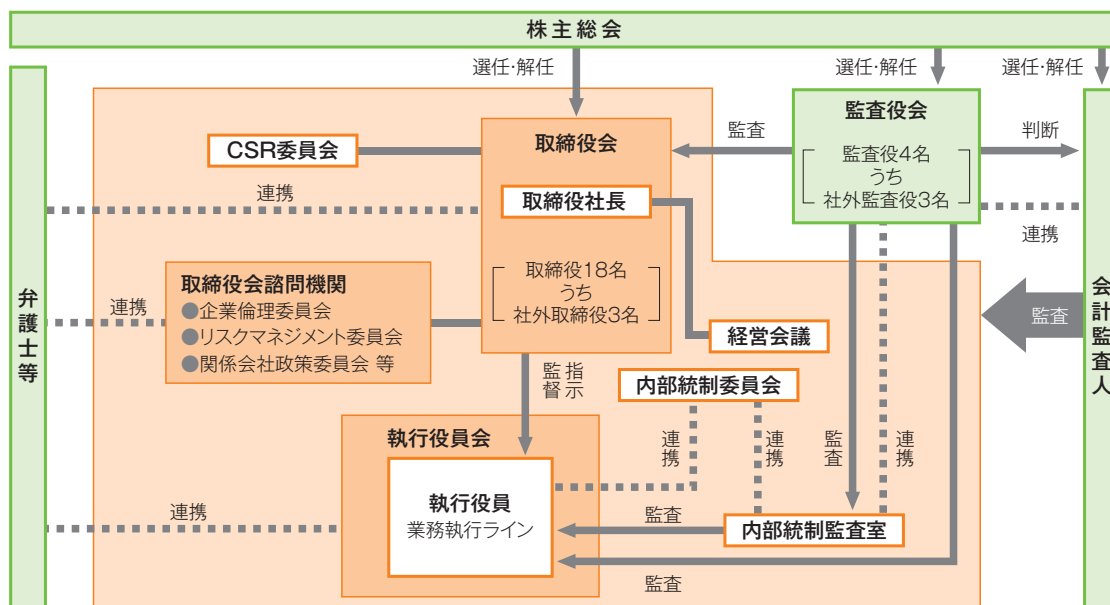
統治体制としては、執行役員制度を導入し、取締役社長の意思決定支援機関である経営会議、取締役会の諮問機関としての各種経営委員会、業務監査部門である内部統制監査室などを設置しています。社外役員は、取締役が3名、監査役も3名です。社外監査役の内訳は、1名が常勤、2名が非常勤(弁護士、会計士各1名)です。

2006年度から、常勤監査役とコーポレートスタッフ部門との情報および意見の交換を目的とした「コーポレート・ガバナンス協議会」を四半期ごとに開催しており、2007年度には、同協議会の運営規則のほか、経営による監査支援・協力等について定めた「コーポレート・ガバナンス体制における監査役会および監査役との関係に関する規程」を制定しました。

2008年度は、反社会的な勢力の排除および財務報告の適正性を確保するための体制に関する条文の追加等、「内部統制システムの構築に関する基本方針」の一部改訂を行いました。

また、顧問弁護士を招いて、コーポレート・ガバナンス研究会を開催し、常勤取締役・監査役および執行役員が出席しました。

●日清オイリオグループ(株)コーポレート・ガバナンス体制 (2009年3月31日現在)



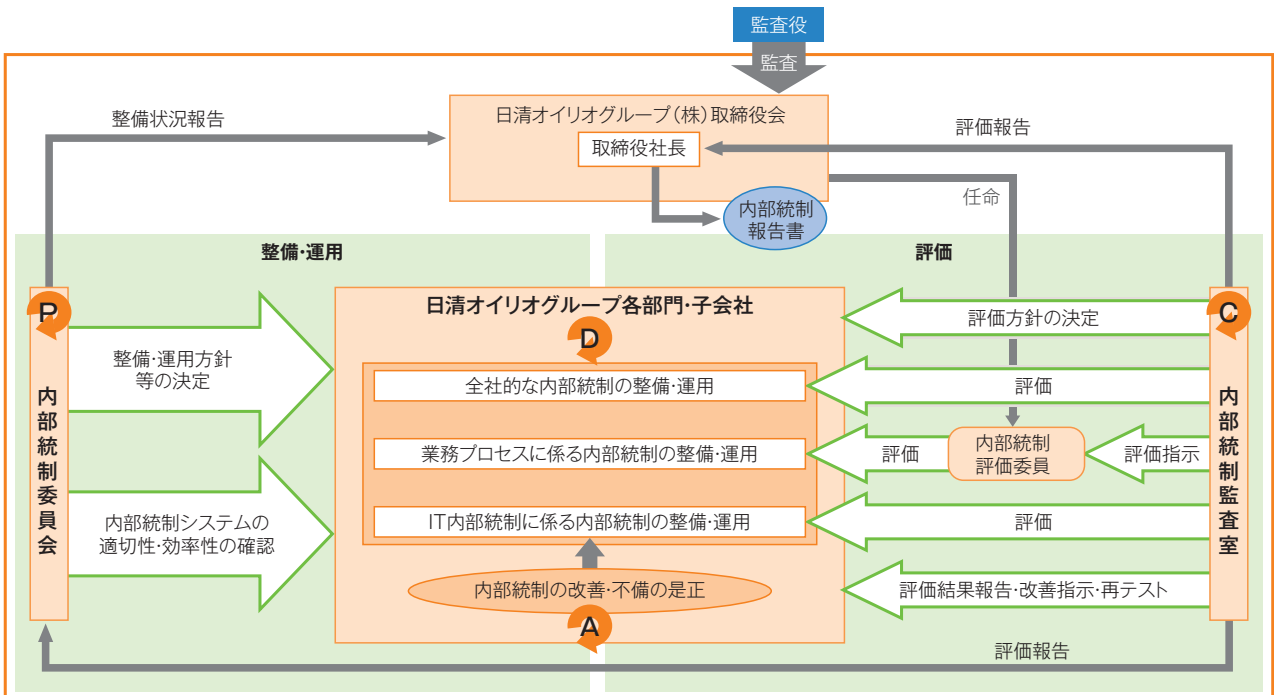
※常勤監査役は、経営会議にオブザーバーとして出席しております。
※上記以外に常勤監査役とコーポレートスタッフ部門との定期的な情報交換を目的とした「コーポレート・ガバナンス協議会」を設置しております。

内部統制システムの状況

当社グループでは、内部統制システムを金融商品取引法に定められた内部統制報告制度への対応とともに、企業の社会的責任(CSR)を果たすための重要なファクターのひとつとして位置づけ、基本方針に基づいた内部統制システムの強化を進めています。2009年6月に有価証券報告書と併せて「内部統制報告書」「内部統制監査報告書」を提出しています。

| 基本方針 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 内部統制システムの充実により、財務報告の信頼性を高めるとともに、業務の有効性および効率性、透明性、コンプライアンス、リスクマネジメント、グループガバナンス等、当社グループの企業価値の向上と競争力の獲得に結びつける。 ● 内部統制システムは、『当社グループを構成するすべての者の業務活動に組み込まれ、一人ひとりが理解・遂行しなければならないシステム』である。このことを十分に認識し、一人ひとりが主体的に取り組み、より効果的かつ有効な内部統制システムを運用する。 |

● 内部統制システムの整備・運用と評価の流れ



推進体制

グループ全体の内部統制システムの整備・運用強化を推進する内部統制委員会と、内部統制の整備・運用状況を評価・報告する内部統制監査室を設置しています。また、各部門長・子会社代表を内部統制推進責任者に任命し、より効果的かつ有効な内部統制システムの充実にに向けた推進体制を整備しています。

内部統制システムの整備・運用強化

2008年度は、「内部統制報告制度」に基づいた内部統制評価を主眼とした内部統制システムの運用徹底・強化を実施しました。特に業務プロセスに係る内部統制については、業務の有効性と効率性を高めることを目的に、内部統制委員会を中心にプロセス主管部門、運用部門との連携を図り、さらなる強化を進めました。

コンプライアンス

私たちは、コンプライアンスを単なる法令遵守とは考えず、ビジネス上の倫理さらには社会倫理の遵守と捉えています。

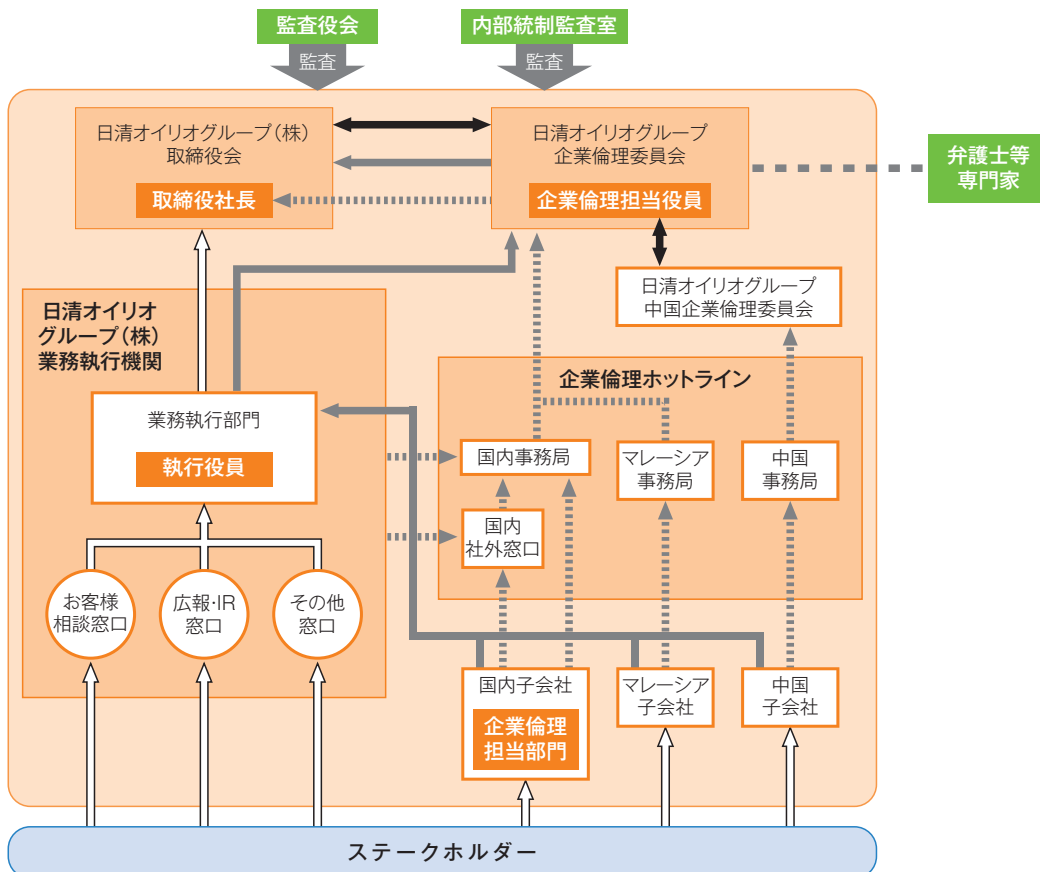
コンプライアンス体制

当社グループでは、企業倫理委員会を中心に、コンプライアンスの浸透に取り組んでいます。その拠り所となる「日清オイリオグループ行動規範」は、企業倫理綱領のみならず、経営理念実現のための行動指針であり、CSR活動の行動指針とも位置づけられているところに特徴があります。行動規範は手帳サイズの冊子にして、派遣社員や国内子会社の従業員、さらには現地の言語に翻訳して海外子会社の従業員に配布しています(中国語版、英語・マレー語版)。

また、企業倫理ホットラインによる通報受付を行い、提供された通報については、企業倫理委員会で審議し、再発防止を図っています。取締役については、遵守すべきコンプライアンスの基本、違反に対する懲罰等を取締役倫理規程に定めています。

●グループ企業倫理体制

企業倫理報告 → 各ステークホルダーからの声 ⇄ ホットライン報告 諮問・答申 ⇄



2008年度の主な取り組み

海外における企業倫理体制の構築

中国語版およびマレーシアの現地法人向けの行動規範（英語版・マレー語版）を策定、企業倫理ホットラインの受付窓口も設置し運用を開始しました。それぞれの国にて現地従業員への行動規範・CSR説明会を開催し、企業倫理やCSRについての浸透を図っています。

また、中国企業倫理委員会の開催など、海外における企業倫理体制の定着を図りました。



マレーシアISF社でのCSR説明会

企業倫理ホットライン社外受付窓口の設置

国内の企業倫理ホットラインについては、従来の社内受付窓口に加え、2008年4月から第三者機関による社外受付窓口の運用を開始しました。

コンプライアンス・プログラムの実施

事業年度ごとにテーマを設定して、教育・監査活動を行っています。

また、社内でのさまざまな研修の場において、コンプライアンスに関する情報提供や教育を行っています。

2008年度の主なコンプライアンス・プログラム、研修実施内容

- 景品表示法 講習会
- eラーニングによるインサイダー取引規制教育
- コンプライアンスの映像教材の導入、職場で啓発活動への利用
- 新入社員研修、管理職向け研修などでのコンプライアンス教育

コンプライアンス強化月間企画

毎年10月を企業倫理月間と定め、さまざまな企画を実施しています。2008年度は、(財)人権教育啓発推進センターの仲介によって、(株)電通の若林源基氏を講師に招き、人権をテーマに講演を実施しました。海外を含む主要拠点へも配信し、親・子会社の役員を含む204名の参加がありました。

また、企業倫理意識調査を当社グループの国内従業員に対して実施しました。

行動規範チャレンジ

当社の創立記念日にちなみ、3月には当社グループ(国内)の全従業員(派遣社員を含む)を対象に、行動規範の読み合わせや、社内グループウェアを使用して行動規範およびコンプライアンス事例に関する問題に答える「行動規範チャレンジ」と銘打った企画を実施しました。(参加率96%)

当社グループ会社である日清物流株式会社の社員に対して
神奈川県港南警察署長より発せられた再発防止命令書について

2009年1月14日、神奈川県港南警察署長より当社グループ会社である日清物流株式会社社員に対して、道路交通法第58条の5第2項の規定により、再発防止命令が発せられました。

これは2007年12月11日より2008年3月26日ごろまでの間、当社横浜磯子事業場内日清物流株式会社磯子バルクセンターにおいて、積載物の引取時、大型貨物自動車等に積載を行う際に車両の最大積載量の確認を怠ったとの指摘によります。

この指摘については事実であると認識しており、大変申し訳なく深くお詫び申し上げます。

警察の指摘を受けた2008年4月以降、車両における表示、車検証の確認を行うなど、最大積載量の確認を徹底し、決められた積載量の遵守に努めております。

再発防止命令書の発令を真摯に受け止め、管理を徹底し、再発防止に努める所存です。

リスクマネジメント

私たちのリスクマネジメントの目的は、主体的な取り組みにより、企業として安定した収益を上げるのみならず、企業の社会的責任を果たすとともに、さらなる企業価値の向上と持続的な発展を目指すことです。

リスクマネジメントの方針と体制

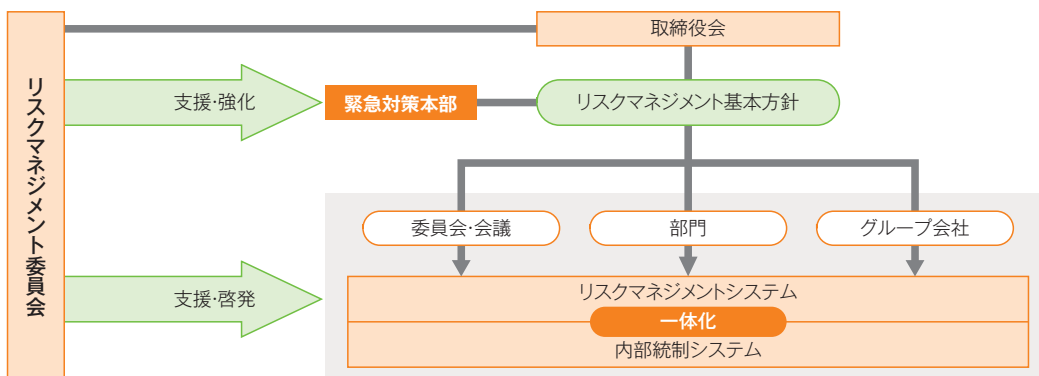
基本方針

あらゆるリスクに対して最適な対応策を講ずるとともに、リスク発生時において、被害を最小限に留めるべく、迅速かつ最善の対応を図る。

リスクマネジメント体制

取締役会の諮問機関であるリスクマネジメント委員会が主管となり、リスクが顕在化した場合の緊急体制を整備し、危機対応を図っています。また、リスクマネジメント委員会ではリスクの棚卸を実施のうえでリスクマップを作成し、重要なリスクに対しては担当部門を特定し、各部門はPDCAサイクルによるリスク管理を実施しています。

●リスクマネジメント体制



2008年度の主な取り組み

引き続きPDCAサイクルによるリスク管理を実施しました。国内外の子会社を含めたリスク調査の結果から当社グループに共通の重要リスクとして、①品質異常、②新法制定・法改正への対応/法令遵守意識の浸透、の二つを選定しました。また、総合的なBCP(事業継続計画)確立に向け、BCP推進会議を発足させワーキンググループを組織して、本社については拠点防災BCPの骨格を策定し、生産部門においては拠点横断的な計画の策定を開始しました。

また、当社では情報セキュリティ委員会を設置し、情報セキュリティ対策の評価・見直しや社内啓蒙・広報活動を行っています。2008年度はグループ企業へのセキュリティ方針の展開やグループウェアの刷新により、セキュリティ対策強化を図りました。

事業継続計画(BCP : Business Continuity Plan)の策定

2008年度は次の2つのBCPの策定に向けて検討を重ねました。

大規模地震BCP策定に向けた取り組み

当社では首都圏直下型地震発生を想定した事業継続計画(BCP)について、外部専門家の意見を交えながら策定しました。(2009年6月制定)

当社のBCPでは、本社被災時に本社機能を担う臨時拠点として、横浜磯子事業場や大阪事業場、東京支店といった場所・設備を利用することを考えており、従業員とその家族の安否確認の仕組みの構築や、被災後に優先して復旧させるべき業務の選定、緊急時の指揮命令系統の明確化、被害軽減対策といったことを含めた包括的な対策としています。

また、生産面については、横浜磯子事業場は当社グループの基幹工場であり、被災時はグループ全体にとって、生産能力や製品在庫に大きな影響が出るものと予測していることから、BCP構築においては、生産設備の耐震対策や被災後の早期復旧策の立案と同時に、商品の供給責任を果たすことを目的に、物流や受注システムを含めての他生産拠点での代替生産・供給体制の構築も進めました。

2009年度は、構築したBCPに則り、教育・訓練活動などを実施していきます。

新型インフルエンザ対策基本行動計画の策定

当社では、新型インフルエンザ発生の際の基本方針、危機管理体制および発生段階ごとの対応について検討を重ね、2009年3月に「新型インフルエンザ対策基本行動計画」を策定しました。また、策定過程において、執行役員・子会社代表等を対象に、社外講師による対策周知の講習会を開催しました。

従業員やその家族の安全・人命尊重を前提に、感染予防・拡大防止を最優先に対応を図ることを基本方針としています。また、本基本行動計画の内容に則って海外のグループ企業を含む各事業拠点において、予防キットの備蓄などの対策を進めました。

2009年度は、本基本行動計画の内容をより具体化した、新型インフルエンザBCP行動マニュアルの策定を進めています。

防災への取り組み

防災基本規程

当社は、生産・研究開発部門に共通する防災管理の基本的枠組みとして「防災基本規程」を策定し、各事業場はこれに則り、地域特性や条例等を反映した独自の防災管理を実施しています。

防災管理の基本的枠組み

1. 基本理念

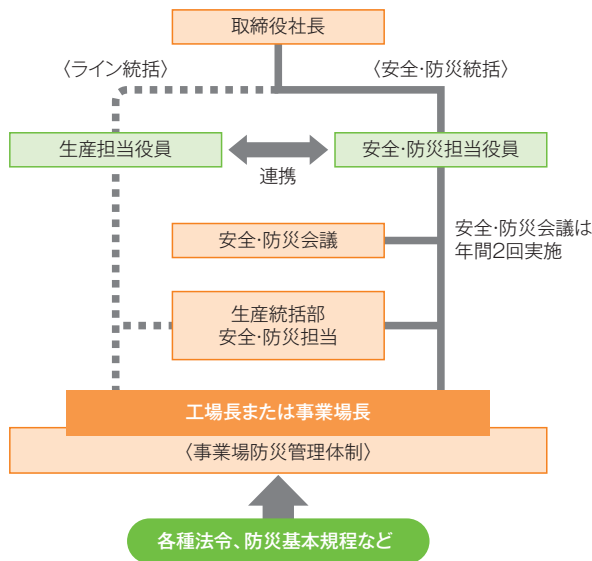
「発生させない！ 拡大させない！ 早期復旧する！」

- 構内従事者・外来者の安全確保と安心して働ける職場づくり
- 安定操業・出荷体制の堅持によるメーカーとしての企業基盤の確保
- 取引先の操業確保・地域社会からの安心感維持などによる社会的信用の維持・向上

2. 防災管理における3つの柱

- ① 予防管理
- ② 発災時管理(被害拡大防止・早期復旧)
- ③ 意識・行動管理

● 防災管理体制



防災訓練

各事業場では、年2回、自衛防災組織を中心に総合防災訓練を実施しています。火災発生場所の初期対応、拡大防止措置、油流出防止、救護活動などを基本活動とし、公設消防隊および地域企業との連携をとり、日頃の防災技術の維持・向上に努めています。



防災訓練の様様

●2008年度主な防災訓練実施状況

| 拠点 | 実施月 | 訓練目的 | 参加人数 |
|---------|---------|-------------------------|--------|
| 本社 | 11月、12月 | 防災訓練 | 180名 |
| 横浜磯子事業場 | 9月、3月 | 総合防災訓練(予知対応型および発災対応型訓練) | 1,300名 |
| 横須賀事業場 | 6月、11月 | 通報・避難訓練(火災および地震発生後火災) | 170名 |
| 名古屋工場 | 9月、3月 | 大型地震発生時の避難、緊急停止訓練 | 300名 |
| 堺事業場 | 9月、3月 | 総合防災訓練(火災) | 120名 |
| 水島工場 | 5月、11月 | 流出事故被害防止訓練、津波避難訓練 | 100名 |

横浜磯子事業場「安全塾(危険体験教育)」の開講

横浜磯子事業場では、労働災害防止を目的として、2007年度から定期的に「安全塾(危険体験教育)」を開講しています。事業場に働く従業員がさまざまな実験装置で「作業の危険」について実際に体験し、危険に対する感覚を磨くことで予知能力を高め、結果的に安全な行為・行動に結びつけるための教育の場として実施しています。2009年1～2月には、他社の若手社員約60名が研修の一環として、当社横浜磯子事業場にて「安全塾」の危険体験設備を見学しました。見学の後は、安全活動について活発な意見交換が行われ、今後の安全交流の道も開かれました。その他の事業場でも外部の危険体験教育に参加しています。



ロータリーバルブの羽根とケーシングへの挟まれを説明

安全衛生防災活動方針

各事業場では年度ごとに方針・目標を見直してスローガンを策定、重点活動項目を設定して年間活動計画にまとめ、これに基づいて活動しています。

2008年度水島工場における安全衛生防災活動

スローガン

『先手を打って排除しよう 事故・災害の芽』

活動方針

- ①一人ひとりの安全衛生防災スキルアップを図ります。
- ②安全衛生防災関連の法令及び水島工場規程(定)類を遵守します。
- ③潜在危険リスクを顕在化しリスク低減に取り組みます。
- ④健康診断の有所見率の低減に取り組みます。
- ⑤安全衛生担当者協議会の充実により安全衛生防災活動の活性化を図ります。

目標

- ①事故・災害ゼロ
- ②心身の健康維持と快適職場
- ③防災活動の継続的改善

安全衛生防災リスクアセスメントの実施

各生産拠点において安全衛生防災のリスクアセスメントを実施しています。横浜磯子事業場、名古屋工場ではOSHMS*に準じた独自のシステムを導入、運用しています。

*OSHMS: 厚生労働省指針(平成11年労働省告示第53号)に基づいた労働安全衛生マネジメントシステム

●労働災害発生件数 (件)

| | 2006年度 | 2007年度 | 2008年度 |
|---------|--------|--------|--------|
| 横浜磯子事業場 | 0 | 1 | 2 |
| 横須賀事業場 | 0 | 0 | 0 |
| 名古屋工場 | 1 | 0 | 0 |
| 堺事業場 | 0 | 0 | 0 |
| 水島工場 | 0 | 0 | 2 |

従業員ベース、休業災害4日以上

●無災害記録

| | 無災害日数(日) | 無災害時間(万時間) |
|---------|----------|------------|
| 横浜磯子事業場 | 117 | 20 |
| 横須賀事業場 | 2,575 | 211 |
| 名古屋工場 | 981 | 54 |
| 堺事業場 | 3,896 | 254 |
| 水島工場 | 235 | 11 |

2009年3月31日現在

2009年度の課題

- グループ全体での内部統制システム、リスク管理、コンプライアンス体制のレベルアップ(企業再編に伴う内部統制システム整備など)
- 大規模地震BCPおよび新型インフルエンザBCPの運用体制の整備

お客様のために

安全と安心のために

「おいしさ・健康・美」を追求した、安全・安心でお客様にとって価値ある商品・サービスを安定的にご提供し続けます。お客様の声を絶えずお聞きして、「植物のチカラ」を独創的な技術で商品・サービスに活かしていくとともに、お役に立つさまざまな関連情報を常に発信していきます。

「日清オイリオグループ行動規範」における顧客価値の追求

- 最良の質をもって提供するように、常に商品・サービスの質の維持・向上に努めます。
- 商品・サービスの安全性を最優先とし、そのための供給・管理体制の徹底と更なる改善に努めます。
- 商品・サービスおよびその供給・管理体制について正確で分かりやすい情報を可能な限り公開し、商品情報や活動状況の透明性の維持・向上に努めます。
- 不測の事態が生じた場合は、速やかに人身・設備・環境その他への影響の可能性を整理し、その影響を最小限とするための対策を講じます。同時に、その原因究明と根本的な再発防止対策を行い、これらに関する情報を可能な限り公開するよう努めます。
- 常にコストダウンのためのあらゆる施策を講じ、お客様に満足頂ける価格での商品・サービスの提供ができるように努めます。
- お客様の満足度を基点として、その声に、迅速かつ誠実に対応するとともに、他社に先駆けて、お客様の生活を豊かにする新たな価値を創造・提案し続けることに努めます。

品質保証活動

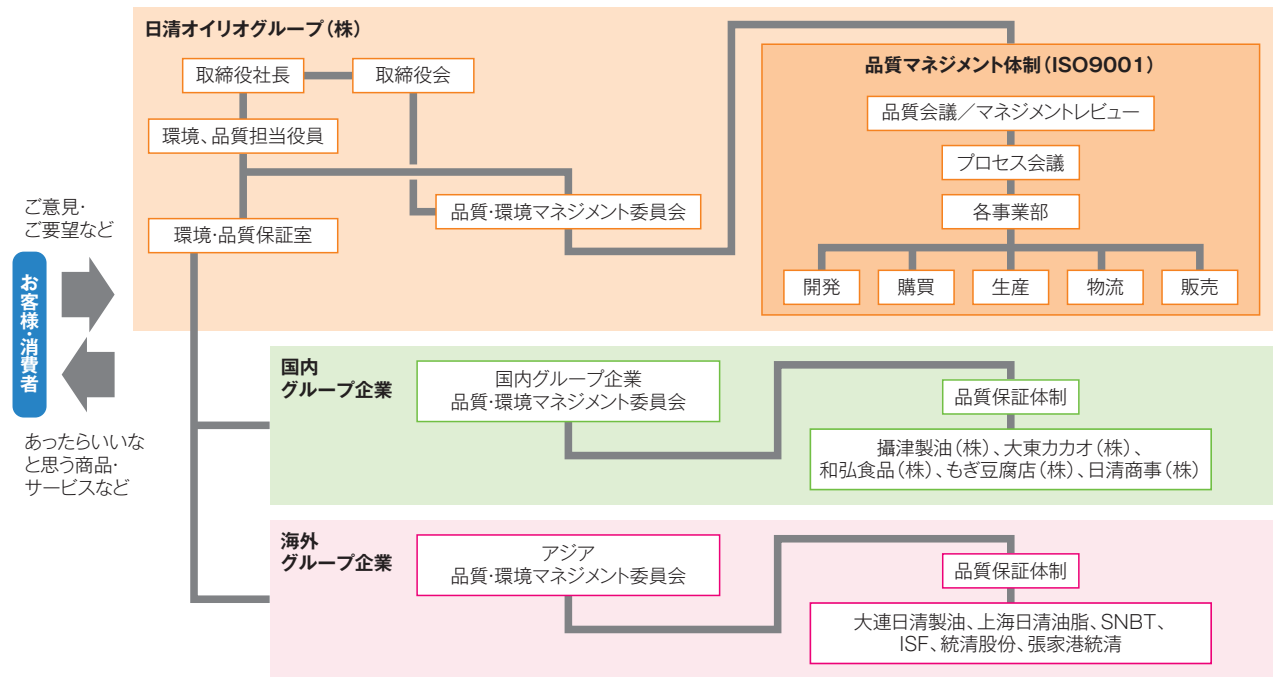
品質保証は事業がグローバル化するにつれ、年々要求度・専門性が高度化しています。当社は、原材料の購入から商品の販売に至るまで、すべての段階で安全性確保、環境配慮を目指した仕組みを継続的に運用・改善していくとともに、問題対応型の品質保証から、予防的な品質保証への転換を進めています。

当社のブランド憲章でもある「コアプロミス」(P21参照)を品質方針として定め、全社員がお客様にご満足いただける商品を提供し続けるために、品質保証活動に取り組んでいます。

品質保証体制

取締役会の諮問機関である「品質・環境マネジメント委員会」が、当社全体の品質保証にかかわる経営課題の抽出を行うとともに、ISO9001に基づいた品質マネジメントシステムを統括しています。サブシステムとして各事業部門が品質マネジメントを担っており、「ISOプロセス会議」が部門横断的な課題解決を図る体制です。また、当社社内だけではなく、国内外のグループ企業を含めた全事業活動としての品質保証体制をとっています。こうした品質保証体制の維持と確実な運用を「環境・品質保証室」が支援しています。

●品質保証体制図



品質・安全への取り組み

品質方針のもとISO9001で定めたルールに則り、商品開発から原材料調達、製造、物流・販売に至るまで、すべての段階で品質管理を徹底し、食品の安全・安心を確保しています。

●品質・安全への取り組み

物流・販売

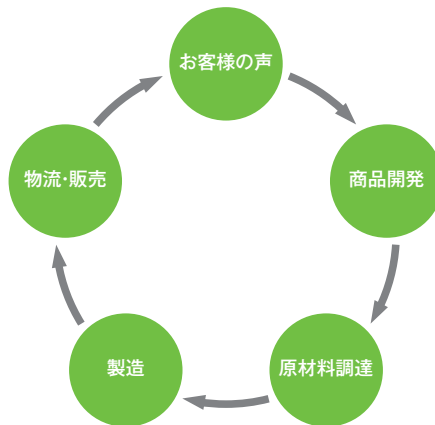
取引先様(販売先)への安全・確実な納品の実現および保管、出荷、輸配送、納品までのすべての物流現場での安全を目指し、物流品質管理基準を定めています。物流トラブルの発生を想定して、迅速な連絡、事後対応、対策を早急に講じる体制を構築しています。

製造

当社は、国内すべての工場ISO9001の認証を取得しています。異物混入防止のための製造ライン設計や、工場内で働く人に対する食品衛生マナーの教育など、食品の安全・安心を確保するための活動を地道に続けています。また、原料受け入れから包装の各工程で作業内容を記録・管理しています。各工程で品質検査を行い、定められた規格・基準を満たしていることをチェックしています。

お客様の声の収集

お客様相談窓口などを通じてご意見・ご要望をいただいています。



商品開発

新商品の開発計画など設計業務の管理について定めた開発設計管理規定に則り、商品企画、研究開発、資材調達の各部門が連携して、お客様の声を反映した商品開発を行っています。この段階で、適用される法規制を明らかにするとともに、各種調査結果や試験・検査データをもとに、製品の「法規適合性」「安全性」「品質」の評価・確認を行います。

原材料調達

油糧種子や原料油脂を調達する際は、原料購買管理基準に則り、購買先の評価・選定を行います。また、分析試験項目や基準値を定めて品質を確認、合格したもののみ受け入れます。新たな原材料は、サンプルの品質評価を行うとともに、原材料メーカーから原材料規格書入手し、使用にあたっての安全性を確認しています。また、商品の容器包装、ラベル、段ボールなど、容器包装資材の調達はロジスティクス部資材グループが行っています。資材グループは調達の方針をふまえて資材調達先を選定し、資材の価格や規格、設計・開発に関して取引先様と緊密な連携を保っています。

原料調達における取り組み

当社は継続的に海外の原料の産地や製造者を訪問し、品質や安全性について点検を実施しています。2008年度はアメリカ、カナダおよびブラジルの各国を視察し、産地や現地製油メーカー、積み出し施設を訪問し安全性などを確認しました。また、アメリカやカナダの農業関係団体とは、長年にわたり情報交換を続けています。



現地視察の様子

異物混入防止のための取り組み

1. 防塵カバーによる異物混入対策の徹底



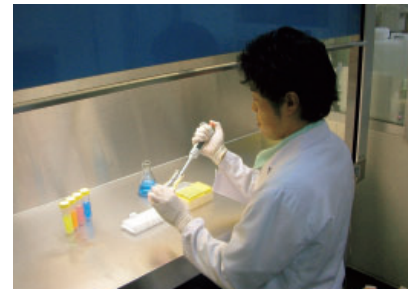
横浜磯子事業場 食品充填ライン

2. 食品衛生マナー教育



横浜磯子事業場 加工油脂工場

3. 徹底した品質検査体制



横浜磯子事業場 微生物検査

ISO9001 認証等取得状況と品質監査

当社グループは、早くから品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001の認証を取得しています。国内外グループ企業は、順次「ISO9001」や「ISO22000(食品安全マネジメントシステム)」など各組織に見合った国際規格・基準類の導入を進めています。

ISO9001品質監査は、内部監査と外部審査で実施しています。当社グループでは、外部講師による監査員養成セミナーの修了者を内部監査員有資格者とし、約270名を任命しています。(2009年4月現在)

● 認証等取得状況

| 認証等 | 取得状況 |
|------------|--|
| ISO9001 | 日清オイリオグループ(株)、攝津製油(株)、攝津製油(株)堺事業所油脂工場*1、大東力カオ(株)、和弘食品(株)、大連日清製油有限公司、上海日清油脂有限公司、SNBT、ISF、張家港統清食品有限公司、大連日清糧貿有限公司 |
| ISO17025*2 | 大連日清製油有限公司 |
| HACCP*3 | 大連日清製油有限公司、ISF、大連日清糧貿有限公司 |
| AIB*4 | 日清オイリオグループ(株)横浜磯子工場加工油脂工場 |
| ISO22000 | 上海日清油脂有限公司、張家港統清食品有限公司 |

※1 ISO9001とISO14001の統合認証

※2 国際的な試験所認定規格(範囲:品質管理室における油脂・油粕の一般分析)

※3 食品の衛生管理システムの国際標準

※4 AIB(米国製パン研究所)の確立したAIBフードセーフティ(GMP)指導・監査システム

● 品質監査状況

(件)

| | 2006年度 | | 2007年度 | | 2008年度 | |
|----------|--------|------|--------|------|--------|------|
| | 改善指摘 | 改善提案 | 改善指摘 | 改善提案 | 改善指摘 | 改善提案 |
| 内部品質監査 | 12 | 106 | 8 | 113 | 6 | 128 |
| 定期審査(外部) | 0 | 27 | 0 | 14 | 0 | 15 |

横浜市および食品衛生協会からの表彰

長年にわたる食品衛生管理への尽力が認められ、「平成20年度食品衛生優良従業員」を当社横浜磯子工場食品グループの大須賀職員が受賞しました。

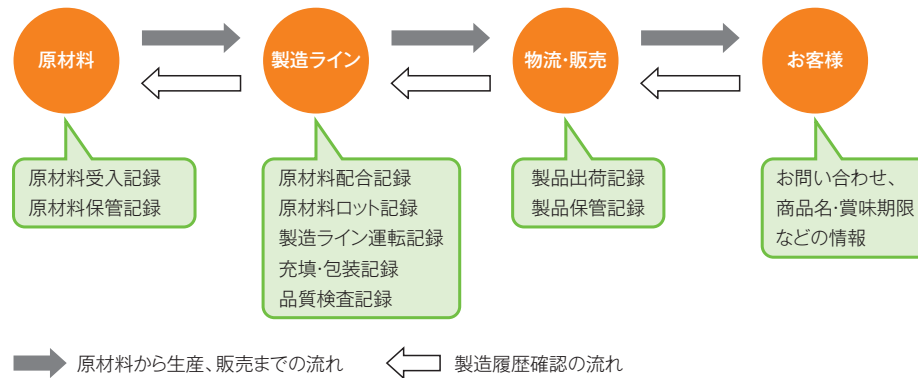
トレーサビリティ(追跡可能性)の確立

当社では、お客様に安全で安心できる商品をお届けするため、原材料取引先様(調達先)から原材料規格書を入手し、安全性を確認しています。

また、原材料から生産、販売までの情報を確認できるISO9001の仕組みにより、商品名と賞味期限などの情報から、いつ受け入れた原材料か、製造時のさまざまな履歴を追跡し確認することができます。

トレーサビリティを確立することにより、商品に関するお客様からのお問い合わせに迅速に対応でき、また、万が一問題が発生しても原因を速やかに特定し、影響の拡大を最小限に抑えることができます。

●トレーサビリティの流れ



データベースシステムの活用

当社グループは、原材料・商品に関する膨大な情報を一元管理するデータベースシステム「I-base」を構築しています。「I-base」には、トレーサビリティの確立につながる各段階での情報がすべて蓄積されています。

「I-base」を活用することにより、部門間での情報の共有化が進むとともに、情報検索が容易になります。原材料取引先様(調達先)のご協力のもと、順次情報の拡充・更新を進めており、お客様へご提供する商品情報のさらなる精度の向上とスピードアップを図っています。

“正しい情報の提供”は、食品メーカーに求められる重要な役割です。原料の規格や産地情報などを調査し、定期的に更新しながら、当社の商品を通じて正しい情報をお伝えできるよう、グループ企業も含めた取り組みを進めています。



I-base画面

2008年度の取り組み

「食の安全に係わる総点検」の実施

“各種の報道事例から得られる教訓”や“新たに顕在化してくるリスク”に対して、地道に足元から日々の作業を見直しています。2008年度は、開発部門や製造部門はもとより、営業部門や国内外のグループ企業も含めた“総点検”を実施しました。よりよい商品づくりのために、常に見直す姿勢を大切にしています。

中国「保健食品」製造・販売に向けた取り組みとしてのGMP認証の取得とコールセンターの設置

「ヘルシーリセット」は、日本の特定保健用食品認可取得に続き、中国でも“保健食品”の認証を取得しました。また、中国での「ヘルシーリセット」生産には、GMP認証が必要です。GMP認証とはGood Manufacturing Practiceの略で、良好製造規範のことです。本来は医薬品に求められる製造および品質管理の基準であり、人員管理、衛生管理、原料管理、貯蔵・運輸管理、施設・設計管理、生産工程管理、品質管理の7つの要件で構成されています。

上海日清油脂有限公司では、現地でGMP生産に必要な設備改造や管理面を整備して7つの要件をすべてクリアし、2008年12月にGMPの認証を取得、中国版「ヘルシーリセット」の製造を開始しました。(P12に関連情報を掲載)

“体に脂肪が付きにくい”という商品特長は、中国でも全く新しい機能をもった油です。また、その機能や使い方など、正しい情報を伝えるために、新たに上海にコールセンターを設置しました。お客様との直接的なコミュニケーションを通じ、製品のよさを広めていきます。

中国における法規対応の徹底のために中国法規部会の設置

今、中国では“食の安全確保へ向けた体制の整備”が急ピッチで進められています。そのひとつが法制度の整備です。食品安全法の新設や、さまざまな制度・基準の見直しを検討され、実行に移されています。当社グループでは、中国市場向け製品や中国で活動する日系企業向け製品などを生産・供給していますが、法制度を遵守する姿勢はどこでも同じです。急速な制度変化をしっかりと認識し、対応を進めていきます。

2008年度は中国事業会社、海外事業部、環境・品質保証室が連携して“中国法規部会”を立ち上げ、情報の更新や対応の確認などを進めています。

AIB管理手法による品質管理の取り組みの拡大

当社では、2008年に横浜磯子工場加工油脂工場にてAIBのExcellent(優秀)の評価を得ました。AIBフードセーフティ(GMP) 監査・指導システムは、安全な食品を製造するためにとらなければならない行為のガイドラインであるGMPを重視した食品安全管理システムです。

現在、当社では、このAIBを通して培った品質管理のノウハウを他の生産現場に活用し、品質の向上に努めています。

2009年度の課題

- 品質マネジメントシステムの有効性の強化(フードディフェンスの対応など)
- 消費者ニーズと当社コア技術の融合による新しい価値の創造

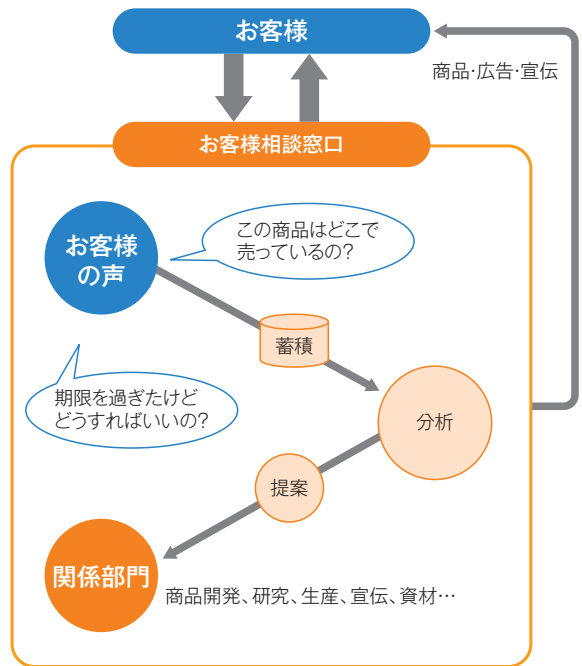
お客様の声を活かす取り組み

お客様からのお問い合わせ、ご意見・ご要望といったお客様の声を商品に反映していくことは、企業にとって最も大切な取り組みの1つです。当社は、商品やサービスに関するお申し出を、「お客様相談窓口」で受け付けています。

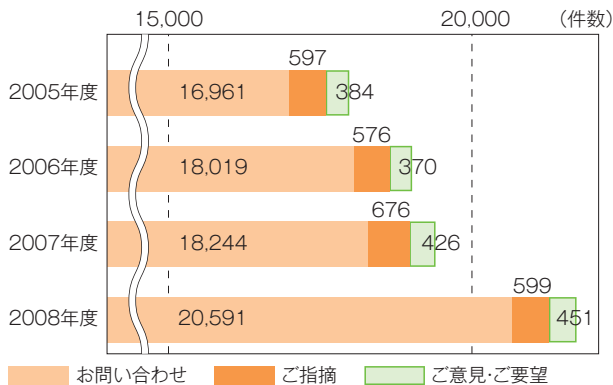
お客様の声は、すべてデータベースに蓄積し、集計・分析した後、定期的に生産工場、商品開発部門などの関連部門に報告し、新商品の開発や改善につなげる体制をとっています。

また、お客様からいただいたご指摘内容は、毎週経営陣や関連部門に報告し、迅速な原因の究明、改善策の実施につなげています。

●お客様の声を商品に活かす仕組み

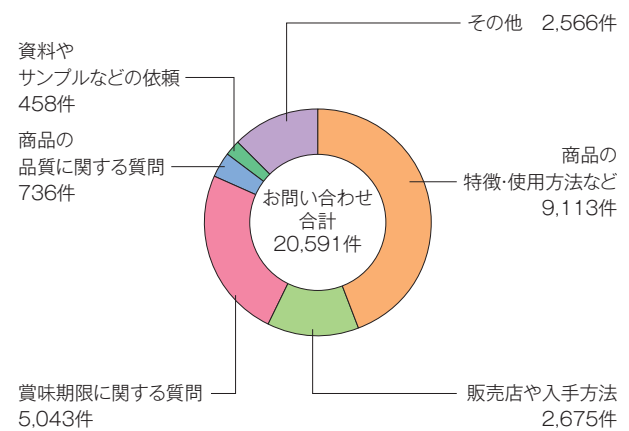


●お客様相談窓口へのお申し出件数



※お申し出件数の増加理由：2008年度は社会の中で食品に関わる事件・事故が多数発生しました。その影響で、消費者の食品に対する不安や意識が高まり、お申し出件数が大幅に増加しました。

●2008年度のお問い合わせ内容内訳



お客様の声を活かした改善

事例1 ●ラベルをはがしやすく

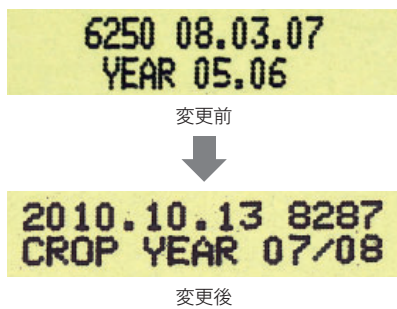
「リセットドレッシングソース200ml」のシュリンクラベルをはがしやすくするとともに、「はがし口↑」を印刷しました。お客様からの「容器を捨てる際にラベルをはがしにくく、どこからはがしていいのか、わかりにくい」とのご意見を反映したものです。はがし口のミシン目も、1本から2本に変更しました。



ミシン目を2本に

事例2 ●賞味期限を読みやすく

「トスカーナエキストラバージンオリーブオイル250ml」で、「賞味期限の数字の読み方を教えてほしい」との声をいただきました。イタリアの製造工場での管理番号の後に賞味期限を記載していたことが主な要因でした。賞味期限の数字を先頭に印字するとともに、さらに年部分を西暦の下2桁から4桁すべてを記載する方法に変更しました。変更以降、お客様からのお問い合わせは、ほとんどなくなりました。



お客様の視点に立った商品づくり

事例1 ●少なめの油でもおいしく料理を

当社が2009年3月に発売した「日清キャノーラ油エコアップ600g」は、少なめの油でもおいしく調理できる商品です。

少なめの油で揚げ物などをするご家庭が増えている、という調理実態の多様化を受けて開発しました。

本商品は、「むだづかいをしたくない」というお客様のニーズに応えるとともに、使用後の廃油量を減らすという環境面にも配慮した商品となっています。

事例2 ●注意点が気がつくように

「日清キャノーラ油エコアップ600g」において、油の加熱時や使用時の注意点を「使用上の注意」として、商品ラベルにわかりやすく表示しました。通常より大きな文字を使用し、また、赤枠で囲むことにより、視認性を高めました。



事例3 ●より持ちやすく

「日清サラダ油1300g」丸ボトル容器で、持ち運びをやすくするために、取っ手部分の形を変更しました。取っ手の長さを長くし、さらに容器と取っ手の間の空間を広くすることにより、指全体で取っ手が持ちやすくなりました。



ホームページにお客様相談窓口のページを公開しました

2009年4月から、商品に関するよくあるご質問、お客様の声を反映した商品の改善事例、品質や環境に関する取り組みなど、お客様にお伝えしたい情報をまとめてご覧いただけるお客様相談窓口のホームページを公開しました。また、今回の窓口公開にあわせて、お客様からのお問い合わせをメールで受け付けられるようにしました。

今後もより一層、お客様にご満足いただくために、さまざまな情報の積極的な発信やお問い合わせをいただいた際の正確、丁寧、迅速な対応に努めます。

<http://sodan.nissin-oillio.com>



取引先様とともに

調達の方針

「日清オイリオグループ行動規範」におけるビジネス社会の法令および倫理の遵守

- 原料・資材等の購入先などに対しては、常に公平かつ対等な立場で接し、優越的地位を利用して不当に不利益をおよぼしません。また、個人的な利益や便宜の供与を要求しません。
- 販売店などに対しては、常に公平かつ対等な立場で接し、排除行為・不当に差別的な取り扱い・事業活動の妨害などの不正行為を行いません。
- 取引先などとの接待や贈答品の授受は、健全な商慣習や社会的常識の範疇を逸脱しません。

取引先様(調達先)とのコミュニケーション

持続可能なパーム油のための円卓会議への参加

マレーシアにある当社のグループ会社INTERCONTINENTAL SPECIALTY FATS SDN.BHD.は「持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)」に参加しています。RSPOは、国際的な非営利団体であり、環境や社会に配慮した、持続可能なパーム油産業の開発・運営に取り組んでいます。

● 当社グループとマレーシア現地団体との主なネットワーク

- ・ Malaysian Palm Oil Board (MPOB) / マレーシアパーム油庁
パームの研究・開発を通じてのマレーシアパーム産業の発展に貢献
- ・ Malaysian Palm Oil Council (MPOC) / マレーシアパーム油協議会
パーム油の特長を世界に紹介し、パーム油およびパーム関連製品の普及と市場拡大を促進
- ・ The Palm Oil Refiners Association of Malaysia (PORAM) / パーム油精製業者協会
パーム油業界の発展、パーム関連製品の貿易拡大

取引先様(販売先)とのコミュニケーション

政策説明会の開催

定期的取引先の皆様を対象とした政策説明会を開催し、当社の商品や販売戦略などについて紹介してコミュニケーションを図っています。2009年2月に開催した政策説明会には、量販店の方々を中心に約200名にご参加いただきました。原料状況の説明や当社商品の紹介を行い、当社の技術力や提案について、ご参加の皆様から高い関心をいただきました。



政策説明会

取引先様(調達先)と連携した商品開発

事例1 ●注ぎ口内フタの改善でもれにくく

日本クラウンコルク(株)様との共同開発により、「日清炒め油」の注ぎ口内フタを取り外し式から一体型の自動開閉式に変更しました。これにより内フタの紛失を防ぐとともに、内フタ紛失によるもれをなくすことができました。

なお、この開発品で日本クラウンコルク(株)様が第46回全日本包装技術研究大会で優秀発表されています。



「日清炒め油」で採用した注ぎ口内フタ

事例2 ●容器包装における改善の取り組み

2008年度は、ボトルに植物由来の生分解性素材を採用、またラベル素材にも再生PETを使用したギフト向け新商品「日清Natu-made(ナチュメイド)シリーズ」を発売するなど、3Rを意識した容器包装の開発に資材メーカー様とともに積極的に取り組みました。

また、本商品のキャップ部分には点字表示を加えてあり、障がいのある方にもお使いいただける、ユニバーサルデザインに配慮した商品としました。



取引先様(販売先)と連携した商品開発

事例1 ●ゼリー飲料用中鎖脂肪酸についての共同研究

(株)コカ・コーラ東京研究開発センター様との共同研究により、中鎖脂肪酸を配合した機能性飲料の持久力向上効果を確認しています。その「持久系エネルギー成分MCT(中鎖脂肪酸)」を配合した初めてのゼリー飲料が、日本コカ・コーラ(株)様より2008年6月より、素早く効率的に持久系エネルギーを補給できる商品「アクエリアス パワフルショット」として発売されています。

事例2 ●食品メーカーや外食産業との商品共同開発

多くの食品メーカー様や外食産業様との商品共同開発に取り組んでいます。中鎖脂肪酸の特長を活かした商品の開発(リセットネットワーク商品の開発)や、低トランス脂肪酸商品の開発を行っています。(トランス脂肪酸への対応→P15参照)

2009年度の課題

- 外部パートナーとの協力・提携による新技術開発、用途開発の推進
- 資材メーカー等と連携した容器品質の向上

株主・投資家の皆様とともに

コミュニケーション推進への取り組み

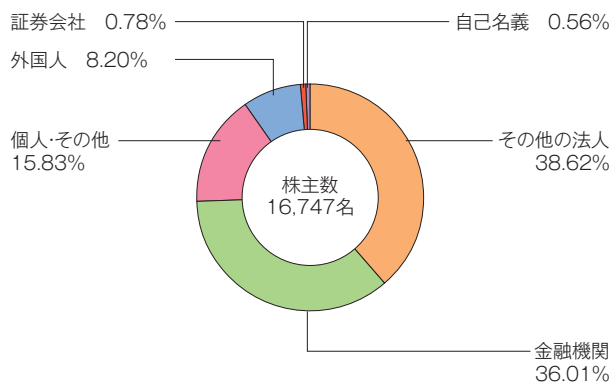
当社は、健全な成長と安定した企業業績のもとで、株主の皆様と双方向のコミュニケーションの推進による良好な関係を築きながら、株主価値の向上と適切な利益還元に努めます。また、広く投資家の方々に向けて、適切な情報開示を行います。

株主価値の追求は行動規範のひとつ

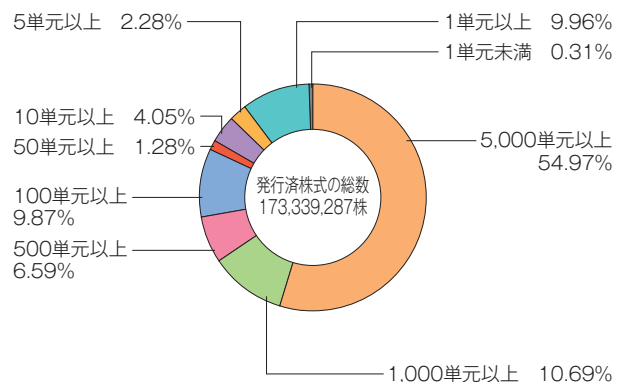
「日清オイリオグループ行動規範」における — 株主価値の追求 —

- 誠実な事業活動、経営資源の効率的な活用、適切なリスク管理を通じて企業の利潤を追求し、株主の期待に応えます。
- 株主・投資家の適切な判断に資するよう、当社グループの活動・組織・財務状況・業績などの開示のみならず、将来の成長戦略や企業の社会的責任（CSR）に対する取り組み等の経営情報を常にタイムリーに開示するよう努めます。

● 株式分布状況（2009年3月31日現在）



● 所有者数状況（2009年3月31日現在）



2008年度の主な活動

株主・投資家の皆様とのコミュニケーション活動、情報提供のための取り組みとしてさまざまな活動を行いました。

株主様工場見学会

2008年9月に、株主様向け工場見学会を、昨年に引き続き主力工場である横浜磯子事業場で開催しました。抽選による46名の株主様と同伴者あわせて82名にご参加いただき、映像による会社紹介をするとともに、工場構内をバスで見学していただきました。

また、今回はミニプラントによる搾油・精製実験を実施し、大変わかりやすいと好評でした。見学終了後、社長以下取締役が参加した懇談会を開催し、当社製品を使用した料理をご賞味いただきました。



株主様工場見学会

個人投資家の皆様とのコミュニケーション

2008年度は証券会社とのタイアップで全国の証券会社支店にてセミナーを計15回開催し、約900名の個人投資家の皆様に当社グループの事業領域や健康に関する取り組みなどについて説明しました。

機関投資家・アナリストの皆様とのコミュニケーション

機関投資家・アナリストの皆様を対象に、中間決算発表、期末決算発表に合わせて決算説明会を開催し、業績や経営戦略について説明しました。また、個別のミーティングを積極的に行い、2008年度は延べ95回開催しました。

株主の皆様への利益還元

利益配当については、安定的な配当の継続を基本としつつ、中期経営計画の達成状況、連結業績を勘案し、配当性向も考慮したうえで実施していく方針としています。2009年3月期は、1株につき10.0円(中間配当5.0円)の配当金としました。

● 配当実績

(円)

| | 2005年度 | 2006年度 | 2007年度 | 2008年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|
| 中間配当 | 3.5 | 4.0 | 5.0 | 5.0 |
| 期末配当 | 4.0 | 6.0* | 5.0 | 5.0 |
| (年間計) | 7.5 | 10.0 | 10.0 | 10.0 |

※記念配当2円を含みます。

株主優待制度

毎年3月31日現在の株主名簿に記載され、1,000株以上を所有している株主様に3,000円相当の日清オイリオグループ製品をお贈りしています。

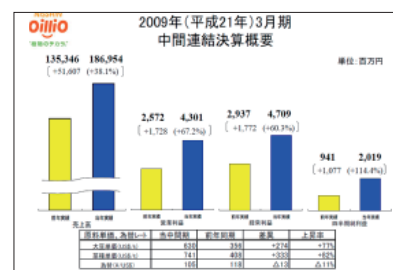


2008年度の株主優待品

決算説明会

アナリストやマスコミの皆様を対象に、年2回、決算説明会を開催しています。経営トップから決算や中期経営計画の進捗状況などを説明し、タイムリーな情報を提供できるよう努めています。また、決算説明会で使用した資料はホームページ上で開示しています。

2008年度からは四半期開示制度の開始により、決算説明会を行っていない第1四半期と第3四半期については、決算発表日と同日に「決算補足資料」をホームページ上で開示しています。



決算説明会資料

IRツール

正確で信頼性の高い情報を、ホームページ上でタイムリーに公開しています。売上高、損益の推移などを業績ハイライトのサイトでご覧いただけます。また、携帯電話でのIR情報提供を行っています。その他、株主通信、アニュアルレポート(英文)等を通じて、わかりやすい情報開示に努めています。また、海外投資家の皆様への情報発信強化策として、決算短信概要の英語版をホームページ上で開示しています。

IR情報：http://www.nisshin-oillio.com/inv/
携帯電話でのIRサイト：http://m-ir.jp/c/2602



株主通信



ホームページ



アニュアルレポート(英文)

| | Q4 (2008) | | Q4 (2007) | | YoY change (%) |
|-----------|---------------------------|------------------------------------|---------------------------|------------------------------------|----------------|
| | Revenue (Millions of yen) | Operating profit (Millions of yen) | Revenue (Millions of yen) | Operating profit (Millions of yen) | |
| FF2008 Q4 | 351,208 | 7,284 | 6,507 | 3,346 | 111.2 |
| FF2007 Q4 | 228,726 | 4,876 | 4,213 | 2,285 | 119.3 |
| FF2008 FY | 1,375,000 | 20,000 | 1,210,000 | 10,000 | 113.6 |
| FF2007 FY | 1,120,000 | 8,000 | 1,000,000 | 7,000 | 112.0 |

決算短信概要(英語版)

第136回定時株主総会の開催

2008年6月26日、第136回定時株主総会を開催しました。雨天にもかかわらず昨年を大幅に上回る279名が出席され、会場はほぼ満席の状態となりました。複数の株主様から活発な質問やご意見をいただき、コミュニケーションを図りました。



第136回定時株主総会

買収防衛策の導入

当社は、2008年5月開催の取締役会において「当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針」ならびに基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組みのひとつとして、当社グループの企業価値および株主の皆様共同の利益の確保・向上を目的に「当社株式の大規模買付行為に関する対応方針」(買収防衛策)の導入に関する決議を行い、同年6月開催の定時株主総会において承認されました。当社は引き続き、当社グループの企業価値および株主の皆様共同の利益の確保・向上に努めます。

2009年度の課題

- 株主・投資家の皆様とのコミュニケーションの強化
- 海外投資家の皆様への情報発信の強化

従業員とともに

人材の育成とキャリアデザイン構築

時代に合った働きやすい環境を整え、従業員が自己の成長を感じられる働きがいのある、いきいきとした職場を実現します。

「日清オイリオグループ行動規範」における — 従業員価値の追求 —

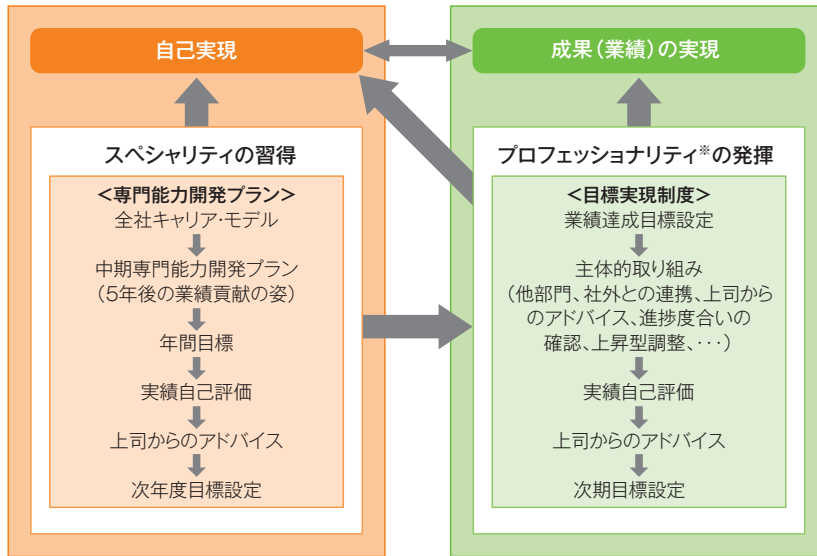
- 常に安心できる安全・高品質な商品、サービスをお客様に安定的に供給する使命に誇りを持ち、常にチャレンジ精神を持って、業務に関する能力の向上、積極的な業務改善・効率化に努めます。
- 従業員一人ひとりの基本的人権を尊重し、職場における不当な扱いや差別を排除します。また、自己実現と業績向上を基本とした公正な評価・処遇をすることに努めます。
- 従業員一人ひとりの個性・適性を尊重し、それぞれのキャリア形成や能力開発を積極的に支援します。また、次代の中核となる「豊かな創造性、高度な専門性、強い行動力と課題解決力」をもつ人材の育成に努めます。
- 相互の報告・連絡・相談を円滑かつ正確に行い、お互いが信頼し協力しあえる風土作りに努めます。また、常に職場環境の安全衛生の維持・向上に努めるとともに、従業員と家族の安心をつくりだすことに努めます。

人材の育成に力を入れた人事諸制度

「能力開発・成果主義」を基本理念とした新プロフェッショナル人事制度

当社の従業員一人ひとりが、高度な専門性に裏付けられた行動力をもって成果を出すプロフェッショナルであってほしいと考えています。2000年に導入した人事制度の「能力開発・成果主義」をさらに深化・体質化させ、より創造的で躍動感ある風土を醸成するとともに、行動力や組織力の強化、人材育成の再徹底といった視点で改定し、2009年度からスタートしました。この制度の特長は、単に成果のみを追求するのではなく、従業員個々の主体的な能力開発を会社が支援することを前提としている点にあります。この人事制度の中心となる仕組みとして「目標実現制度」と「専門能力開発プラン」があり、この二つの制度が密接にリンクすることにより期待される成果が達成されるのです。

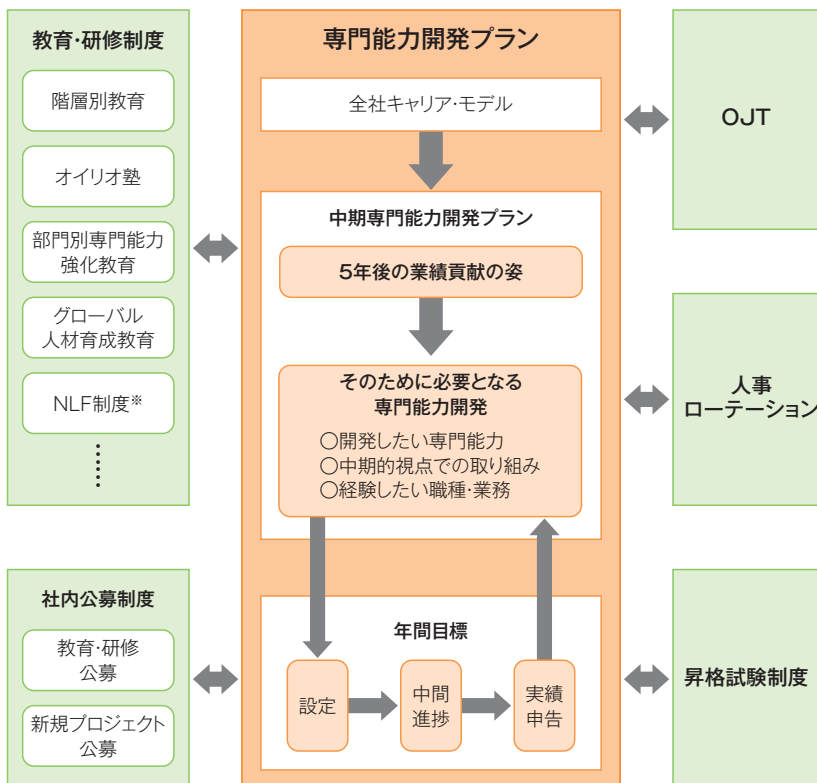
下図は新プロフェSSIONAL人事制度における「目標実現制度」と「専門能力開発プラン」の位置づけを表しています。



※プロフェSSIONALITY(造語)：スペシャリティを武器にして、ステークホルダーの視点にたった行動力を発揮し、責任をもって部門の業績向上を成し遂げること

充実した能力開発体制

専門能力開発プランを中心に、図のようなさまざまな取り組みを連動させ、従業員一人ひとりの能力開発を推進しています。特に教育研修については、長年にわたって「教育はすべての業務に優先する」という考え方のもと、階層別教育、部門別教育、自己開発教育など体系的な教育研修制度を整え、従業員教育の充実に力を入れています。



※NLF制度：語学スクーリングやTOEIC受験、通信教育受講・資格支援など自己開発教育への補助などを行っています。

公平・公正で働きやすい職場づくり

障がいのある方の雇用のための子会社運営

当社では、障がいのある方の積極的な雇用を推進しています。2004年4月から、障がいのある方に安心して働くことができる場を提供することを目的とする特例子会社「日清オイリオ・ビジネススタッフ株式会社」をスタートさせました。横浜磯子事業場内の清掃業務を中心に仕事を通じた能力開発を支援しています。



●障がい者雇用率

| 2007年3月 | 2008年3月 | 2009年3月 |
|---------|---------|---------|
| 1.95% | 1.82% | 1.94% |

定年退職者再雇用制度

当社では、2006年4月から定年退職者の再雇用制度を導入しています。本制度は、60歳を迎える従業員に希望を募り、一定の要件を満たしている場合、契約社員として再雇用するものです。2008年度は21名が本制度を利用し再雇用契約を結びました。

さまざまなライフスタイルに対応するための諸制度

●人事関連の各種制度（一例）

| | 内容 | 2007年度実績・状況 | 2008年度実績・状況 |
|------------|--|-------------|-------------|
| 半日休暇 | 年次有給休暇のうち10日分(半日休暇20回分)を半日休暇として取得できる。 ※2009年度から取得可能日数を拡大しました。 | 有効に活用されている | 有効に活用されている |
| 積立有給休暇 | 年次有給休暇を積立て(年間5日累積40日分を限度)、私傷病で7日以上連続不就業となる場合に取得ができる。 | 有効に活用されている | 有効に活用されている |
| 永年勤続表彰制度 | 勤続10年:記念品の授与 勤続20年:旅行券5万円・特別休暇3日 勤続30年:旅行券10万円・特別休暇5日 | 84名 | 81名 |
| 育児休職制度 | 子が小学校就学するときまでを限度に、従業員が申し出た必要な連続した期間取得できる。 | 3名 | 10名 |
| 短時間勤務制度 | 子が小学校3年生を修了するときまでを限度に従業員が申し出た必要な連続した期間勤務時間短縮ができる。 ※2009年度から適用対象を拡大しました。 | 4名 | 5名 |
| 介護休職制度 | 要介護状態の家族を持つ場合、1年以内の期間取得できる。 | なし | なし |
| ボランティア休暇制度 | 会社が認めるボランティア活動に参加する場合、年間6日間を限度に取得できる。 | 3名 | 1名 |

ボランティア休暇制度について、より多くの従業員が主体的にボランティア活動へ参加できるよう、2009年2月に社内報にて特集記事を組み、制度の理解と周知徹底を図りました。

心身の健康づくりのために

2008年秋季より始まった特定健診の準備として、2008年春季健診より診断項目を特定健診に合わせたものに見直し、社員の健康管理体制の充実を図りました。健康診断の結果は、産業医および看護師による健康管理フォローにもつなげています。

また、メンタルヘルスについても、全社的な心の健康管理に向けて健康管理体制をとっています。このほか、健康保険組合との取り組みとして、全社員に万歩計を配布し生活習慣病予防運動(ウォーキング)の推進を図りました。

●ウォーキング・禁煙運動 参加実績

| | | 2006年度 | 2007年度 | 2008年度 |
|--------|-----|--------|--------|--------|
| ウォーキング | 参加者 | 327名 | 371名 | 534名 |
| | 達成者 | 263名 | 179名 | 384名 |
| 禁煙 | 参加者 | 8名 | 13名 | 23名 |
| | 達成率 | 50% | 38% | 35% |

人権セミナーの開催

2008年10月、人権をテーマにしたセミナーを実施しました。詳しくは、P33「コンプライアンス強化月間企画」をご覧ください。

メタボリックシンドローム対策セミナーの実施

2008年12月、外部機関より保健師を講師に招き、「メタボリックシンドローム撃退セミナー」を開催しました。講義とともに検診結果に基づくメタボ危険度チェックや、6ヵ月間で体脂肪を減らす行動目標の作成を行うなど、具体的な行動につながるセミナーになりました。



セミナーの様子

健康を支援する食堂運営

当社の本社食堂(1日平均150人利用)や横浜磯子事業場内の社員食堂(同200人利用)では、利用者の健康に配慮し、健康への意識を促す取り組みとして、利用者の声を反映しながら「健康定食」や「メタボ対策メニュー」といったメニューを提供しています。



社員食堂の健康定食

2009年度の課題

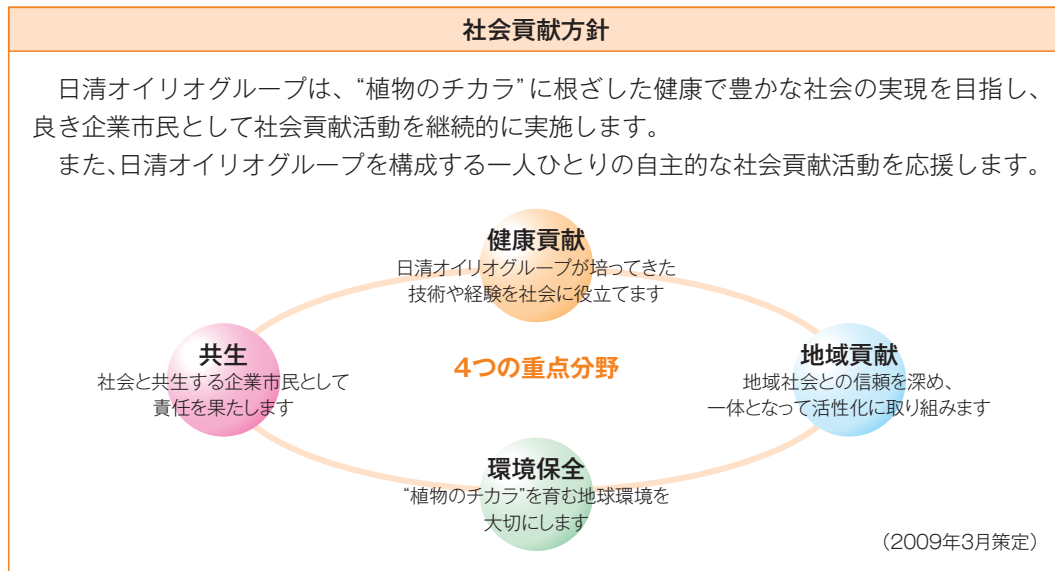
- チャレンジ性強化、人材育成強化等を主目的とした新人事制度の具体施策の展開
- 時間創出をベースとした当社独自のワークライフバランスと次世代育成支援の具体施策の検討・実施

社会のために

社会とのコミュニケーション

良き企業市民として地域、社会に貢献するとともに国際社会の一員としても良好な企業活動や積極的なコミュニケーションを図り、社会とともに発展していくよう努めます。

日清オイリオグループは、2009年3月に新たにグループの社会貢献活動方針を策定しました。



国連WFP協会との取り組み

当社グループは、特定非営利活動法人(認定NPO法人)国際連合世界食糧計画WFP協会(国連WFP協会)の評議会メンバーとして、その趣旨に賛同してさまざまな活動に参加しています。食を扱う企業グループとして、世界の飢餓問題に取り組んでいる国連WFP協会とは、今後も社会貢献活動のパートナーとして一層交流を深めていきます。

チャリティーウォーク「ウォーク・ザ・ワールド2008」

子どもたちの飢餓をなくすためのチャリティーウォークに32名が参加しました。また、ボランティアとしてイベント事務局の運営にも社員が毎年参加しています。



チャリティーウォーク

生徒作文コンクールへの協賛

第5回WFP生徒作文コンクールに協賛しました。小中学生に、世界の飢餓問題に対する取り組みについてアイデアを出していただきました。

ボランティアベンダーの導入

本社食堂にボランティアベンダーの飲料自動販売機を導入しました。ボランティアベンダーとは、特定の自動販売機で清涼飲料を販売することにより、当社、飲料メーカーおよびベンダー企業の3者が募金する仕組みです。飲み物を買う人はお金を出さなくても、ボランティアベンダーの自動販売機を選ぶことで募金につながります。当社はこの制度を通じて国連WFP協会に寄付を行っています。



ボランティアベンダー

横浜磯子春まつりでの国連WFP協会ブース出展

毎年4月に横浜磯子事業場にて開催している横浜磯子春まつりでは、国連WFP協会のブース出展に協力しています。ブースでは、世界の飢餓状況、WFPの活動紹介や募金活動を行っています。



WFPの横浜磯子春まつりへのブース出展

社内でのWFP活動の紹介

昼食時間などを利用して、国連WFP協会の職員の方を招いて、社内啓発活動を実施しています。WFPの活動の紹介や世界の飢餓問題・貧困問題の紹介を通して、社員の社会貢献への理解を深めてもらうとともに、ボランティアの募集や各種WFPイベントへの参加呼びかけ、募金活動を行っています。



WFPの活動を社内で紹介



国連WFP協会より

認定NPO法人 国連WFP協会
石川 莉紗子さん

WFPは、開発途上国の飢餓問題解決のために食糧支援を行っており、緊急時には命を守るための食糧を届け、学校では栄養たっぷりの給食を提供するなどの活動を行っています。

日清オイリオグループさんには、これまでも評議員としてさまざまなかたちで当協会の活動に参加いただききましたが、2008年は社員の皆様のボランティア参加を含め、さらに多くの取り組みで一緒に、心強く思っております。

“健康”や“食”をテーマにした社会貢献をすすめていかれる御社の方針と当協会の活動とはとても重なる部分が多く、これからもぜひご理解、ご協力をいただきたくよろしくお願ひします。

国連WFP協会(国連世界食糧計画)とは

国連WFP協会は、飢餓の撲滅を使命に食糧支援を行うWFP 国連世界食糧計画(以下WFP)を支援する認定NPO法人で、日本におけるWFPの公式支援窓口です。WFPの人道支援活動を支える募金活動、飢餓問題やWFPの取り組みについての広報活動により、企業・団体と連携し、日本でのWFP支援の輪を拡げています。

<http://wfp.or.jp/>

海外での社会貢献活動

中国大連での地域交流活動

中国大連の経済技術開発区では、日系企業の総務人事部門管理職の会合が母体となったボランティア団体があり、農村地域の小学校の校舎建設や設備・文具用品の寄贈などの活動を行っています。

大連日清製油有限公司では、地域社会とのコミュニケーション活動の一環としてこの活動を支援しており、従業員も参加しています。2008年には、小学校への訪問用に移動用バスを提供しました。



地域小学校への訪問活動

その他の社会貢献活動

災害・支援寄付活動

国連WFP協会や国際食糧農業機関（FAO）、日本経団連自然保護基金などの公益団体への寄付や被災地への援助を行っています。その他に2008年度は、中国四川大地震被災地などへ関連団体を通じて、被害義援金を寄付しました。

ベルマーク運動への参画

ベルマーク教育助成財団創設当初から40年以上にわたり、教育振興のベルマーク活動の趣旨に賛同し、同運動へ参画しています。現在、5つの商品を対象として、全国の学校施設の充実に向けて貢献しています。



ベルマーク対象商品の一部

地域での清掃活動

各地の事業所周辺あるいは地域社会で、従業員による清掃活動を行っています。環境美化のために今後も継続して取り組んでいきます。



名古屋工場周辺での清掃活動

各事業場の献血活動

各事業場では毎年1～2回、献血検診車が来場し献血活動を展開しており、多くの従業員が献血に参加しています。

お客様、地域社会との交流

横浜磯子事業場での地域イベントの開催

横浜磯子事業場では、年2回、地域の皆様に施設を開放してイベントを実施しています。「横浜磯子春まつり」は、2008年で27回目の開催となり、地域の春の祭りとして定着しました。また、「夏祭り」では、従業員の手作りによる夜店や抽選会などを行い、地域の皆様に楽しんでいただいています。



地域イベントでの横浜磯子春まつり

もぎ豆腐店(株)の地域イベントへの参加

当社グループの一員としてこだわりの豆腐を製造・販売しているもぎ豆腐店(株)は、地域に密着した企業として、地元の埼玉県本庄市でのイベントなど、さまざまな企画に積極的に参加しています。

●もぎ豆腐店(株)2008年度の主な参加・協賛イベント

- ・ インターナショナルスクールの
チャリティバザー
- ・ 伊勢崎餅の郷まつり
- ・ 豆腐作り教室



地域イベントでのもぎ豆腐店

地域・社会の健康づくりに向けて

当社は、各種スポーツイベントの開催や協賛を通して、地域・社会における健康づくりを応援しています。毎年「神奈川マラソン」を後援しており、この大会のスタート・ゴール地点として横浜磯子事業場を提供しています。海外においては、「東レ杯上海国際マラソン」に協賛しています。当社は今後も引き続き、地域スポーツの支援を行っていきます。



神奈川マラソン(2009年2月)



上海国際マラソン(2008年11月)

アスリートをサポートする“植物のチカラ®”

当社グループは、「おいしさ・健康・美」の提案・創造によって人々の幸せの実現に貢献することを使命と考えます。その考え方のもと、スポーツ振興事業への取り組みを推し進め、未来のトップアスリートの卵である子どもたちの育成や各種スポーツイベントの開催・応援などに取り組むとともに、栄養講座の実施やホームページ上での情報提供を通じてスポーツ愛好家・アスリートを支援しています。また、日本オリンピック協会（JOC）オフィシャルパートナーとして世界で戦う選手を応援しています。

育て未来のトップアスリート

当社は、子どもたちの健全な成長に貢献するため、日本サッカー協会（JFA）との取り組みを2006年から行っています。「全日本少年サッカー大会」都道府県大会および決勝大会の支援、スポーツをする子どもの食事のポイントを説明した「食生活サポートBOOK」の配布、スポーツ栄養の分野でご活躍の橋本玲子さん（管理栄養士）を講師に迎えた栄養セミナーの開催などを通じ、未来のアスリートをサポートしています。



全日本少年サッカー大会



栄養セミナー

3人の日本代表を食事・栄養面でサポート

当社は、北京オリンピック・卓球日本代表の福原愛選手、FISフリースタイルスキー世界選手権（2009年3月開催）の女子モーグルで日本人初のチャンピオンとなった上村愛子選手、同大会で入賞した伊藤みき選手と食事・栄養サポートを含むアドバイザー契約を結んでいます。管理栄養士である当社従業員が、国内外の自主トレーニングおよび合宿中の食事メニューの提案、スポーツ栄養の視点での食事管理など、食生活面からサポートしています。



福原愛選手（左）と打ち合わせ

私は選手の食事・栄養サポートをしています

日清オイリオグループ（株） 宣伝・広告部 主管
清原 知子

アスリートの皆さんは、最高のパフォーマンスを発揮するため、日々厳しいトレーニングに加え、食事にも気を遣っていらっしゃいます。食事・栄養サポートをさせていただいているアスリートが、世界の舞台で活躍されている姿を見るのは、とても嬉しいことです。アスリートのチカラとなるように、食事・栄養サポートを一層充実させていきたいと思っています。

食育への取り組み

食育活動として「食を育む4つのチカラ」を支援しています。

- ①身につけるチカラ：食の興味を育み、知識・調理技術を身につける。
- ②選ぶチカラ：健康的で幸せな生活の糧となる食を選ぶ。
- ③使いこなすチカラ：現代のライフスタイルに合わせて、上手に食を工夫する。
- ④伝えるチカラ：次の世代へ、育みの心と共に食を伝える。

料理教室

おいしい食卓を通じて幸福生活をお過ごしいただけるように、各地で料理教室を開催しています。当社単独、あるいは他企業との共同で、お客様へ食用油のおいしさや料理の楽しさを提案しています。2007年度から、皆様の健康維持のために「メタボリック対策メニュー」料理教室を地域の量販店の皆様と共同で開催しています。また、オリーブオイルのすばらしさ、食卓を豊かに彩る料理へのひろがりをご理解いただくために、オリーブオイルのセミナーを開催しています。



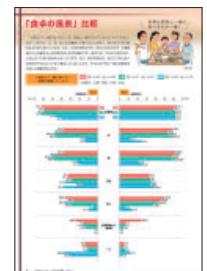
料理教室

ショートレポート「生活科学情報」による調査結果の発信

当社の生活科学研究室では、食生活を中心とした社会全般の動向についての調査や考察を行い、ショートレポートとして情報を発信しています。

1) No.11 3都市(北京・上海・東京)における若年層の「食」スタイルを比較 (2008年7月発行)

日本と中国での「食」に関する意識や行動の違いを把握することを目的に、北京、上海の20~30代の中高所得者と、東京の同年代の人々を対象として調査した結果をまとめました。北京・上海・東京における「食卓風景」「調理実態」「食用油使用実態」の比較や、各都市の家庭料理について報告しています。



ショートレポートNo.11

2) No.12 メタボ対策に関する意識と行動～メタボ対策に積極的な人と非積極的な人を比較して～ (2009年4月発行)

メタボ対策に取り組むための促進・阻害要因を把握することを目的に、30~60代の男性を対象として調査した結果をまとめました。メタボ対策に「積極的な人」と「非積極的な人」の性格、属性および食・運動・生活行動、対策に取り組むようになったきっかけなどを報告しています。



ショートレポートNo.12

学会発表による報告

学会の場にて、活動成果の発表を継続的に行い、参加された皆様から高い関心をいただいています。

1) 全国調査から見た環境配慮行動の実態と食生活との関連性 (日本家政学会第60回大会、2008年5月30日-6月1日)

日本女子大学目白キャンパスにて、児童・家族・食物・被服・住居と多岐に渡る分野から研究発表がされ、高校の教員や、短大・大学・企業の研究者による活発な討議が行われました。生活科学研究室からは、生活者の環境配慮行動を引き起す要因と、食生活との関連性について考察した「全国調査から見た環境配慮行動の実態と食生活との関連性」を発表しました。特に、食生活と環境配慮行動に関連性があることに関しての質疑が多く、このような結果を今後の家庭科教育に活かしたいといった意見も短大や大学の研究者から寄せられました。



2) 家族形態による理想と現実の「食スタイル」について (第2回日本食育学会学術大会、2008年5月31日)

東京農業大学世田谷キャンパスにて開催され、栄養士、教育機関、行政機関、民間企業、NPOおよびボランティアなど800名近くの食育に携わる人たちが参加しました。生活科学研究室からは、家族形態別に望んでいる食に関するライフスタイル(食スタイル)とその実現度を調査することで、さらなる少子化時代を迎える中で今後増加する食スタイルを予測した『家族形態による理想と現実の「食スタイル」について』を発表しました。



学会発表の様子

参加者の方からは、自分の家族形態と食生活の変化を研究発表結果に重ね合わせ、現状の食生活を見つめなおすきっかけになったとのご意見を多くいただきました。

ホームページでの生活科学情報の発信

2008年4月に、当社ホームページ上に「生活科学研究室」サイトを開設し、情報発信の充実をはかりました。ホームページで公開中の主な内容は以下の通りです。

1) 食と生活情報レポート

- ・3都市(北京・上海・東京)における若年層の「食」スタイルを比較
- ・メタボ対策に関する意識と行動～メタボ対策に積極的な人と非積極的な人を比較して～



生活科学研究室サイト

2) 学会発表情報

- ・全国調査から見た環境配慮行動の実態と食生活との関連性
- ・家族形態による理想と現実の「食スタイル」について

3)発見!ご当地「油」紀行

ご当地の特徴ある油を使用した料理や、油の使用方法を紹介

- 第1回 行田市・ゼリーフライ
- 第2回 徳島県・フィッシュカツ
- 第3回 中国 上海市・「油」事情
- 第4回 中国 上海市・トマトと卵の炒め物
- 第5回 中津市・鶏のからあげ
- 第6回 高岡市・高岡コロッケ

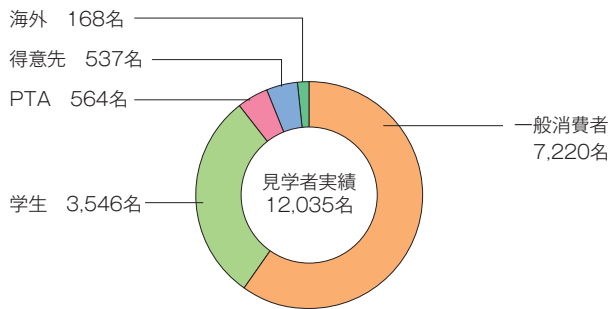


第1回 行田市・ゼリーフライ(左)とゼリーフライ(右)

工場見学

食用油の生産現場を知っていただくため、横浜磯子事業場の工場見学を予約制にて承っており、消費者の皆様、全国の小中学生などを中心にご利用いただいています。環境への負荷が少ないCNG(圧縮天然ガス)を燃料とした見学用バスを使用し、広大な工場敷地内を皆様に見学いただいています。また、事業場内のPR施設「ウェルネスギャラリー」では食用油の歴史・原料や生産工程をわかりやすくご紹介しています。なお、その他の事業場、研究所においては取引先様を中心とする見学を承っています。

●横浜磯子事業場の工場見学者数 (2008年度)



見学者用バス



ウェルネスギャラリー

●横浜磯子事業場 工場見学のお申し込み・お問い合わせは
日清オイリオ ウェルネスギャラリー TEL 045-757-5038/045-757-5030

2009年度の課題

●新規策定した「社会貢献方針」の企業グループ内浸透と、「4つの重点分野」に基づく活動推進

環境のために

環境マネジメント推進体制

常に未来に向けた技術で、“植物のチカラ”を引き出し、原料・資材の調達から、生産、納品、ご使用、廃棄にいたるまで地球環境に配慮した商品・サービスの開発、提供を通じて、資源循環型社会の構築を目指します。

「日清オイリオグループ行動規範」における — 環境への取り組み —

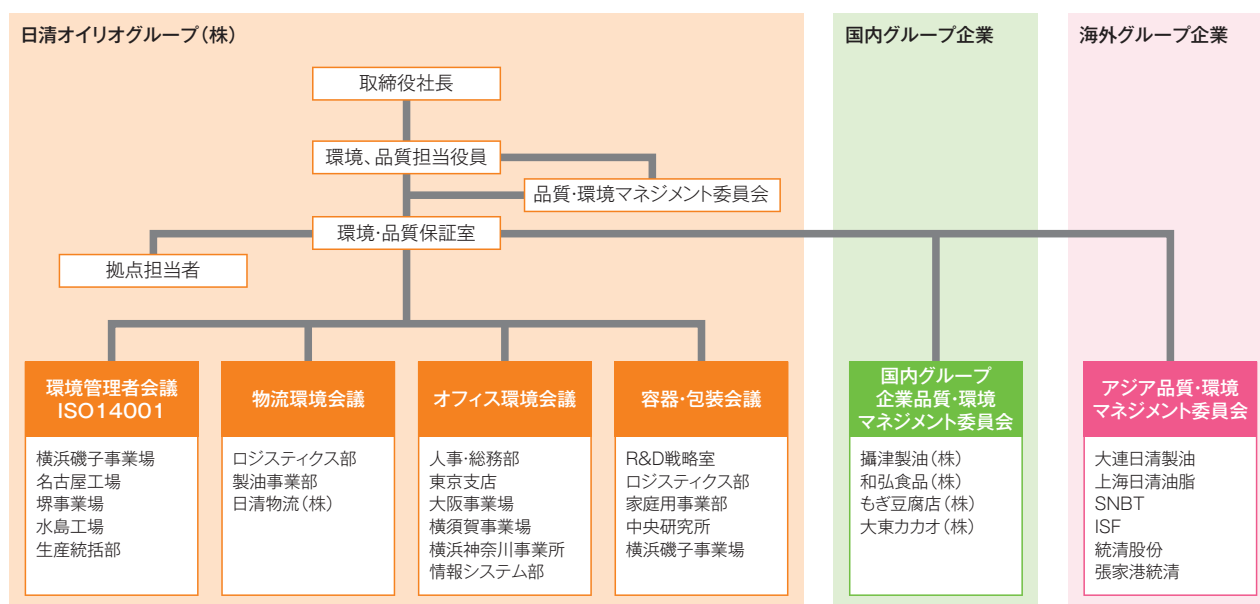
- 資源循環型社会の構築を目指して、「3R活動 (Reduce・Reuse・Recycle)」を実践するとともに、資源・エネルギーの利用の効率化による地球温暖化対策に主体的に取り組めます。また、当社グループの環境への取り組みや考え方をあらゆるステークホルダーに幅広く理解していただくことを目的に、環境に関する自社活動情報の積極的な公開に努めます。
- 安全・高品質であると同時に、省資源、省エネルギー、リサイクル、環境への影響などに着目した「自然と環境にやさしい」商品・サービスの開発・提供に努めます。

環境マネジメント推進体制

「品質・環境マネジメント委員会」は、全社の環境問題に関する中長期の対応方針と戦略の立案、環境マネジメントシステムの統括を担う経営委員会です。

2008年度は、「国内グループ企業品質・環境マネジメント委員会」、「アジア品質・環境マネジメント委員会」では、各企業における環境パフォーマンスの現状認識、環境に関する調査結果について検討しました。今後は環境マネジメントシステム認証企業の拡大、グループ全体での環境監査、環境教育などを推進していきます。

●日清オイリオグループ環境マネジメント体制



●品質・環境マネジメント委員会の開催状況

(回)

| | 2006年度 | 2007年度 | 2008年度 |
|------------------------|--------|--------|--------|
| 品質・環境マネジメント委員会 | 4 | 3 | 2 |
| 国内グループ企業品質・環境マネジメント委員会 | 1 | 1 | 1 |
| アジア品質・環境マネジメント委員会 | 2 | 2 | 2 |

環境マネジメントシステム認証取得状況(グループ企業含む)

日清オイリオグループでは、ISO14001などの環境マネジメントシステムの認証を取得し、環境マネジメントプログラムに基づく活動を行っています。2009年度には、これまでの生産拠点ごとの認証取得から、さらなる環境施策の共有と管理を目指して、生産拠点を統合するマルチサイト認証を取得する予定です。

●環境マネジメントシステム認証取得状況(グループ企業含む)

| システム | 認証取得年月 | 名称 |
|-----------|----------|---------------|
| ISO14001 | 2000年 9月 | 横浜磯子事業場* |
| | 2003年 4月 | 堺事業場* |
| | 2003年12月 | 名古屋工場* |
| | 2004年 4月 | 水島工場* |
| | 2006年 6月 | 攝津製油(株) |
| エコアクション21 | 2007年 6月 | 陽興エンジニアリング(株) |

※4生産拠点

環境監査状況

各生産拠点では、環境マネジメントシステムに基づき、認証機関による「定期審査」の他、年2回の内部監査を実施しています。

●環境監査実績(4生産拠点)

(件)

| | 2006年度 | | 2007年度 | | 2008年度 | |
|----------|--------|------|--------|------|--------|------|
| | 改善指摘 | 改善提案 | 改善指摘 | 改善提案 | 改善指摘 | 改善提案 |
| 内部監査 | 26 | 67 | 31 | 69 | 19 | 90 |
| 定期審査(外部) | 2 | 24 | 0 | 21 | 0 | 31 |

環境教育の実施状況

当社では、本社・生産拠点にてさまざまな環境関連の教育、ならびに資格取得のための教育・支援を行っています。



省エネルギー勉強会

●2008年度に実施した主な環境教育(4生産拠点)

| 分類 | 実施内容 |
|-------|----------------|
| 一般教育 | 新入社員教育 |
| | 部門別教育 |
| ISO教育 | 環境マネジメントシステム教育 |
| | 内部監査員養成セミナー |
| 共通教育 | 省エネルギー勉強会 |
| | チームマイナス6%広報活動 |
| その他教育 | 粉塵爆発講習 |
| | 有機溶剤爆発講習 |
| | 廃棄物処理関連講習 |
| | 海上防除訓練 |

●環境関連資格保有者数(4生産拠点)

(名)

| | 2006年度 | 2007年度 | 2008年度 |
|------------------|--------|--------|--------|
| ボイラー技士 | 166 | 163 | 151 |
| ボイラー整備士 | 27 | 31 | 27 |
| ボイラー・タービン主任技術者 | 7 | 8 | 5 |
| 危険物取扱者 | 403 | 406 | 355 |
| 公害防止管理者(水質) | 34 | 35 | 35 |
| 公害防止管理者(大気) | 20 | 20 | 20 |
| エネルギー管理士 | 17 | 18 | 16 |
| 環境計量士 | 2 | 2 | 3 |
| 産業廃棄物中間処理施設技術管理者 | 5 | 4 | 4 |
| ISO14001内部監査員 | 146 | 133 | 150 |

環境目標と実績

環境負荷低減に向けた活動を全社的なものとするために、環境目標を部門別に設定し環境活動を推進しています。

●環境目標および評価

評価：○順調に進捗、△未達成・改善が必要

| テーマ | 担当部門 | 中長期環境目標 | 2008年度の実績 | 実績評価 | 2009年度の取り組み |
|------------|-------|--|---|------|---|
| 地球温暖化防止 | 生産 | ・生産工程の使用エネルギーについて、「CO ₂ 排出量原単位」を2010年までに88%に改善(1990年対比) | ・CO ₂ 排出量原単位：100.4% (1990年対比) →P72 | △ | ・CO ₂ 排出量削減のための年度目標策定および実行 |
| | | ・生産工程の使用エネルギーについて、「CO ₂ 総排出量」を2010年までに92%に改善(1990年対比) | ・CO ₂ 総排出量：93.3%(1990年対比) →P72 | ○ | ・CO ₂ 排出量削減のための年度目標策定および実行 |
| | 物流 | ・特定荷主としてエネルギー使用に係る原単位を5年間で5%以上削減 | ・原単位：99.1%(2007年度対比) →P74 | △ | ・改正省エネルギー法における目標への対応(輸送の大ロット化と積載率の向上など) |
| | | ・物流品質の向上→物流異常発生率100ppm以下(輸配送) | ・物流異常発生率58ppm →P75 | ○ | ・輸配送に携わる協力会社との連携強化 |
| 廃棄物の削減 | 生産 | ・2010年度までに、生産工程でのゼロエミッションを達成 | ・生産工程での再資源化率：99.4% →P79 | ○ | ・再資源化率の向上 ・最終処分量の低減 |
| 省資源 | 資材 | ・家庭用・業務用容器包装の減量化と減容化 | ・容器包装重量：3.7%削減(2007年度対比) ・1,300g扁平ボトルの軽減化 →P81 | ○ | ・容器包装リサイクル法(日本植物油協会自主行動計画)への取り組み推進 |
| 環境関連商品事業開発 | 開発 | ・副産物の有効利用、石油代替製品の開発など | ・エコリオ事業開発における取り組み →P18 | ○ | ・エコリオ事業開発の推進 |
| オフィス関連 | 事務・管理 | ・オフィスでの電気使用量を2010年度までに3%削減(2006年度対比) ・コピー用紙の使用量削減(ペーパーレス化、裏紙使用など) ・紙ゴミの削減(分別化、減量化など) | ・電気使用量：1.7%削減(2006年度対比) ・コピー用紙使用量：3.2%削減(前年度対比) ・紙ゴミ排出量：14.3%削減(前年度対比) →P76、77 | ○ | ・オフィス環境活動ガイドラインに基づく、活動継続 |

●環境マネジメントの基盤活動

| 推進内容 | 2008年度の取り組み内容 | 2009年度以降の取り組み |
|-------------|--|--|
| 環境マネジメント | ・ISO14001生産拠点マルチサイト構築 ・国内外グループ企業での環境基本方針の周知 | ・ISO14001生産拠点マルチサイト認証 ・国内外グループ全体の従業員への環境教育の実施拡大 |
| 環境コミュニケーション | ・CSR報告書の発行(2008年6月) ・コミュニケーションツールとして活用 | ・CSR報告書の継続発行 ・コミュニケーションツールとして用途拡大 |

植物のチカラ隊 海の再生活動(アマモ花枝採取)に参加

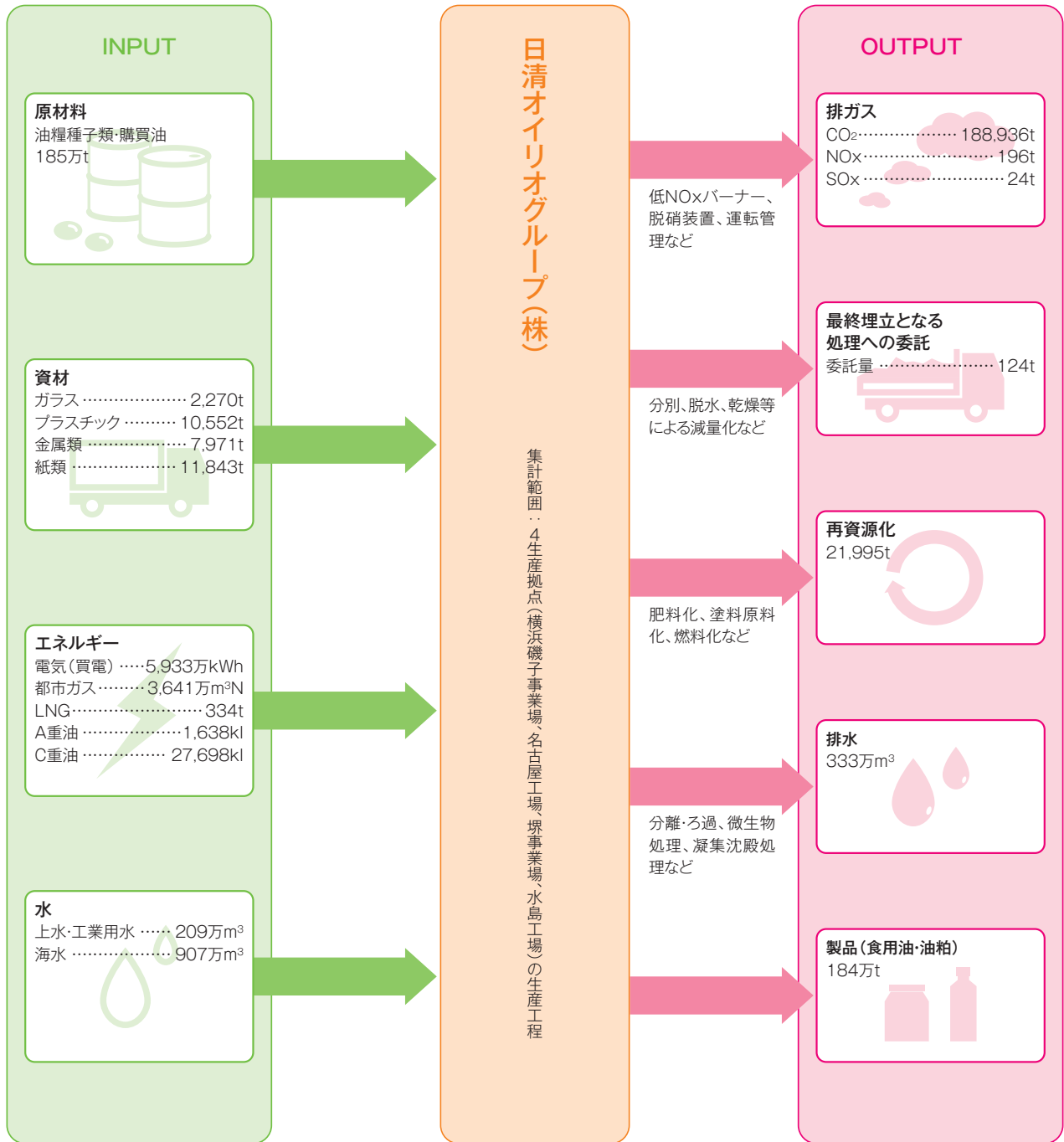
地域の自然環境保護活動の一環として、2008年6月に「金沢八景ー東京湾アマモ場再生会議」が主催する金沢八景・海の公園でのアマモ花枝採取活動に参加しました。アマモとは海の生物を育む他に富栄養化した海水の改善、光合成による酸素の供給など多様な役割を果たす大切な海草で、再生会議は金沢八景の海に海のゆりかごともいわれるアマモを再生する活動を行っている団体です。

当社から礒子区内の企業で環境活動を共同で行う「礒子環(たまき)会」に参加を働きかけ、この日は当社の「植物のチカラ隊」を含む7社8事業所の総勢35名が「礒子環会」として、新たにアマモを育てるために種子をもった花枝を採取しました。



製品ができるまで(2008年度)

製油関連商品の生産には多くの資源・エネルギーを消費し、また廃棄物が排出されます。私たちは、このデータを継続的に集計、基礎データとして活用し、環境負荷低減に取り組んでいます。



生産部門における環境負荷の状況

横浜磯子事業場

横浜磯子事業場は、6万5千トン級の大型外航船が接岸できるバース、11万トンの原料(大豆換算)を保管するサイロをもち、原料輸入・搾油・精製・充填・製品出荷までの一貫生産を行っています。また、ファインケミカル、大豆たん白などの事業部門を擁し、優れた技術で製品を作り出す生産機能と、自動化物流倉庫などの物流機能、新しい価値を生み出す開発機能などもあわせもつ複合事業体として進化し続けています。



| 項目 | | 2006年度 | 2007年度 | 2008年度 |
|------------------------------|---------------------|-----------|-----------|-----------|
| CO ₂ 排出量(t) | | 72,491 | 76,316 | 79,071 |
| 産業廃棄物(t) | | 8,766 | 7,955 | 6,260 |
| 最終埋立処分量(t) | | 12 | 26 | 14 |
| 再資源化率(%) | | 99.9 | 99.7 | 99.8 |
| 大気 | NO _x (t) | 67 | 73 | 78 |
| | SO _x (t) | 5 | 5 | 6 |
| 水使用量(上水・工水)(m ³) | | 1,139,152 | 1,101,480 | 1,045,826 |
| 排水 | COD(t) | 18 | 15 | 13 |
| | リン(t) | 0.2 | 0.2 | 0.2 |
| | 窒素(t) | 3 | 2 | 2 |

| | |
|----------|-----------------------|
| 所在地 | 神奈川県横浜市 |
| 敷地面積 | 233,000m ² |
| サイロ | 111,000t |
| 食用油充填ライン | 14ライン |
| 使用燃料 | 都市ガス |
| 廃棄物処理施設 | 焼却炉・脱水機(廃水処理場) |
| ばい煙発生施設 | ボイラー・ガスタービン・焼却炉 |
| 特定施設 | 洗浄施設・焼却施設・蒸留施設など |

名古屋工場

中部地区の生産拠点として名古屋工場は名古屋港の中央部に位置し、最大7万7千トンの大型外航船の接岸ができるバースを持ち、輸入原料の荷揚げから搾油・精製・充填・製品の出荷まで行っています。最新鋭の設備を駆使したラインは自動化され、優れた技術と厳しい品質管理のもと、高品質の製品を日夜送り出しています。



| 項目 | | 2006年度 | 2007年度 | 2008年度 |
|------------------------------|---------------------|---------|---------|---------|
| CO ₂ 排出量(t) | | 64,801 | 61,969 | 57,286 |
| 産業廃棄物(t) | | 5,543 | 4,278 | 4,387 |
| 最終埋立処分量(t) | | 41 | 54 | 32 |
| 再資源化率(%) | | 99.3 | 98.7 | 99.3 |
| 大気 | NO _x (t) | 70 | 65 | 59 |
| | SO _x (t) | 12 | 10 | 9 |
| 水使用量(上水・工水)(m ³) | | 567,308 | 538,417 | 496,519 |
| 排水 | COD(t) | 19 | 15 | 13 |
| | リン(t) | 0.6 | 0.9 | 0.6 |
| | 窒素(t) | 7 | 10 | 10 |

| | |
|----------|----------------------|
| 所在地 | 愛知県名古屋市 |
| 敷地面積 | 98,800m ² |
| サイロ | 74,500t |
| 食用油充填ライン | 9ライン |
| 使用燃料 | LNG、A重油、C重油 |
| ばい煙発生施設 | ボイラー・ディーゼル発電機など |
| 特定施設 | 排水処理装置 |

堺事業場

堺事業場は西日本地区の生産拠点として2万トン級バースを保有し内航船や外航船で運ばれてきた原料油などを受け入れています。近年は従来の油脂に加えパームなどの南方系油脂も増加しており、それらは事業場内のタンクに保管されます。原料油等は小ロットから大ロットまで最新の管理のもと、精製から充填・出荷までの一貫体制で各種製品をお客様にお届けしています。



| 項目 | | 2006年度 | 2007年度 | 2008年度 |
|--------------------------------|---------------------|--------|--------|--------|
| CO ₂ 排出量 (t) | | 9,266 | 9,254 | 7,965 |
| 産業廃棄物 (t) | | 8,529 | 7,304 | 6,838 |
| 最終埋立処分量 (t) | | 30 | 59 | 12 |
| 再資源化率 (%) | | 99.6 | 99.2 | 99.8 |
| 大気 | NO _x (t) | 0 | 5 | 4 |
| | SO _x (t) | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 水使用量 (上水・工水) (m ³) | | 93,251 | 96,548 | 90,867 |
| 排水 | COD (t) | 1 | 1 | 1 |
| | リン (t) | 0.2 | 0.0 | 0.0 |
| | 窒素 (t) | 0.0 | 0.3 | 0.5 |

| | |
|----------|----------------------|
| 所在地 | 大阪府堺市 |
| 敷地面積 | 39,700m ² |
| サイロ | なし |
| 食用油充填ライン | 11ライン |
| 使用燃料 | 都市ガス |
| 廃棄物処理施設 | 脱水機 (廃水処理場) |
| ばい煙発生施設 | ボイラー、ガスエンジン発電機 |
| 特定施設 | 洗浄施設・分離施設 |

水島工場

水島工場は瀬戸内海に面した倉敷市に立地し、6万5千トン級の大型外航船が接岸でき、原料輸入・搾油・精製・製品出荷までの一貫生産を行っています。優れた技術と厳しい品質管理のもと高品質の製品を生産するとともに、瀬戸内海の実環境保全に配慮したより厳しい法規制のもとで操業しています。また、搾油後の脱脂大豆は家畜用の配合飼料に、菜種油粕は配合飼料の他、肥料として西日本各地に出荷されています。



| 項目 | | 2006年度 | 2007年度 | 2008年度 |
|--------------------------------|---------------------|---------|---------|---------|
| CO ₂ 排出量 (t) | | 48,197 | 46,186 | 44,614 |
| 産業廃棄物 (t) | | 4,858 | 4,584 | 4,711 |
| 最終埋立処分量 (t) | | 101 | 68 | 65 |
| 再資源化率 (%) | | 97.9 | 98.5 | 98.6 |
| 大気 | NO _x (t) | 63 | 55 | 56 |
| | SO _x (t) | 16 | 17 | 9 |
| 水使用量 (上水・工水) (m ³) | | 486,988 | 474,023 | 457,411 |
| 排水 | COD (t) | 3 | 3 | 3 |
| | リン (t) | 0.1 | 0.1 | 0.1 |
| | 窒素 (t) | 1 | 1 | 1 |

| | |
|----------|-----------------------|
| 所在地 | 岡山県倉敷市 |
| 敷地面積 | 113,800m ² |
| サイロ | 54,340t |
| 食用油充填ライン | 3ライン |
| 使用燃料 | A重油、C重油 |
| 廃棄物処理施設 | 脱水機 (廃水処理場) |
| ばい煙発生施設 | ボイラー |
| 特定施設 | 洗浄施設・分離施設 |

地球温暖化防止の取り組み

エネルギー消費量の多い事業特性を認識し、地球温暖化ガス排出削減の取り組みを積極的に推進しています。

生産部門での地球温暖化防止

取り組み目標と実績

目標

- 生産工程の使用エネルギーについて「CO₂排出量原単位」を2010年までに1990年対比で88%に改善する。
- 生産工程の使用エネルギーについて「CO₂総排出量」を2010年までに1990年対比で92%に改善する。

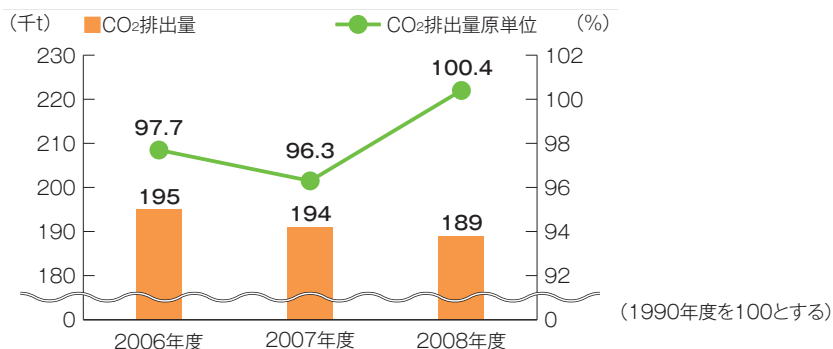
2008年度実績

CO₂排出量原単位：100.4%(1990年対比)

CO₂排出量は生産量の減少などにより、2008年度から約4.8千tの減少となりました。基準年度(1990年)からは13.5千t(93.3%)を削減しています。一方CO₂原単位は、原料品質の変動、製品構成の変化などにより、2008年度に比べ4.1ポイント増加しました。目標達成に向けた取り組みとして、生産拠点(水島工場)の燃料転換をはじめ、生産量に対応したさらなる効率的な設備運用を図っていきます。

2008年3月に閣議決定された「京都議定書目標達成計画」において原単位のみを目標指標にしている業種に対しCO₂排出量をあわせて目標化することを積極的に検討するように要請されました。これを受け、業界団体における「環境自主行動計画」の目標が改定され、CO₂排出量の削減目標が設定されています。当社としてもCO₂排出量を2010年度までに1990年対比92%に削減する目標を追加設定しました。

●CO₂排出量と原単位の推移



原単位計算の前提条件

- ※管理対象を生産工程(国内)とします。
- ※原単位の計算方法は、次の算式による。(日清オイリオグループの規定)

$$\text{CO}_2\text{排出量原単位 (t-CO}_2\text{/t)} = \frac{\text{[使用エネルギーのCO}_2\text{換算値]}}{\text{([原料処理量] + [精製原料油処理量])}}$$
 - 使用エネルギー：生産工程で使用するエネルギー
 - 原料処理量：抽出工程に投入する原料の量
 - 精製原料油処理量：精製工程以降に投入する中間製品油の量
 - CO₂換算値：各エネルギーをCO₂換算係数により換算して加算したもの
 - CO₂換算係数：「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン」(環境省)および「電気事業連合会の電気の使用に伴うCO₂排出係数」を使用
- ※生産工程でのエネルギー使用量については、製油事業以外のエネルギーも含めて原単位計算を行っています。今後、製油事業以外の寄与が大幅に増加した場合等では必要な修正を行います。

ボイラー燃料の転換(水島工場)

水島工場のCO₂排出量削減の取り組みとして、燃料にC重油を使用している自家発電用ボイラーを、小型LNG(液化天然ガス)貫流ボイラーに変更します。この自家発電用ボイラーは工場の生産工程に蒸気を送っています。ボイラーの設置工事は2009年4月にスタートしており、2009年12月に完成、2010年1月よりLNGで稼動する予定になっています。C重油からLNGに燃料転換することで、水島工場のCO₂排出量は大幅に削減でき、当社グループ全体のCO₂排出量も減少できます。今後はさらなるCO₂排出削減の取り組みとして、新エネルギー導入などの省エネルギーの取り組みを進めていきます。

地球温暖化対策の取組事例発表会(横浜磯子事業場)

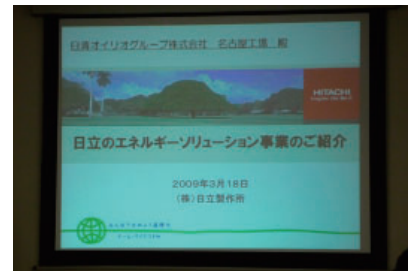
2009年2月、横浜市地球温暖化対策事業者協議会主催の『事業所における地球温暖化対策の取組事例発表会』に横浜磯子事業場が今まで取り組んできた省エネルギー活動を整理し、発表を行いました。当日は、事業場の燃料転換、ガスコージェネレーションシステム、コンベヤ関係の省エネルギーへの取り組み等の事例を紹介し、横浜市内に工場等のある37社の52名の方が熱心に聴講されました。



地球温暖化対策取組事例発表会

省エネルギー講演会(名古屋工場)

(株)日立製作所の協力で、日立のエネルギーソリューションと題し、名古屋工場で省エネルギー講演会を開催しました。日立グループの省エネルギーの取り組みから地球温暖化、法規制、ESCO事業等の講演をしていただき、今後の名古屋工場の省エネルギー活動の参考となりました。



省エネルギー講演会

2009年度の課題

- 中長期環境目標の策定
- 生産における稼動状況や製品品質の安定化への取り組み
- 省エネルギー改善の取り組み
- 生産拠点(名古屋工場)での燃料転換の検討

物流部門での取り組み

取り組み目標と実績

目標：改正省エネルギー法への対応

特定荷主としてエネルギーの使用に係る原単位を5年間で5%以上削減する。

2008年度実績

0.0125(前年度対比99.1%)

(エネルギーの使用に係る原単位=エネルギーの使用量/出荷重量t)

2008年度も前年度に引き続き、中日本での配送ネットワークの見直し、生産拠点の最適化等により、配送の効率化を図りました。

モーダルシフトの推進

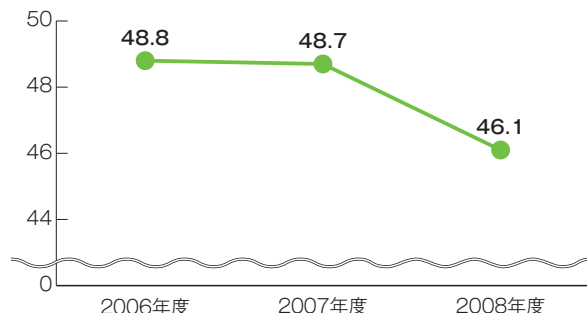
トラック輸送に比べCO₂排出量が少なく大量輸送が可能な鉄道や船舶に、輸配送の手段を切り替える「モーダルシフト」を推進しています。

食品パッケージ品について、2008年度の拠点間輸送でのモーダルシフト率は46.1%と2007年度より下がったものの、依然として高い水準を保ちました。

また、バルク油の拠点間輸送についてもモーダルシフト率97.2%と、前年度と同様の高い水準を維持しました。

●モーダルシフト率(食品パッケージ品)

(%)



エコレールマークの認定

「エコレールマーク」とは、(社)鉄道貨物協会が鉄道貨物輸送を一定割合以上利用している企業や商品であると認定するものです。日清オイリオグループは2005年9月に認定を受けています。



輸配送の効率化

配送ロット規定や納入先限定等の取引条件と連携した物流の標準化を進めています。小ロット配送をなくし、一配送当りの配送数量をまとめることにより、配送車両、納品回数の削減を進めています。ミニローリー車では、営業担当者との連携により、地域ごとの計画配送を行い、効率化を進めています。

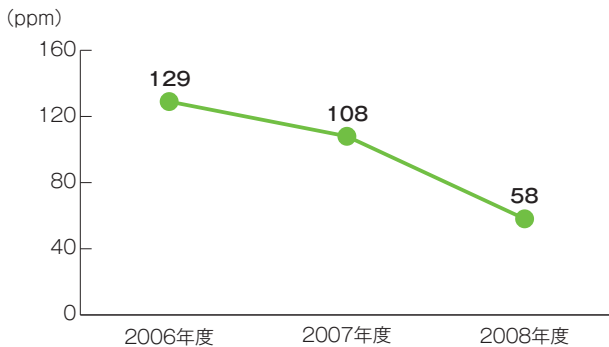
2008年度は、商品ごとに消費地に一番近い拠点での生産を推進し、消費と生産を連動させることで遠隔地配送を削減し、配送距離の短縮を進めました。

物流品質の向上への取り組み

再配送、緊急出荷等の非効率配送の発生原因となる誤納品、汚破損、延着などの物流異常の削減を推進しています。

2008年度は、輸配送に携わる協力会社と定期的に品質会議を開催するなどの取り組みを進めました。また、11月に誤納品防止全国キャンペーンを実施、期間中誤納品ゼロを達成しました。これらの施策により2008年度の物流異常発生率は58ppm(輸配送)と、前年に比べ大幅に改善しました。

●パッケージ商品物流異常発生率



※ppm:百万分の発生率(百万ケースあたりの異常発生率)



誤納品防止全国キャンペーンのツール

荷崩れ防止用の梱包材の導入

荷崩れ防止用に使用していた使い捨てフィルムに替えて、複数回使用可能なe-フィット帯を導入するなど、環境負荷低減の検討を進めています。



e-フィット帯

食品加工メーカー共同配送の実施

1995年からカゴメ、ミツカングループ、当社の食品メーカー3社による共同配送の検討を開始し、以下を目的に共同配送エリアを拡大しました。

- ・得意先様への配送時の物流品質・物流サービスの向上
- ・社会環境への貢献
- ・得意先様での荷受業務の効率化
- ・物流合理化によるコスト削減

現在の共同配送エリアは、東北、新潟、中国、四国、長野・山梨、北陸、滋賀、北海道、静岡で、全国の68%をカバーしています。

2009年度の課題

●環境負荷低減のための施策として

- ・輸送の大ロット化、積載率の向上
- ・生産拠点の見直しによる輸送距離削減
- ・共同配送エリア拡大

●物流品質向上のための施策として

- ・物流異常発生率60ppm以下を目標に、輸配送に携わる協力会社との連携強化

管理部門での環境活動

従業員一人ひとりの地道な活動を通じて、電気使用量、コピー用紙や紙ゴミの削減に努めています。

| 取り組み目標と実績 | |
|---|---|
| 電気使用量の削減 | 目標：2010年度までに、オフィス電気使用量を2006年度実績比3%削減 2008年度実績：1.7%削減(2006年度対比) |
| コピー用紙の削減 | 目標：帳票の見直し、電子化、データベース化、両面コピーの推奨などによる使用量の削減 2008年度実績：3.2%減少(前年度対比) |
| 紙ゴミの削減 | 目標：分別、減量化によるゴミ排出量の削減 2008年度実績：14.3%減少(前年度対比) |
| ※2008年度は、オフィス環境活動ガイドラインを制定し、推進活動と推進体制を具体化しました。今後の活動の視点として、「電気・水道使用量の削減」「廃棄物の削減」「グリーン購入の実践」「営業車の運行および管理」「環境教育・推進」等をあげました。この活動を通して、環境意識の向上や具体的な成果につなげていく予定です。 | |

電気使用量の削減

●活動内容：

- ・本社における空調の運転時間の短縮
- ・夏季における「クールビズ」、冬季における「空調温度設定」の実施
- ・電球を蛍光灯型電球に取り換えを開始
- ・環境への意識を高める「家庭の省エネ講座」((財)省エネルギーセンター、(社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会講師派遣)開催



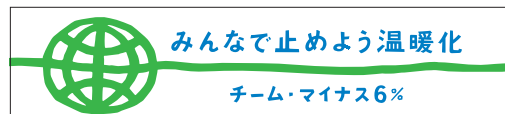
家庭の省エネ講座

●実績と評価：

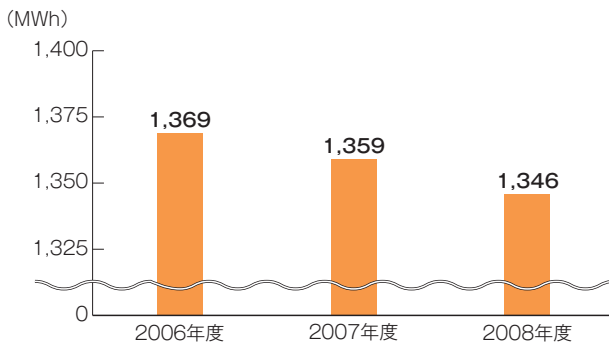
CO₂の主な排出原因である電気使用量は、2006年度対比で1.7%削減することができました。

チーム・マイナス6%

2006年度より、当社は政府が推進する地球温暖化に向けた国民的プロジェクト「チーム・マイナス6%」に参加しています。このプロジェクトに参加することで、従業員の環境意識向上や企業として環境保全活動へ取り組む姿勢をより明確にしていきます。



●オフィスの電気使用量



※対象となるのは、本社および札幌、仙台、関東信越、東京、名古屋、大阪、広島、福岡の8支店です。

低公害車の導入推進

当社が全国で使用している営業車は、約8割が低排出ガス認定車（排出ガス中の有害物質を50%以上低減させた自動車）です。また、ハイブリッド車の導入など、営業部門における環境への取り組みを積極的にすすめています。

コピー用紙使用量の削減

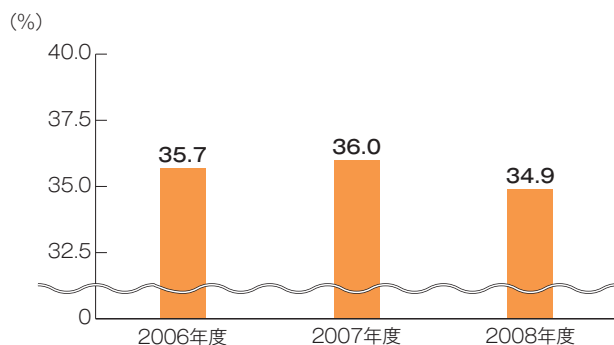
●活動内容：

- ・ 会議資料・保管資料などの両面コピーの徹底
- ・ 従業員への両面印刷・割付印刷方法の周知徹底
- ・ 電子化・データベース化によるペーパーレス推奨

●実績と評価：

2008年度のコピー用紙使用量は前年度対比3.2%の減少となりました。

●コピー用紙の使用量



※対象となるのは、本社および札幌、仙台、関東信越、東京、名古屋、大阪、広島、福岡の8支店です。

紙ゴミの削減

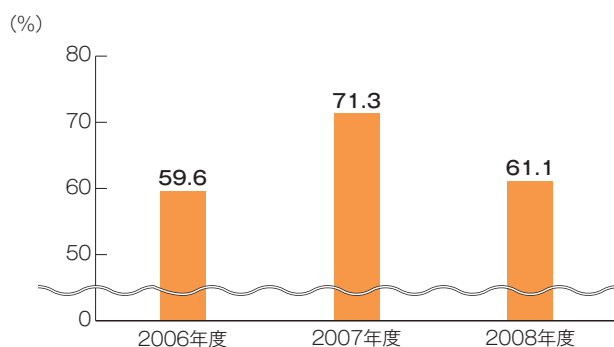
●活動内容：

- ・ 紙ゴミをコピー用紙、トイレトペーパー、段ボールに再生する、紙資源リサイクルを徹底
- ・ カタログ・冊子類の適正在庫管理による廃棄物削減
- ・ 本社におけるマイカップ使用推奨による紙コップの使用削減

●実績と評価：

2008年度の紙ゴミの排出量は前年度に比べ14.3%の減少となりました。

●紙ゴミの排出量



※対象となるのは、本社および札幌、仙台、関東信越、東京、名古屋、大阪、広島、福岡の8支店です。

グリーン購入

オフィスで使う文具・事務機器を購入する際に、環境負荷ができるだけ少ないものを選択する、グリーン購入を積極的に進めています。

環境への負荷が少ない製品やサービスの優先的購入を進める全国ネットワーク「グリーン購入ネットワーク」に参加しています。



「日清オイリオグループ株式会社はグリーン購入ネットワークの会員です」

2009年度の課題

- 「オフィス環境活動ガイドライン」に基づく改善活動
- オフィス全部門の環境パフォーマンスデータの正確な把握
- 電気使用量・紙ゴミ・水道使用量の継続的な削減

廃棄物削減の取り組み

取り組み目標と実績

目標：2010年までに生産工程でゼロエミッションを達成する。

2008年度実績：廃棄物再資源化率99.4%

日清オイリオグループのゼロエミッションの前提条件

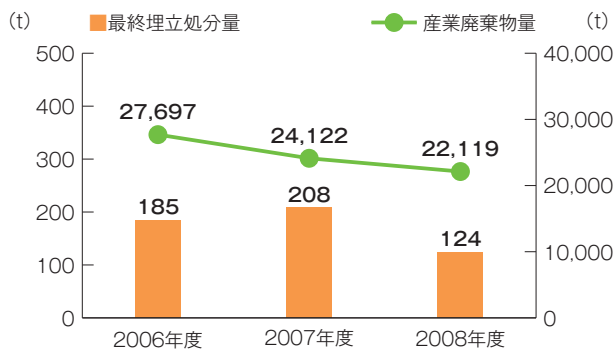
- ・ 管理対象 : 生産工程（国内）
- ・ ゼロエミッションの定義：最終埋立処分量が1%未満
- ・ 対象とする廃棄物 : 通常の生産活動およびメンテナンスなどで発生する廃棄物

2008年度の再資源化率は、99.4%と目標達成を継続しています。

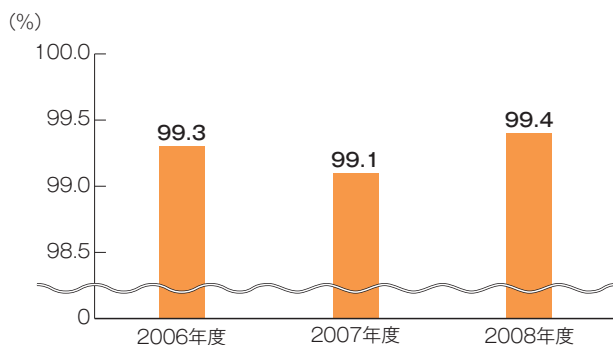
生産部門での2008年度取り組み

省資源 (Reduce)、再使用 (Reuse)、再資源化 (Recycle) の3Rによるゼロエミッションを継続するため工夫を重ねています。

● 産業廃棄物量と最終埋立処分量



● 廃棄物再資源化率



一般廃棄物の分別徹底(水島工場)

水島工場内の一般廃棄物の量は1日当たり平均150~200kgあり、多い日には500kg搬出していました。2008年4月に発足した産業廃棄物対策チームでは、このことを課題の一つとし、一般廃棄物の削減に取り組みました。

清掃の際に出た紙ゴミ類の徹底した分別管理の実施と、21ヵ所設置していたゴミ集積所を1ヵ所に集約することで、一般廃棄物の排出量は半分以下に減少しました。

使用するゴミ集積所を明るいイメージにするため、名称を全従業員から募集し『ECOボックス』に決定、運用しています。

『ECOボックス』では一般廃棄物、廃プラスチック、ペットボトル、木片、ウエス等に分別し、職場ごとの搬出量管理をしています。

今後、『ECOボックス』で分別した廃プラスチック、ペットボトルを再資源化し、工場から出る廃棄物を限りなくゼロに近づけます。



『ECOボックス』(水島工場)

以下の取り組みについては、継続的に推進しています。

廃棄物削減

- ・ 廃水処理場から発生する汚泥を脱水機や乾燥機により減量化（4生産拠点）
- ・ 廃油や可燃廃棄物を廃熱回収型焼却炉で焼却、減量化（横浜磯子事業場）

※焼却炉から発生するダイオキシン類については、法規制に従い管理し、問題がないことを確認しています。

廃棄物再資源化

- ・ 汚泥を肥料化し、肥料登録を実施（横浜磯子事業場）
- ・ 廃白土の肥料化（4生産拠点）
- ・ 廃プラスチックを焼却せずに分別・減容圧縮し、固形燃料化するサーマルリサイクル（横浜磯子事業場）

日清オイリオグループ(株)本社と横浜磯子事業場は、(社)産業環境管理協会の「廃棄物・リサイクルガバナンス事業」に登録しています。この事業は廃棄物・リサイクルガバナンスの構築へ向け社内体制を整備している企業を登録するものです。

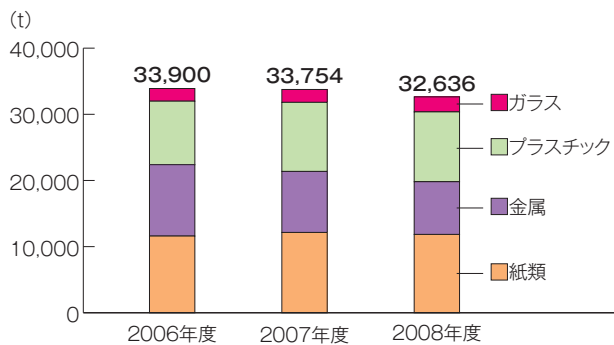


容器包装リサイクル法の改正に伴うプラスチック容器の減量化

(社)日本植物油協会において、「植物油製造業における容器包装3R推進のための自主行動計画」が策定され、2010年度までにプラスチック製の主力容器の重量を2004年度対比で1本当たり1.5~2%削減することを目標に掲げています。

この目標に基づき、当社では1,300g扁平ボトルを2009年4月より1本当たり76gから72gに3.7%減量化しました。今後もさらなる減量化を図り、包装資材の削減に取り組んでいきます。

● 容器包装重量の推移



※4生産拠点に投入した容器包装資材の重量を合計しています。委託製造分は含んでいません。

2009年度の課題

- 生産工程におけるゼロエミッション達成の継続
- 徹底した廃棄物の削減・分別
- 有用な廃棄物の再資源化方法の検討

環境リスクマネジメント

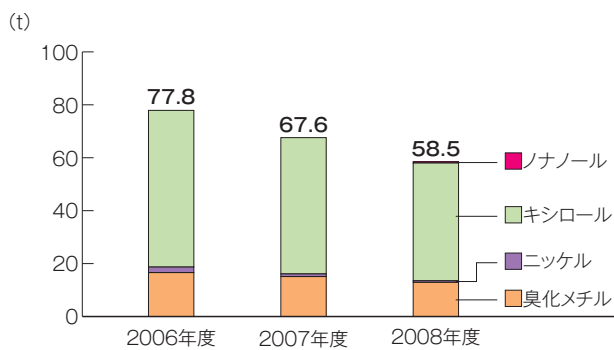
環境リスクマネジメントに取り組み、環境法令の遵守、環境事故の未然防止に努めています。

化学物質の管理

各生産拠点で使用する化学物質については、法規制に基づいて適正な管理を行っており、購入量と使用量の管理を徹底しています。各生産拠点で扱うPRTR法*第一種指定化学物質の排出量・移動量は以下の通りです。また、PCBについても保管場所を決め、適正な管理を実施しています。

*PRTR(Pollutant Release and Transfer Register) : 有害性のある多種多様な化学物質の移動に関するデータを把握・集計・公表する仕組み。対象化学物質を製造、使用している事業者は、環境中に排出した量と、廃棄物として処理するために事業所の外へ移動させた量とを自ら把握し、行政機関へ年に1回届け出ます。

●化学物質排出量・移動量



※ノナノール(原料:工業製品)

キシロール(溶媒:工業製品)

ニッケル(触媒:油脂水添)

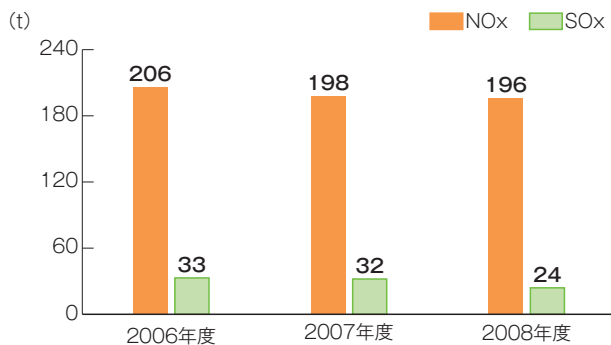
臭化メチル(原料くん蒸:植物防疫法)

※PRTR法第一種指定化学物質で、各生産拠点(国内)で1事業所での年間取扱量が1t以上の物質について掲載

大気汚染物質の管理

各生産拠点では、ボイラー排出ガスのO₂を管理し、低酸素燃焼させることや低NO_xバーナーの採用などにより、NO_xの低減を図っています。また、大気汚染物質を常時監視して環境基準値を遵守しています。

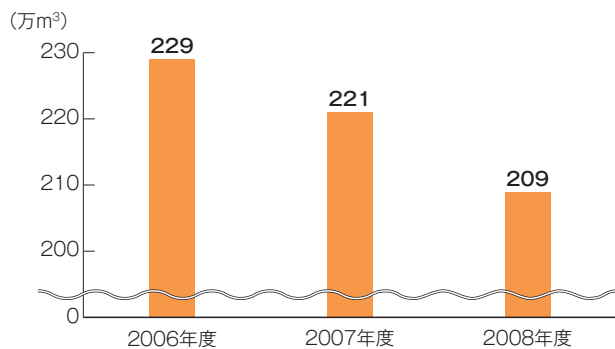
●NO_x、SO_x排出量の推移



水質汚濁物質の管理

各生産拠点において、関連法規制を踏まえて排水処理設備の維持管理を徹底しています。また、窒素・リンなどの水質汚染物質については、連続監視装置を設置し、場外に排水されることがないように常時監視しています。

●水使用量(上水・工業用水)の推移



法令違反・お問い合わせの状況

各生産拠点では、大気・水質汚染物質の常時監視や土壌サンプル採取による土壌汚染監視などを実施しています。2008年度は、これらに関する法令違反はありませんでした。

また、各生産拠点への環境に関するお問い合わせは、2008年度は8件でした。いただいた情報をもとにそのつど迅速な対応を行い、さらに対策についてもご説明しています。

2009年度の課題

- ISO14001 マルチサイト構築において管理方針の共有化
- 法令遵守、利害関係者とのコミュニケーション強化
- 汚染物質の削減

環境関連投資・費用・効果(環境会計)

環境会計について

環境に対する投資・費用やその効果を集計し、情報公開を行うとともに、当社の環境への各種施策の効果測定を行うことが重要であるとの考えから、環境会計を行っています。今後、社会的基準の確立をにらみながら、当社の基準の修正を行うとともに、環境効果把握とコストバランス評価を行い、効果的な環境施策の実施につなげていく予定です。

●環境保全コスト

(百万円)

| 環境保全コスト分類 | | 投資額 | | 費用額 | |
|--------------|--|--------|--------|--------|--------|
| 分類 | 主な取り組みの内容およびその効果 | 2007年度 | 2008年度 | 2007年度 | 2008年度 |
| 1. 事業エリア内コスト | | 129 | 204 | 1,089 | 1,024 |
| ①公害防止コスト | 大気汚染防止/水質汚濁防止/悪臭防止 | 70 | 71 | 507 | 506 |
| ②地球環境保全コスト | 温暖化防止/オゾン層破壊防止/省エネルギー | 29 | 63 | 185 | 165 |
| ③資源循環コスト | 産業廃棄物の減量化、削減、処理、処分/事業系一般廃棄物の減量化/削減、処理、処分 | 30 | 70 | 397 | 353 |
| 2. 上・下流コスト | 容器・包装等のリサイクル・回収・再商品化/製品等の設計変更 | — | — | 314 | 232 |
| 3. 管理活動コスト | 社員への環境教育/ISO14001プロジェクト/環境対策の件数 | — | — | 130 | 116 |
| 4. 研究開発コスト | 環境保全に資する製品等の研究/開発に関わる件数 | — | — | 55 | 54 |
| 5. 社会活動コスト | 事業所内および周辺の緑化、美化、景観等の環境改善対策 | — | 2 | — | 0 |
| 6. 環境損傷対応コスト | | — | — | 11 | 10 |
| 合計 | | 129 | 206 | 1,599 | 1,436 |

※環境保全対策に伴う省エネルギーによるエネルギー費用の節減の総額は1億61百万円

※集計の前提条件 ・集計値は各年度(4月～3月)の実績

・費用分類は「環境会計ガイドライン(2005年度版)」に準拠

・環境関連として確実な投資や費用(他の要素はほとんど含まず)の範囲に限定

●エネルギー使用量低減効果

| 推進内容 | 単位 | 2007年度 | 2008年度 | 増減 | 前年度比(%) |
|-------------------|-------------------|---------|---------|--------|---------|
| 電気(買電分) | 万kWh | 6,017 | 5,933 | ▲84 | 98.6 |
| A重油 | kl | 2,280 | 1,638 | ▲643 | 71.8 |
| C重油 | kl | 28,985 | 27,698 | ▲1,287 | 95.6 |
| LNG | t | 275 | 334 | 58 | 121.2 |
| 都市ガス | 万m ³ N | 3,594 | 3,640 | 46 | 101.3 |
| 換算CO ₂ | t | 193,724 | 188,936 | ▲4,789 | 97.5 |

●廃棄物排出低減効果

| | 単位 | 2007年度 | 2008年度 | 増減 | 前年度比(%) |
|------------------|----|--------|--------|-----|---------|
| 廃棄物等の排出(最終埋立処分量) | t | 208 | 124 | ▲84 | 59.4 |

●環境投資による経済的効果

| 環境保全対策に伴う経済効果 | | |
|---------------|--------------------|---------|
| 費用節減 | 効果の内容 | 金額(百万円) |
| | 省エネルギーによるエネルギー費の節減 | 161 |

※数値はすべて横浜磯子事業場、名古屋工場、堺事業場、水島工場の合算値

※「廃棄物等の排出」は産業廃棄物および特管物の発生量より再生分を差し引き、最終的に埋め立て処分を行った数量

※「省エネルギーによるエネルギー費の節減」の金額は「エネルギー使用量低減効果」における各エネルギーの使用量削減に基づいた節減額

第三者意見

2009年度は、経営基本構想「GROWTH 10」のフェーズⅠ（4カ年）が半分経過したところで、この間の成果を確認し、そしてフェーズⅡに向けてどのような方向を目指すのかを考える年であろう。日清オイリオグループでは、2007年にCSRへの本格的な取り組みがスタートし、これまでの各部署における取り組みにヨコ串をさし見直していくという作業が試みられている。もちろんCSR経営への取り組みが一朝一夕にできるわけではなく、時間をかけながら、社内に浸透させていく努力が必要である。基本的なコンプライアンス、リスク管理対応をベースに、CSRへの取り組みが事業活動の強みにつながっていくことが期待される。

ところで、昨年の報告書で私は、「各事業部、各ラインにおけるステイクホルダーの捉え方や、CSRの理解・取り組み度合いは様々であり、まだ浸透、統一されていないわけではない。またステイクホルダーからの期待に応えるということについても、社内・外からの声をどのように収集し、とりまとめ、マネジメントに組み込んでいくか、全社的なシステムづくりは今後の課題となる」と書いた。

この1年間CSR推進室がリードしながら、そういった方向への取り組みはなされつつある。各部門においてキーになるステイクホルダーは何で、どのような取り組みがなされているか、また今後何をなすべきかが社内でもとめられているが、部門による理解や取り組み度合いはまだ様々である。各部門においてそれぞれの日常の業務の中にCSRをいかに組み込み浸透させていくか、継続的な試みが必要である。そのためにはトップマネジメントレベルでの理解と強いリーダーシップと同時に、ミドルマネジメントから現場レベル（各事業レベル）での理解と具体的な取り組みが求められる。本年から各職場に推進リーダーを置き、彼らが核になりながら、行動規範や品質・環境などについて語り合うような取り組みも始まっている。こういった地道な活動をベースにしながら、時間をかけて取り組んでいくことが大切であろう。そのためにも、そこが基点となるような位置づけを社内ですっかり確認しておく必要がある。さらにこういった活動をグループ会社全体に広げていく必要があり、その展開は今後の大きな課題である。基本的なコンプライアンス、リスク管理にしても、グループ全体としての取り組み体制を充実させ、システム化していくことが、高いプライオリティをもって求められよう。

報告書の開示方法に関しては、今年度から紙ベースのものを縮小しダイジェスト版とし、ウェブベースのものを詳細版として区分けしている。ただ開示方法と内容についてはいくつか課題があると思われる。

まずダイジェスト版においては、ステイクホルダー毎にまとめられてはいるが、何が前年度の重要テーマであったのか、それにどのように取り組んできたか、そのポイントをもう少し明確に示されることを期待したい。また詳細版では一部の事例やデータがプラスされるにとどまっており、必ずしも詳細な情報開示や分析・評価なりがなされているわけではない。各ステイクホルダーに対して、どのような取り組みがなされてきたのか、もう少し開示の工夫ができるのではないだろうか。例えば、従業員については、人事制度の紹介にとどまらずその取り組み内容やキャリア支援やワークライフバランスへの取り組み現状や実績を、社会貢献活動については、主な活動の成果や評価について、もう少し詳しく示すことができると思われる。

「CSR活動の状況報告」については、私は昨年度の報告書に次のように書いている。「本年度の実績から次年度の課題への流れが明確ではない。（中略）さらにそれぞれのテーマにおいてステイクホルダーからの期待は何であるか、1年間の活動実績をどう評価するのか、その上で次年度の課題をどう設定したのか、こういった点は明示されているわけではなかった」と。

今年度はそのあたりをウェブの詳細版において、前年度の課題への取り組み実績を示し、自己評価を行うなど、昨年より詳しく示されている。継続的にこのスタイルで整理、開示し、少しずつ充実していくことを期待したい。さらに今後、ステイクホルダーがそれぞれのテーマにおいて日清オイリオグループに何を求めているのか、それにいかに応えていくのかといった点を明示していくことも期待したい。



一橋大学大学院
商学研究科 教授（経営学博士）
谷本 寛治氏

読者アンケート

「日清オイリオグループ CSR報告書2009 ー詳細版ー」をご覧いただきありがとうございます。

当社グループのCSR活動およびCSR報告書を継続的に改善していくために、皆様のご意見・ご感想をいただけますようお願い申し上げます。

Q1. 本報告書をどのような立場でお読みになりましたか？

- お客様 お取引先 株主・投資家 事業所近隣住民 行政機関 金融機関 企業・団体のCSRご担当
 NPO・NGO 報道機関 当社グループの従業員・そのご家族 学生
 その他

Q2. 本報告書のなかで、とくに印象に残った項目、関心を持たれた項目はどれですか？(複数回答可)

- | | | |
|--|---|--|
| <input type="checkbox"/> 編集方針 | <input type="checkbox"/> 会社概要 | <input type="checkbox"/> トップコミットメント |
| <input type="checkbox"/> 特集 “植物のチカラ” | <input type="checkbox"/> 日清オイリオグループのCSR | <input type="checkbox"/> 日清オイリオグループのCSR活動の状況 |
| <input type="checkbox"/> CSRを支える基盤 | <input type="checkbox"/> お客様のために | <input type="checkbox"/> 取引先様とともに |
| <input type="checkbox"/> 株主・投資家の皆様とともに | <input type="checkbox"/> 従業員とともに | <input type="checkbox"/> 社会のために |
| <input type="checkbox"/> 環境マネジメント推進体制 | <input type="checkbox"/> 環境目標と実績 | <input type="checkbox"/> 製品ができるまで |
| <input type="checkbox"/> 生産部門における環境負荷の状況 | <input type="checkbox"/> 地球温暖化防止の取り組み | <input type="checkbox"/> 廃棄物削減の取り組み |
| <input type="checkbox"/> 環境リスクマネジメント | <input type="checkbox"/> 環境会計 | <input type="checkbox"/> 第三者意見 |

Q3. 本報告書をお読みいただいた感想をお聞かせください。

- | | | | | | |
|--|------------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| ●わかりやすさ(内容) | <input type="checkbox"/> とてもわかりやすい | <input type="checkbox"/> わかりやすい | <input type="checkbox"/> ふつう | <input type="checkbox"/> わかりにくい | <input type="checkbox"/> とてもわかりにくい |
| ●内容の充実度(情報の量) | <input type="checkbox"/> 多すぎる | <input type="checkbox"/> 充実している | <input type="checkbox"/> ふつう | <input type="checkbox"/> やや不足している | <input type="checkbox"/> 少なすぎる |
| ●読みやすさ(デザインなど) | <input type="checkbox"/> とても読みやすい | <input type="checkbox"/> 読みやすい | <input type="checkbox"/> ふつう | <input type="checkbox"/> やや読みにくい | <input type="checkbox"/> 読みにくい |
| ●当社グループのCSR活動について | <input type="checkbox"/> 十分評価できる | <input type="checkbox"/> 評価できる | <input type="checkbox"/> ふつう | <input type="checkbox"/> あまり評価できない | <input type="checkbox"/> 評価できない |
| ●(前回お読みになられた方にお伺いします)前年度のCSR報告書2008と比べての全体的な評価 | <input type="checkbox"/> とてもよくなった | <input type="checkbox"/> よくなった | <input type="checkbox"/> 変わらない | <input type="checkbox"/> やや悪くなった | <input type="checkbox"/> 悪くなった |

Q4. 冊子版と詳細版(ホームページ)の2つの媒体による情報開示の方法についてお聞かせください。

- 冊子版と詳細版(ホームページ)の両方が好ましい 冊子版のみが好ましい 詳細版(ホームページ)のみが好ましい
 その他

Q5. 報告書全体についてご意見・ご要望がございましたらお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。お差し支えがなければ、下記にもご記入ください。

| | |
|-------|---|
| お名前 | ご職業(勤務先・学校名) |
| ご住所 〒 | 次年度の送付を希望する <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |

ご提供いただいた個人情報は、CSR活動およびCSR報告書作成を改善するため、またご希望により本報告書を送付するために参照され、その情報が保持されるよう当社CSR推進室にて管理いたします。また、個人情報の開示や訂正・削除のお申し出をいただいた場合は、速やかに対応いたします。

FAX:03-3206-6456

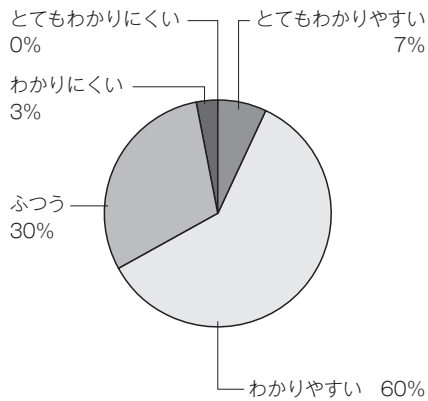
日清オイリオグループ株式会社 CSR推進室

CSR報告書2008 アンケート集計結果

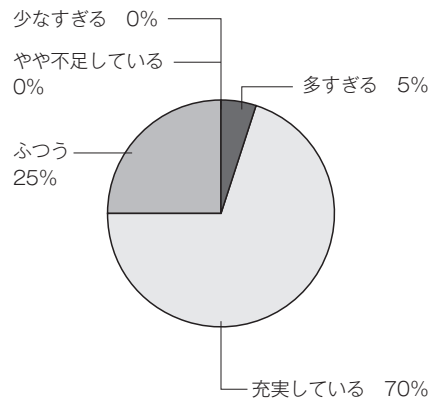
2008年6月に発行した「CSR報告書2008」に対して、多くの皆様からご意見・ご感想をいただき、誠にありがとうございました。
アンケート結果について、ご報告いたします。

本報告書をお読みいただいた感想

●わかりやすさ(内容)

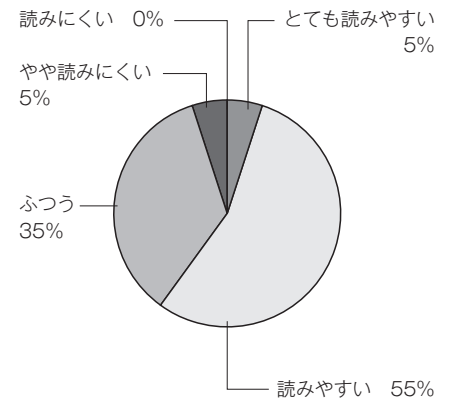


●内容の充実度(情報の量)

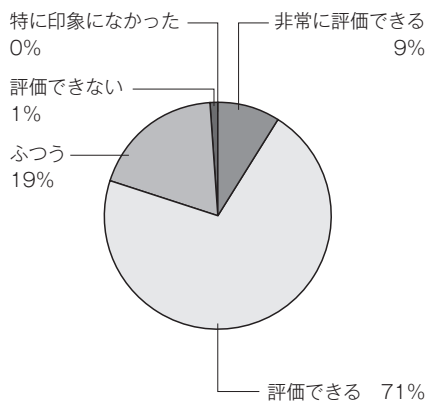


●読みやすさ

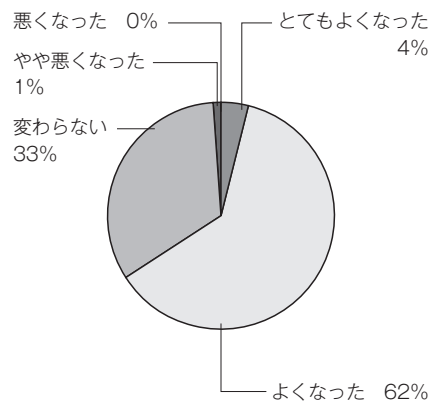
(デザイン、レイアウト、文字の大きさ、写真、表など)



●当社のCSR活動について



●前年度の報告書と比べての全体的な評価



印象に残った項目、関心を持たれた上位項目(複数回答)

1. 廃棄物削減の取り組み
2. 地球温暖化防止の取り組み
3. お客様とともに
4. CSRの基本方針
5. CSR活動の状況